

令和5年度 高島市立学校 学校評価

マキノ東小学校		1
マキノ西小学校		2
マキノ南小学校		3
マキノ中学校		4
今津東小学校		5
今津北小学校		6
今津中学校		7
朽木東小学校		8
朽木西小学校		9
朽木中学校		10
安曇小学校		11
青柳小学校		12
本庄小学校		13
安曇川中学校		14
高島小学校		15
高島中学校		16
新旭南小学校		17
新旭北小学校		18
湖西中学校		19

令和5年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

学校 教育 目標	ふるさとを愛し 心身ともに健康で 自ら学びに挑戦する人の育成 【めざす子ども像】 ○自ら考え表現する人 ○人を大切にする人 ○挑戦する人	昨年度 の 評価 概要	・「マ東漢字検定」「予習復習ノート」の実施による学習習慣の確立と学習意欲の向上 A ・読書環境の充実と読書活動への意欲の喚起（図書室の整備と蔵書の充実） B ・互いの思いを出し合える集団づくりに向けた継続的な実践 A ・主体的、対話的な学習に向けた道徳科を中心とした授業改善 A ・意見交流や情報収集・共有のためのツールとしての日常的なタブレット利用 A ・あいさつの習慣形成、いじめ撲滅に向けた児童の主体的な取組の展開 A ・地域とともに進める自然教室の実施と各学年における地域学習の充実 A ・適正なスクリーンとの接触についての理解促進 B ・学校運営協議会や地域学校協働活動等のリンクの強化 B	中期的 目標	○自分で考え、それを表現する力の伸長 ○町内他校間と連携した道徳を核とした授業改善の推進 ○家庭、地域とともに学校づくりを進めるパートナーシップの構築 ○自然や地域を素材とした学びの深化 ○主体性を育て、生き方を学ぶ教育の推進 ○「いじめ」「不登校」のない安心、安全な学校づくり ○教職員の授業力・指導力・課題対応力向上
----------------	---	----------------------	--	-----------	--

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評価	改善方策	学校関係者評価	
■学びの基礎基本の徹底 ・学習規律の徹底 ・読書環境の充実と読書の奨励 ・マ東検定や予復ノートの実施による学習習慣の定着	①『マ東漢字検定』『予習復習ノート』の実施による学習習慣の確立と学習意欲の向上 ②家庭学習は、「読書、宿題、予習・復習」を合わせて、1年20分、2年30分、3年45分、4～6年60分以上【目標90%以上】 ③読書貯金の実施、家読（週末読書）の取組【Q「読書貯金の目標達成に向けて頑張っている」目標90%以上】	①②【児童Q：「予復ノートに自分で頑張って取り組んでいる」74%、保護者Q：「お子さんは、家で学年のめやすの時間以上、家庭学習をしている」83%、職員Q：「家庭学習（宿題・自主学習）の習慣が定着してきている。」86%】 「マ東検定と「予復ノート」の取組については、全学年に定着している。ただ、「予復ノート」については、定着していることによりマンネリ化してしまっているのではないかと思います。家庭学習の時間については、目標に達しないものの高い数値になっている。 ③【児童Q：「朝読書の時間は8時15分から静かに本を読んでいる。」84% 保護者Q：「お子さんは家で一週間のうち（土日も含む）、10分以上は読書をしている。（ただし、漫画・雑誌・教科書・参考書等は除く）」38% 教師Q：「児童は読書活動に積極的に取り組んでいる。」78%】 朝読書については、定着が図られているため、熱心に読書をしている児童は多い。朝の読み聞かせやブックトークを行ったり、原画を活用した読み聞かせを開催したりしている。また、今年度から中学生による読み聞かせも実施しているが、読書が習慣化している児童が依然少ない。	B A A	◆「予習復習ノート」を導入し5年が経過した。今後も、工夫した児童のノートを紹介したり、担任が児童一人ひとりに助言をしたりするなど、自分で考え学習に挑む姿勢を高めていきたい。また、学習の大切さについて発達段階に応じて考えさせながら、家庭学習の充実を図る。 ◆朝の15分間はどの学級も全員が着席し、静かに読書に集中する時間にする。よい本との出会いのため、読み聞かせやブックトークを充実させたい。 ◆児童の興味関心を高める一助として、中学生による読み聞かせや小学校児童による読み聞かせにも取り組みたい。	・予習復習ノートは、良い取り組みであり、習慣化している。中学生になってもそれが根付いており自分で学習できている。 ・本に興味が湧くような取り組みをさせていただいているが、良いものを見せる機会をとると良い。 ・読書に関しては、長い話を読み切ることができるようになってほしい。 ・家庭学習の習慣化は家庭にも責任があるので、保護者への啓発をもっとして欲しい。 ・漫画をだめにするのではなく、漫画から入って段階をふんでよりよい本につなげていけると良い。 ・一人一台端末になっているので、電子書籍などのアプリを入れると良いと思う。 ・子どもたちの生活については学校と家庭の連携は不可欠で切り離せないところはあると思うが、指標については、学校の役割と家庭の役割についてでは異なってくるのではないかと考える。学校の役割からすると朝読書やブックトークなどのきかけづくりをしていただいているという点では評価は上がるのではないと思う。 ・家庭では学校でのきかけづくりをうまく家庭学習等につなげられたかどうかを評価していただくと良いのではと思う。今年度、高い数値になっているのであれば評価をあげても良いと思う。	
	■子どもをつなぐ学びの創造 ・相手の話を聴き反応できる態度の育成 ・道徳教育の要としての道徳の時間の更なる充実 ・生徒指導の3機能を具現化した学習活動の展開	①互いの思いを出し合える集団づくりに向けた継続的な実践【Q「授業中進んで発表したり話し合いに参加したりしている」目標90%以上】 ②主体的、対話的な学習に向けた道徳科を中心とした授業改善【Q「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」目標90%以上】 ③タブレットの日常的活用	①【児童Q：「授業中進んで発表したり話し合いに参加したりしている」80%】【教師Q：児童は、授業中に相手の意見に対して態度で反応できている。」100%】 一年間をとおして、「話す、聴く、つながる」を全学年でいろいろな教科で実践してきた。また、今年度は「マ東討論タイム」を5回実施し、ふだん意見を聴くことができない異学年の児童の発言を聞き、多様な考えを聴く機会とすることができた。 ②【児童Q：「道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか」84%】 昨年度は、マキノ町内4校合同で「新しい自分に出会う「特別な教科 道徳」の在り方」を研究テーマに授業改善に取り組んできた。引き続き今年度もマキノ南小学校と連携し、道徳科の授業改善に取り組んできた。この取り組みにより、教職員の意識が対話型の学習へと転換しつつある。さらに、児童にとっても自分の考えを広げたり、深めたりすることにつながっている。 ③一人一台端末になり、3年が経過した。担任の意識も少しずつ変化し、日常的な活用が図れるようになってきている。宿題提出、家庭でのドリル学習、ネット通信による調べ学習等、使用頻度や使用する場面が増え、日常的な学習ツールとして定着しつつある。	A B B	◆引き続き「話す、聴く、つながる」を意識した授業づくりに全職員で取り組む。職員が他学年の授業を参観しながら、同僚間で刺激し合い、授業改善に取り組む。 ◆令和3・4年度の2年間研究を重ねた道徳科の授業を改善し、児童の学びや育ちを培うことができた。次年度以降もマキノ地区の小中学校との連携を深め、児童が多様な意見を取り入れ、自分自身の考えを広めたり、深めたりできるようにしていく。 ◆学習ツールとしてのタブレット端末の効果的な実践例を職員間で共有し、児童の学びを確かにするための指導法を共通認識し系統的な活用につなげる。	・「話す」「聴く」「つながる」を意識した授業づくりでは、いろいろ工夫していただいていると思うが、特にグループワークが参考になると考えていて、ロールプレイングなども取り入れていただくと良いと思う。 ・「授業中進んで発表したり話し合いに参加したりしている」の評価が80%あるというのがすごいことだと思う。残りの20%の児童への対応、今後の工夫に期待する。 ・道徳の学習でゲストティーチャーとして参加させていただいたが、不思議だと思うことをたくさん聞いてくれたのには驚いた。また、1年生で質問のしかたがすごく上手だと思った。 ・「児童は授業中に相手の意見に対して態度で反応している」の評価が100%になっていることは驚きで、いろいろなことが実を結んでいるのだと感じた。
		■豊かな人間関係と社会性を育む教育の推進 ・相手の立場を考え行動する集団づくり ・仲間の良さを認めるための児童の主体的な取組 ・異年齢交流の活性化と自己肯定感の醸成	①全校児童による異年齢集団（縦割り活動）活動の充実 ②児童が主体となったいじめ撲滅に向けた取組の継続 ③いじめ点検や情報交換会によるいじめや不適応の早期発見、未然防止【週1】 ④課題のある児童への組織的対応の充実と保護者への効果的な発信、連携 【Q「いじめはどんな理由があってもいけない」目標100%】	①縦割りそうじや縦割り班による運動会に向けての取組など、5月以降は、感染症対策を考慮しながら進めてきた昨年度までと違い、積極的にたてわり活動に取り組むことができた。特に上級生はリーダーシップを発揮し、達成感ややりがいを感じ取ることができた。 ②【児童Q：「自分から元気よくあいさつできた」92%】 今年度も代表委員会の活動で、「あいさつ運動」を実施した。また、「マ東討論タイム」において、登校班ごとに「あいさつ」のよさについて話し合い、あいさつの大切さ考える機会となった。あいさつは相手を認める言葉であるとともに、人を大切にすることにもつながるということと呼びかけてきた。また、子どもたち同士で、大きな声であいさつをし、誰にでもあいさつをするといっためあてが聞かれた。 ③【児童Q：「いじめはどんな理由があってもいけない」98%】 毎週月曜の放課後に「いじめ点検」を行い、各学年の事業や気になる子について全職員で共通理解を図っている。特に、教職員全員で児童全員をしっかりとみていこうということ意識づけてきた。また、学校全体で「全校いっこみつけ」の取組を進め、互いの長所を認め合おうとする意識を高めた。 ④学校での児童の様子をしっかりと見るとともに気になる児童については、担任と保護者が連絡を取り合って情報共有に努めたり、必要に応じて他機関へのつなぎを行ったりと積極的な連携に努めてきた。SSWやSC、その他の機関とも連携することができた。	A A A B	◆アンケート回答に否定的な回答をした児童に注目して、複数の目できめ細かく見守るとともに、次年度への引継ぎを確実にし、継続的組織的に支援できるようにしたい。次年度も、児童一人一人の声を傾聴し、的確なアセスメントのもとで丁寧に確実な指導、支援をしていくことで信頼関係を構築する。 ◆次年度も引き続き児童主体の取組を中心に据え、継続的に取り組むたい。 ◆短所を改善すること以上に長所を認め合い高め合うことを大切に、児童個々の自己肯定感を高め続ける。そのために、「いっこみつけ」は手法を工夫しながら継続する。 ◆SCやSSW、教育相談課題対応室や子ども家庭相談課との連携をさらに深め、多様な視点を持ちながら組織的に対応していきたい。
■地域のよさを生かした教育の充実 ・校区全域を生かした学習活動の実施 ・自然教室への取組による、達成感や感動の感受及び琵琶湖環境保全への意識高揚 ・故郷を愛する心の醸成 ・園小中一貫教育の推進			①地域とともに進める自然教室の実施 ②町内合同マラソン、合同陸上練習等町内合同開催事業の実施 ③地域人材によるキャリア形成につながる学習 ④各学年における地域学習の実施と学校地域連携カリキュラムの完成 ⑤活動を支えて下さる人々への感謝の思いの伝達と交流 【Q「マキノが好き」目標100%】	①④2年生は生活科、3年以上は総合的な学習の時間に地域の人・ものを学習素材として、直接体験を重視しながら学習を重ね、児童の地域に対する理解を深めてきた。子どもたちが実際に地域を訪れることにより、直接体験をする機会が増え、地域への愛着につながっている。学校地域連携カリキュラムを随時更新してきたが新たな地域素材の開発や人材の確保が不十分であった。5、6年生の自然教室については、ボランティアの方や保護者の方との連携を大切にできた。また、今年度はすすめるようとしていた地域・児童・保護者合同の防災学習会を実施することができなかった。 ②昨年に引き続き、町内小学校3校で合同マラソン大会と合同の陸上記録会練習を実施することができた。今年度は、小中の間で「読み聞かせ」や「収穫祭」をいっしょに実施したり、小学生がこども園に出かける取り組みも実施できた。 ③⑤【児童Q：「人の役に立つ人間になりたい」100% 「ふるさとマキノが好き」94%】 昨年度に引き続き、地域在住の漫画家から夢の大切さについて高学年に対して講話をいただいた。さらに今年度は市役所の方や看護師の方など、多様な職種の地域の人材にお願いしてのキャリア学習を実施し、5、6年生の子どもたちにより刺激を与えることができた。2学期以降は学習・授業支援をメインとして、多くの方に子どもたちと関わっていただき、学習の支援をしていただくことにより、子どもたちと地域の人々とのかわり方が一層深まった。ただ、活動を支えてくださる方々、特に登下校の見守りをして下さっているスクールガードの方や定期的に通学路点検等をしていただいている安全リーダーの方々、民生委員児童委員の方々への感謝の思いを伝える場が乏しかった。	B A A A	◆引き続き、次年度も豊かな自然、人、ものに恵まれた本校の強みを最大限生かす活動を継続する。そして、特に子どもたちの学習支援を中心に、地域住民と子どもたちの交流が深まる機会を増やし、地域への愛着がもてるよう努める。 ◆学校だよりやホームページ等により、保護者、地域に学校教育活動について、幅広く啓発し、学校教育に対する理解を深めたい。 ◆様々な人の生き様に触れるために、地域住民の方々を講師として迎えたキャリア学習を、高学年対象に次年度も実施したい。 ◆学運協と住民自治協、地域学校協働活動との連携を強めるために、防災をキーワードに、学運協主体の事業を実施できるか検討する。
	■健康の保持増進と体力の向上 ・体力づくりへの意欲の向上と目標をめざして頑張りぬく児童の育成 ・自分の健康について考え、管理できる力の向上		①年間を通したマラソン、なわとびの取組による継続的に運動に取り組む態度の育成 ②「早寝・早起き・朝ご飯」の推進 ③家庭でのゲームやネット利用の自己管理能力育成 【Q「ゲームやインターネットをする時間は合わせて1時間以内目標70%以上】	①学校体育大会、マキノ町内合同マラソン大会など、全校児童がめざす目標をもち、継続的に運動に取り組めた。児童の体育委員会でも楽しみながら体を動かすイベントを企画し、運動の奨励に努めた。 ②保健だより等で保護者向けに啓発するとともに、児童には保健学習や、栄養教諭、健康推進員による食育指導（減塩等）を通じて理解を深めさせた。 ③【児童Q：「ゲームやインターネットをする時間は合わせて1時間以内になっている」47%、保護者Q：「お子さんが家でゲームやSNSをしている時間は、60分以内である（動画視聴を含む）」50%】 児童と保護者を対象に警察署の方に来ていただき、ネット利用のリスクやモラルの学習会を行うことができた。ゲームやインターネットをする時間の設定については60分以内が適当かどうかを専門家の方の意見も聞くなどしながら検討していく必要がある。	B B B	◆児童の体力向上のため、外遊びの奨励や学校行事の際の準備期間を拡充するなど、多種多様な運動の機会を与えた。また、日々の体育の授業において、ゲストティーチャーやボランティアを募り、運動量の確保に努めたい。 ◆保護者や児童の情報モラルを高めるために、年間1回以上講師を招聘してモラル学習の機会をもつ。小学校段階で繰り返し啓発することで、情報機器について自律した活用ができるようにしたい。

	総	評	評価	学校関係者評価を踏まえての改善点	
学校関係者評価	・昨年度より評価の到達目標の割合が下がっているところもありますが、項目は学校だけが責任を持つものではなく、家庭との連携により進めていくものなので、家庭の役割も大切である。よって、評価に係る成果指標、取組指標については、家庭と十分共有し役割分担をもって取り組んでいただきたと思う。 ・生活科や総合的な学習の時間に地域との連携をもっと深めていただけると良い。例えば、海津大崎の桜の保全に関わる取組をするなど地域のためにできることが増えたと良い。 ・子どもたちの心を育てる努力やアイデアがみられ、学校・先生方には感謝です。縦割りで仲間の大切さを知り、協力する力も身につけていくと良い。 ・マ東検定、予習復習ノートをがんばることで自分の力を知ることができ習慣化することで中学校以降にもつながっている。また、地域を知ることでもマキノが好きになる子が増える。			A	・地域との連携を図る際には、どのように広報していくかが重要になってくる。気軽に学校に来ていただけるような呼びかけの仕方を考えていく。 ・タブレットの使用時間やルールなどを守らせるためにも子どもたちの自己管理能力を育てていく。 ・学校の役割と家庭の役割、地域の役割のすみわけをしっかりと決め、それぞれが役割を果たせるように仕組みづくりを進めていく。 ・タブレットの活用については、共通理解、共通実践に努め、学校全体としての系統性を持たせた利用促進を図る。 ・ゲームやインターネットをする時間の目標時間に関しては、見直していく。専門家や警察署とも連携して、児童の健康や安全を守るための方策を検討していく。 ・園小中一貫教育を推進し、縦のつながりや横のつながりを考え、中学校区が一体となってマキノの子どもたちの健全な育成を図る。 ・地域の方がもっと気軽に学校に来られるように、また、子どもたちがもっと地域に出かけ、マキノのためにできることは何かを考えて実践できる取組を進める。

学校 教育 目標	最高教育理念 自ら鍛え自ら学ぶたくましさ 人や自然と共生するやさしさをもった人の育成 校訓 「明るく、元気に、励む子」 地域とともにある学校 ～つながり響き合う教育の実践～	昨 年 度 の 評 価 概 要	〈自己評価〉 明るい子の育成(A) 元気な子の育成(B) 励む子の育成(B) 地域とともにある学校づくり(A) 〈学校関係者評価より〉 ・地域ボランティア、地域の方との交流の機会を増やすことに努力できている。今後は学校地域連携カリキュラムの実施に向け、地域の方、保護者を巻き込んで柔軟に対応できるよう努めてほしい。 ・健康増進プロジェクトは、親子のスキンシップとしても重要である。今後も進めていくとともに、この評価について親子で話し合うことも必要だろう。 ・この地域をもっともっと知ること、は、学校やボランティアだけではなく、地域や親の取組も必要であろう。この地域で育ったという自信をもち、自慢できる人になってほしい。	中 期 的 目 標	○子どもの姿で勝負するプロ(教職員) ・保護者・地域の期待に応える ・小規模のよさを生かし、課題を克服する経営 ○自らの成長を感じ自信が持てる(児童) ・魅力ある楽しい教育活動、体験活動 ・集団力、自己肯定感の向上 ○学校・地域が課題と目標を共有する(地域) ・地域の核となる学校づくり ・地域人材とのさらなる連携
----------------	--	--------------------------------------	--	-----------------------	---

評価項目(指導力点)	指標:到達目標(成果指標・取組指標)	達成状況	評価	改善方策	学校関係者評価
明るい子 ○地域の人から生き方を学ぶ ○共生する力を育み生き方を学ぶ学習の推進 ○絆を深める集団づくり 仲間づくり ○なかよし学級と共に歩む	地域に学ぶ体験学習の実施	校区探検(1,2年)、里山学習(3,4年)、地域農家の指導による米作り(5年)、古墳、古代製鉄遺跡見学(6年)、マキノフォトガイニング(PTA)等、地域指導者の協力を得て、充実した学びをすることができた。	A	A 昨年度作成した学校地域連携カリキュラムをもとに、関係者で共通認識を図りながら活動を進めていく。 夢カードの記入や掲示物とともに、毎月の生活の振り返りも行い、キャリア意識の向上を図る。 「あいさつ、返事、はきものそろえ」の合言葉とともに、日々お世話になっている方へのお礼の言葉がけの指導を行う。 児童数が減少する中で、役割の意識化や縦割り組織の縮小を視野に効果的な活動を進める。	・下校直前に行われている昇降口での集会は元気な声が多く聞かれるので、その日一日が楽しく過ごせたのがわかる。 ・今年度は、PTAの積極的な取組があり、保護者も子どもと一緒に地域のことを学び、共有する時間が持てたことがよかった。 ・大きな声等は昨年より少し下回っているが、学年により差があると思うので、学校はもっと会話することの大事さを教えてはどうか。 ・1～6年でマキノの特色を生かすカリキュラムが組まれていてすばらしいと思う。
	夢・志をもつ子(夢カード活用)	夢をかなえるために努力している児童…84% 「将来の夢」「各学期の目標」の全校掲示や夢カードの記入を進めるとともに、キャリアに関する掲示物作成により児童の意識向上を図っている。	A		
	明るい声で挨拶・大きな声で返事をする子 児童の評価90%以上	挨拶 児童…89% 保護者…77% 返事 児童…84% 保護者…74% あいさつをする児童評価は、少しずつであるが学校全体として増えてきている状態である。	B		
	周囲と仲良くする子 児童の評価90%以上	児童…93% 学級のみならず、縦割り集団活動等の異年齢集団での活動も重視し、人間関係づくりが充実するよう指導している。	A		
元気な子 ○体力向上・運動習慣確立 ○生活習慣確立 ○食育推進 ○いじめ・不登校ゼロの実践	児童の生活習慣改善に向けた啓発の取組	昨年度より健康増進プロジェクトを実施し、保護者の協力を得ながら、児童自らが家庭における生活習慣を見直し、改善につながるよう働きかけることができた。	A	B 健康増進プロジェクトについては、工夫改善しながら継続し、日常的な指導とともに、児童や保護者の意識をさらに高めていく。 PTAとも現状や課題を共有することで、保護者の意識を高め、学校での指導や啓発が効果的なものとなるよう努める。スマホやゲームの危険性、正しい使い方に関する親子研修を実施する。 児童の変化への気づきや違和感を見過ごすことなく、絶えず緊張感をもちながら、学校いじめ防止基本方針に沿った対応に努める。	・家庭教育(しつけ)の問題である。学校としては、子どもや親にどのような指導や研修をしたか評価するべきと思う。 ・社会情勢は大きく変化しつつある。学校生活だけでなく、放課後の子どもの生活、家庭での生活について地域や保護者も一緒に学び考えていく必要があると思う。 ・毎日の目標をしっかりと家庭や学校で持たせてあげることが大事である。 ・体力向上・運動習慣の確立という目標についての指標がないので以前の10分間運動を再開してもよい。 ・ゲーム・ネット1時間以内とした方がよい。学校としても、PTAと協力して、ゲーム・ネットの弊害についての啓発に努めるとよい。
	早寝する子 早起きする子 児童・保護者の評価80%以上	早寝 児童…73%(78%) 保護者…60%(72%) 早起き 児童…60%(79%) 保護者…44%(54%) ()は昨年度評価 生活習慣には、課題が見られるが、健康増進プロジェクトを引き続き実施し、家庭への啓発をしていく。	B		
	ゲーム・テレビ2時間以内・外遊びや運動する子 児童・保護者の評価80%以上	ゲームテレビ2時間以内 児童…51%(53%) 保護者…42%(39%) 外遊び・運動 児童…71%(80%) 保護者…60%(54%) ()内は昨年度評価 いずれも厳しい結果となった。家庭におけるスクリーンタイムを学校でどのように指導、啓発していくべきか、担任もその難しさを感じている。	C		
	いじめ・生活アンケートを活用した指導支援	学期ごとに児童・保護者アンケートを実施し、その後教育相談週間を設定して、細かな実態把握、指導を行っている。また児童の様子について毎週情報交換を行い、全校職員が共通理解のもと指導するようにしている。	A		
励む子 ○基礎学力・学習習慣の定着 ○魅力、喜びのある授業 ○授業改善 ICT活用授業 図書室活用授業 外国語活動 ○読書の質の向上	タブレット端末を活用した授業づくり	タブレットを上手に使って学習できたか 児童…93% 教師もタブレットと大型モニターを効果的な活用に努めている。	A	B ICT活用研修への参加や校内での実践交流を行いながら、引き続き効果的な活用に努める。 時間確保だけでなく、学習内容の定着や充実を図るため、自主学習の意義や取組例の指導に努めるとともに、保護者への協力を呼びかけていく。 学年が上がるほど読書からはなれていく傾向があるため、これまでの取組を継続しながら、高学年への啓発指導に力を入れていく。 学習が楽しいと思えることの基本は、学習内容が理解できることである。校内研究をはじめ、分かりやすい授業づくりに努める。	・先生・児童の会話を重視し言葉で勉強してほしい。 ・評価項目について「学校が楽しいと思える子」「先生に何でも話せる子」の方が小学生らしい。 ・複式学級では工夫して取り組まれていた。今後も基礎学力、学習週間の定着に力を入れてほしい。 ・学習が楽しいと思えるための興味・好奇心を持つことは子どもの自主的、主体的な学習の取組にもつながると思うので、そのような工夫をお願いしたい。
	家庭学習毎日10分×学年以上に取り組む子 児童・保護者の評価90%以上	家庭学習10分×学年以上 児童…83%(94%) 保護者…77%(80%) ()は昨年度評価 各学年年度における自主学習指導や自主学習ノート掲示などの取組、家庭学習ががんばろう週間を引き続き実施していく。	B		
	読書の質を向上 「家読」月1回実施(年間10回)	朝読書、読み聞かせ、マキノ図書館による訪問貸し出し、家読を行っている。今年度は学校図書館の本にバーコードを付け、本が貸りやすい環境を整えた。評価は、児童60%(55%) 保護者49%(39%) ()は昨年度評価	B		
	学習が楽しいと思える子 児童・保護者の評価90%以上	児童…78%(92%) 保護者…84%(87%) ()内は昨年度評価 学習内容がおおよそ理解できていると回答した保護者は88%(89%)であった。	B		
地域とともにある学校 ○学校運営協議会の運営 ○地域学校協働活動との一体的推進 園小中一貫教育の推進 ○「園小中一貫教育の日」の推進	年間5回の学校運営協議会の開催・熟議	学校運営協議会を開催し、児童に関する熟議や協議を行った。多くの意見をいただき、それらを教育活動に生かすとともに、学校地域連携カリキュラムを確認し、共通認識を図ることができた。	A	A 教職員や児童が会議に参加する機会を設け、熟議や協議を一層深めるとともに、学校地域連携カリキュラムに関する取組の充実を図る。 たよりやメール配信によりボランティアや保護者へ協力の呼びかけを行い、学校全体としての活動充実を図りたい。 学校だよりや学級だより等、引き続き情報発信に努める。地域連携の取組を積極的に発信する。 町内園小中一貫による研究の方向性を協議し、中学校区の連携を活かした取組を継続する。	・児童数が減っていく中でより保護者と地域の方と学校の連携が大切になってくる。 ・学校運営協議会については、学校運営協議会、コミュニティスクール、地域学校協働活動について理解していただける方を地域で増やしていくのもよいと考える。 ・地域連携カリキュラムについては、小中一貫教育とも関わりが深いので、双方の連携を図っていただきたい。 ・ボランティアの方にも子どもの様子を知る機会を設けてくださり良かった。
	学校支援ボランティア等地域と協働した取組	地域学習や平和学習、放課後子ども教室、詩歌チャレンジ、環境整備等の面で支援いただくボランティアの方と連携して、活動が充実してきている。	A		
	学校だより月1回発行/学年だより・保健だより発行/HP随時更新	学校だよりは毎月発行し、保護者配布とともに、区長様を通じて各ご家庭へ回覧いただいた。学年だより、保健だよりも随時発行した。学校の情報発信への保護者評価…100%	A		
	園小中一貫教育の推進	園小中学校が、「めざす15歳の子ども像」に向けて、体験交流、授業参観などを実施し、発達段階に応じた教育活動を充実させることができた。	A		

学校 関係 者 評価	総 評	評価	学校関係者評価を踏まえての改善点
	・複式学級の運営を心配したが、良い面もあり先生方の工夫が生かされ、一丸となり取り組まれたことは大きく評価される。 ・学校行事やPTA活動などコロナ前の状態に戻ってきた1年であり、子ども達の活動を見れる機会が増えたのでよかった。子ども達は、素直で真面目な子が多いので、長所を伸ばしていったほしい。 ・基本的自尊感情が育つように、少人数だからこそできること生かせることを考えて取り組んでほしい。マキノ西小に通ってよかったと思える子ども達をたくさん増やしてほしい。 ・学校運営協議会の委員として、現在の小学生の親の思いや考えを聞きたい。交流の機会があればよいと思う。 ・家庭(親)への手伝いに関した取組を行ってはどうか。親子の絆がよくなると思う。 ・段々と地域のボランティアの方も増え、地域の方との交流の機会を増やすことに努力いただきありがたかった。また、フォトロガイニングでは、PTAの積極的な取組もあり、地域のことに理解を深めてもらえる機会が持てたことをとてもうれしく思う。これを機会に保護者の関わりがもっと増えればよい。	B	・学校評価アンケートでは、子どもの実態が学校評価に反映されているかという意見をいただいた。まず、子どもが挨拶や返事をしっかりしていると思うのに、できていないと感じる親が1割前後いるというのは、親の基準が高いのではないか、また、スクリーンタイムを重視するのでなく、「元気な子」の指標の中に「体力づくり運動好きの児童の育成」として、外で遊んだり、進んで運動することや教職員の体力向上に向けた適切な指導を入れてはどうか、という意見であった。アンケートの数値だけでは把握が難しいので、子どもの様子を参観いただいたり、教師と懇談して学校の様子をより深く知ってもらうことが必要である。 ・昨年度、作成した学校地域連携カリキュラムをもとに地域の自然や素材を教育活動につなげ、より多くのボランティア等の人材に協力いただきながら学習活動を充実させていくことにより、地域とともにある学校づくりをさらに推進していく。 ・児童数が減少する中で、担任と児童とのふれあいを大切にしながら、「自己決場の場」「自己存在感」「共感的な人間理解」をこれまで以上に意識した授業改善に努め、それぞれの個性を伸ばしながら「明るく元気に励む子」を育成する。 ・学校運営協議会において、小規模校におけるよりよい教育の在り方について議論を重ね、さらなる教育の充実にも努める。また、児童や保護者が参加する熟議の場を設定していく。

4段階評価(A 目標を十分に達成 B ほぼ目標を達成 C やや不十分 D 改善を要する)

(様式1)

令和5年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立マキノ南小学校

学校 教育 目標	「笑顔あふれ つながり やり遂げる 南小の子ども」 〈めざす子ども像〉 ○自分を表現する子 ○学び合う子 ○挑戦する子 〈めざす学校像〉 ○人権を守り、夢と希望を育む学校 ○誰もが自分の力を発揮できる学校 ○安心・安全な学校 ○信頼できる地域の誇りとなる学校	昨 年 度 の 評 価 概 要	○児童評価 学習理解(B) 家庭学習の定着(B) 学校が楽しい(A) いじめ防止(B) 相談の受け止め(A) あいさつ等生活リズム(A) 安心安全な学校(A) ○保護者評価 学習理解(A) 家庭学習の定着(B) 学校が楽しい(A) いじめ防止(A) 相談の受け止め(A) あいさつ等生活リズム(A) 安心安全な学校(B) ○学校関係者評価 学力アップ(A) 心アップ(B) 元気アップ(B) 地域とともにある学校 (A)	中 期 的 目 標	○学校地域連携カリキュラムの確実な遂行 ○家庭での自主学習の定着 ○いじめ、不登校、体罰のない安全・安心な学校づくり ○教職員の授業力、課題対応力の向上
----------------	---	--------------------------------------	--	-----------------------	---

評価項目（指導力点）		指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評価	改善方策	学校関係者評価
学び深く(学力アップ) ◎個別最適・協働的な学びの実現 ・タブレット型端末の効果的な活用 ・魅力ある学習課題、導入、発問の工夫 ・自己の考えを広げたり深めたりすることのできる対話の工夫 ・児童同士、教師や大人とつながる授業の創造 ◎学習習慣と学力の定着 ・個に応じたきめ細やかな指導 ・自分を表現する力を伸ばす取組 ・全校で統一した学習規律、学習習慣の確立 ・授業とつながりのある家庭学習		授業改善 ※授業の理解度、満足度への児童、保護者の評価 90%以上 ※指導の工夫、全員参加の授業への教職員の評価 90%以上	授業の理解度は児童93.2%(昨年度比+4.9%)、保護者98.3%(同+6.6%)でともに上がった。自分の考えや意見を発表するは児童81.4%(同+3.1%)であったが、保護者は83.1%(同-13.7%)と下がった。同じ項での教職員の評価はいずれも100%であった。	B	A	昨年度から児童の考え・意見をつなぐ授業をめざしているが今後も継続する。参観日だけでなく日頃の授業の様子もタブレット等で保護者に伝える。
		学力の定着 ※全国学力学習状況調査の無回答率 5%未満 ※全国学力学習状況調査の正答率で全国平均を上回る	わからないことがあれば質問するは、児童約5%・保護者約3%ともに上がった。全国学力学習状況調査正答率の結果は、国語で0.8(2)%、算数で1.5(3)%それぞれ全国(県)平均を上回った。無回答率は国語で約1.0%であったが、算数は0%であった。	A		R6全国学力学習状況調査に向けて、R5結果分析をもとに課題を整理し、がってんプリント等を活用しながら課題の改善に全校で取り組む。
		学習習慣の確立 ※進んで家庭学習をすることへの児童、保護者の評価 90%以上 ※ジャンプアップ、学び方マスター週間の取組への児童、保護者の評価 90%以上	進んで家庭学習は児童81.4%(昨年度比+8.0%)、保護者83.1%(同-0.2%)の評価で、特に児童は高評価だった。ジャンプアップ、学び方週間には児童・教職員の85%前後に比べると保護者は61%と低調で、達成感に意識の差が見られる。	B		ジャンプアップ週間等を中心に保護者の協力を得ながら、日頃から児童に自学ノートの習慣が身につくように学校と家庭の両輪で見守り支援する。
		毎日のタブレット型端末の授業や家庭学習での活用 登下校時における防災訓練でのタブレットの活用 タブレット型端末を活用した保護者への連絡や情報提供	タブレットは全学年で学習用具化していて、児童はほぼ毎日持ち帰っている。eライブラリの活用率も高い。交通安全教室では各地区リーダーを対象に登下校時の災害に備えて安否確認の練習も行った。保護者への連絡・お知らせにも積極的に活用できた。	A		タブレットでの学習、タブレットを使っている家庭との双方向の連絡等について実践を重ね、タブレットのより効果的な活用について研究を深める。
笑顔あふれ(心アップ) ◎道徳・人権教育の充実 ・考え議論する道徳科の推進 ・多様な経験を積み重ね、友だちやまわりを思いやる心の育成 ◎いじめのない学校づくり ・チームで取り組む生徒指導と早期発見、迅速な初期対応の徹底 ・自分も友だちも大切にできる人間関係の基盤づくり ◎キャリア教育の推進 ・自己肯定感を育む学級経営の充実 ◎特別支援教育の推進 ・教育のユニバーサルデザイン化 ・個が受け入れられる指導の徹底 ◎凡事徹底の学校風土の構築 ・当たり前のことを当たり前に(挨拶・返事・整理整頓・掃除・時間厳守)		道徳・人権教育の充実 ※友だちや相手を思いやる心の育成への児童、保護者の評価90%以上 ※道徳教育の研究・実践への満足度 教職員の評価 90%以上	友だちや相手を思いやる、みんなと協力するは、児童・保護者とも90%以上で、教職員も100%であった。教職員の道徳研究の満足度は84.6%と低いと思うが、大きな発表大会後の次年度でもあるので、若干名満足度の低い教職員もいる。	A	B	児童の思いやりや協力への意識は高まっているので、 すて木等 の研究成果は継続する。教職員の研究意欲を高めるために研究教科を変える。
		いじめのない学校づくり ※「学校が楽しい」への児童、保護者の評価 90%以上 ※いじめのない学校づくりへの児童、保護者の評価 90%以上	学校は楽しいは、児童86.4%(昨年度比-3.6%)、保護者93.2%(同+1.5%)とほぼ昨年度に近い評価であった。いじめのない学校づくりは、児童96.6%(昨年度比+8.3%)、保護者94.9%(同+4.9%)と児童も保護者も大きく上がった。	B		いじめ認知の件数は増えているが、学校としては引き続き未然防止から初期対応、その後の観察まで組織的な対応を徹底する。
		個の自立と集団力の向上 ※自己肯定感「今の自分が好きだ」等の児童の評価 90%以上 ※支持的な学級づくりへの教職員の評価 90%以上	児童の今の自分が好きだは、目標には届かなかったが昨年度比+8.4%の81.4%で、自分にはよいところがあるは昨年度比+3.1%の83.1%と、自己肯定感の向上を感じる結果となった。教職員の支持的学級づくりに関する項はいずれも90%以上であった。	B		教職員による支持的雰囲気のある学級・学校づくりに加え、地域とも一体となって児童の自己肯定感を育む雰囲気や体制を醸成する。
		特別でない特別支援教育の推進 ※個を大切にした取組への児童、保護者の評価 90%以上 ※一人ひとりの個性を大切にした取組への教職員の評価 90%以上	児童の先生はほめてくれるは94.9%(昨年度比+1.6%)、教職員の一人ひとりを大切に100%と高い評価であるが、保護者の同様の項は88.1%(昨年度比-3.6)%と下がった。児童の先生は話を聞いてくれるは昨年度比+4.9%の94.9%であった。	B		児童一人一人への接し方は現状維持以上に努め、保護者には今以上に連絡を密にすることで、より相談しやすい雰囲気になるように努める。
健やかに(元気アップ) ◎健康な体づくりと運動に親しむ環境づくり ・たてわり遊びの充実 ◎防災・防犯意識の向上 ◎やり切る姿勢づくり		凡事徹底の学校風土の構築 ※しっかりあいさつができるへの児童、保護者の評価 90%以上 ※学校のきまりを守るへの児童、保護者の評価 90%以上	しっかりあいさつできるは、児童が89.8%(昨年度比-1.9%)で保護者は91.5%(同-0.2%)であった。学校のきまりを守るは、児童が91.5%(同-1.8%)で保護者は94.9%(同+1.6%)であった。凡事徹底の学校風土の構築に関しては、概ね良好である。	B	B	あいさつは学校だけでなく、地域にも見守られながら現状維持以上をめざす。きまりを守るも、保護者や地域と連携しながら見守る。
		運動好きの児童の育成 ※外で遊んだり、進んで運動することへの児童、保護者の評価 90%以上 ※体力向上に向けた適切な指導への教職員の評価 90%以上	児童の外遊びや進んで運動するは、昨年度比-7.0%の84.7%で、保護者の同様の項も昨年度比-8.7%の76.3%であった。教職員の同様の項の指導、取組も昨年度比-8.8%の76.9%と、3者とも下がった。	C		日頃からの体力向上につながる取組を家庭と連携して考える。また、今まで以上に外遊びを推奨し、体育では運動の楽しさを十分に味わわせる。
		食育等健康教育の推進 ※食育に関する児童、保護者の評価 90%以上 ※給食指導や健康に関する適切な指導 教職員の評価90%以上	児童の好ききらいなく食べるは、昨年度比-2.1%の71.2%であったが、保護者の同様の項は昨年度比+9.6%で72.9%と上がった。教職員の同様の項の指導についても、昨年度比+6.6%の92.3%と上がった。	B		全学年で栄養士の食育指導を実施し、その内容と日頃の給食の様子を保護者に知らせ、引き続き家庭と連携しながら食の指導を進める。
		安全教育の充実 ※不審者や自然災害の緊急時の対応 児童、保護者の評価 90%以上 ※危機管理意識を高めた安全指導 教職員の評価90%以上	児童の緊急時の対応は、昨年度比+3.3%の100%となった。保護者は昨年度比-0.2%の88.1%で昨年度並みの評価であった。教職員の緊急時や危機管理意識向上の指導については、昨年度比-7.7%の92.3%の評価であった。	B		児童のみの場合の緊急時を想定し、児童に的確な判断を要する訓練を実施する。その様子については保護者や地域に広く知らせる。
地域とともにある学校 ◎地域の人と目標やビジョンを共有し地域と一体となって子どもたちを育む ◎子どもたちと地域の人がつながる教育活動の推進（学校地域連携カリキュラムの活用） 園小中一貫教育の推進 ◎15歳の姿を見通した教育活動の創造 ◎「自立と共生」の力をもって生き抜く子どもの育成		学校教育目標の共有 ※めざす子ども像、学校像の共有 保護者評価90%以上 ※めざす学級像、子どもの姿の共有 教職員の評価90%以上	保護者の子ども像、学校像の共有は、昨年度比-6.9%の88.1%であった。学校からの情報提供は同-1.7%の96.6%であった。教職員の同様の項については、いずれも92.3%であった。3者とも若干下がった。	B	A	PTA総会時の説明に加え、おたより等でも随時学校教育目標に関連した児童の様子を知らせるように努める。HPでも定期的に発信し周知に努める。
		地域との協働による教育活動の充実 ※学校運営協議会での熟議を生かした取組 学期に1回以上 ※学校地域連携カリキュラムの遂行率90%以上	8月に学校運営協議会とは別に構成員を拡大(全教職員とPTA役員、学校支援ボランティアを加える)し総勢25人で熟議を行った。学運協での熟議を生かし、夏季休業の課題や地域との協働活動を修正した。カリキュラムはほぼ予定通りに実施できている。	A		今後も熟議は学運協での場を基本に、児童等の参加する機会も設定し実施する。カリキュラムは適宜修正を加えながら100%遂行をめざす。
		園小中一貫教育の推進 ※中学校区での学習規律等を統一した取組の実施 学期に1回以上 ※中学校区での合同研究、研修の実施 学期に1回以上	中学校区で統一した学習規律(学習スタイル)をもとに、話し方や聞き方等のポイントを示し、毎月学び方マスターの取組を行った。東小と合同で校内研究(道徳科の授業)を進め、授業者は東小の研究会にも参加し研究を深めた。	A		中学校区で統一した学習スタイルを確実に実施し、学び方マスターにも生かす。校内研究も東小や西小、中学校とも合同で研究を進める。
		小・中学生合同の事業の推進 ※小学生・中学生の合同事業の取組の実施 学期に1回以上 ※小学校児童会・中学校生徒会の協働活動の実施 学期に1回以上	中学校区での小・中学生の合同事業を特に昨年以上に実施した。(合同陸上練習、合同マラソン大会、中学生による読み聞かせ、中学校収穫祭、小学校運動会での中学生ボランティアなど。)また、児童会・生徒会のZoomによる合同会議を毎学期実施した。	A		今年度実施した園小中の子どもが連携した事業に継続して取り組む。児童会・生徒会のZoomによる合同会議もリニューアルしながら実施する。

学校 関係 者 評 価	総	評	評価	学校関係者評価を踏まえての改善点
	○今年度から学校地域連携カリキュラムに取り組んだが、昨年度までの地域の方との良好な関係づくりの成果もあって、うまく進めることができていた。また、南小の地域資源を生かした取組として田屋城の登山を実施したが、他の小学校にはない南小ならではの取組で、地域の方の参加もあってよかった。 ○小規模校のよさ(家族的な雰囲気、フットワークの軽さ、きめ細かな指導)を生かした教育活動を今後も続けてほしい。自然環境も生かして、体験活動を取り入れ、おおらかで、やさしく、たくましいマキノの子の育成を期待する。 ○子どもは子ども同士で成長していく部分が多い。少人数であるのでどうしても大人の手が入りやすくなるが、サポートする部分と子どもに任せる部分を意識して教育活動に取り組む必要がある。 ○学校の役割は「学力」「コミュニケーション力」を高めることとし、家庭や地域の役割は「善悪の判断」「基本的な生活習慣」「社会生活に必要な常識」を身につけることと分担できればよい。家庭があつての学校である。学校と地域との更なる連携を期待する。 ○全体的にいろんな取組をしていて成果もあげているが、取組の裏に先生方の苦勞もあることを同時に感じた。次年度の学級数減に伴う職員数減を見据えて、先生方は限られたメンバーでできることを再検討し、一つ行事や業務を増やすなら、二つくらい減らすなど、働き改革を意識しながら業務を精選できるとよい。何より先生方が笑顔で教壇に立つことが一番である。		B	○「地域とともにある学校」の確立をめざした地域との協働した教育活動のさらなる充実 ・熟議の継続的な開催 学校運営協議会委員・教職員、学校支援ボランティア、PTA役員での話し合いの充実（高学年児童も適宜参加する場を設ける）。 ・学校地域連携カリキュラムの保護者や地域への周知徹底と、計画的に見通しをもって学校支援ボランティアとの協働活動を実施する。※その際、学校と地域とは対等な立場で事前打合せ、協働活動、ふり返りに臨む。 ・昨年度実施した「全校田屋城跡遠足」にかわる全校行事を多くの学校支援ボランティアを募り実施し、つながりを深める。 ・防災や防犯の教育活動についても学校の実施で終わらずに、地域と連携しての取組を実施する。 ○家庭との連携を重視した取組の推進 ・昨年度から取り組んでいる自学ノートを、学校と家庭の双方から支援ができるようにジャンプアップ週間を中心に改善・推進する。 ・児童の学校での様子をタブレットを活用して積極的に発信する。また、安心安全なタブレット・スマホ利用についても学習する機会を定期的にもつ。 ○小規模・少人数学級の利点を最大に生かす ・きめ細かな学習指導、児童の主体性を大事にする指導、一人ひとりを大事にする生徒指導・教育相談の実施 ※いじめについては全教職員で組織的に対応

4段階評価（A 目標を十分に達成 B ほぼ目標を達成 C やや不十分 D 改善を要する）

学校 教育 目標	品位・気魄・和合 ～思いやりの心や粘り強さを大切に し、自ら考え、判断し、行動する生徒の 育成～	昨 年 度 の 評 価 概 要	・授業がわかる94%(生)　・考えを表現する授業79%(生)　・道德授業の充実96%(生) ・よく関わってくれる先生97%(生)　・ボランティア活動(生)64% ○学力向上への取組・・・学びあう場の設定と補充学習の徹底 ○いじめ点検・・・生徒・保護者月1回を実施：いじめをされたことはない　95%(生) 学校関係者評価より ・学校全体の目指す方向としたいことが明確で努力していることが分かった。今後も授業の様子 を参観したり学校の取組の情報を伝えたりしてほしい。また、思春期で個別事象は多いと思う が、引き継ぎサポートをしてほしい。 ・地域貢献活動や学校運営協議会で、生徒や教師、PTA、運営委員、地域ボランティアとの話合 いができ、有意義であった。今後、地域で子どもを育てる方向で進んでいけるとよい。	中 期 的 目 標	○意欲的に学びに向かう態度の育成 ○自他を大切にする態度の育成 ○自己有用感を高める指導の推進 ○理想の大人として研鑽を積む教職員 ○全教職員で全生徒を育てる組織の充実
----------------	---	--------------------------------------	--	-----------------------	--

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評価	改善方策	学校関係者評価
○学力の向上 ・主体的な学びの確立 ・基礎基本の徹底 ・学び合う学習の充実 ・言語活動の充実 ・ICT機器を活用した授業実践	生徒85%以上が「授業がよくわかる」と回答 補充学習の実施	「授業での学習内容はよくわかった」と、94.5%の生徒が回答している。「授業中、先生の話を聞いている」と、97.0%の生徒が回答している。定期テスト前と受検対策の補充学習を実施した。	A	A	・楽しいと回答できる子が多いと感心する。授業内容が高度になり、向上心をもって励んでいるし、理解度も高いと感じる。タブレット端末を用いてグループの意見をわかりやすくまとめ発表し効果的に活用している。思いを伝えるため声は大事だ。 ・生徒自らが学びたいと思うには、将来像の確立や学習への興味・好奇心に関係するのではないかと。それにに向けた授業を工夫してほしい。
	生徒85%以上が「やる気をもって授業に取り組んだ」と回答	「やる気をもって授業の課題に取り組んでいる」と、84.0%の生徒が回答している。「家庭学習目標時間(1年70分、2年80分、3年90分)に達成している」と、55%の生徒が回答している。	B		
	生徒85%以上が「自分の考えを授業で伝えた」と回答	「授業中、ほかの人の意見を聞いたり自分の意見を発表したりしている」と94.0%の生徒が回答している。「自分の考えがうまく伝わるよう発表したり書いたりすることができた」と90.0%の生徒が回答している。	A		
	生徒85%以上が「タブレット端末や資料を使ってする授業は楽しい」と回答	「タブレット端末や資料を使ってする授業は楽しい」と、93.0%の生徒が回答している。	A		
○豊かな心づくり ・道德教育の充実 ・集団づくりと学校行事の活性化 ・園小中、地域とのつながり ・生徒指導・教育相談の充実	生徒80%以上が「道德はためになる」と回答	「道德の勉強はためになる」と、95.5%の生徒が回答している。	A	A	・中学校が担う大事な部分に力を入れている。いろんな掲示物からも生徒に寄せる愛情が伝わり、見守られる安心感がある。 ・園小中、縦割、日赤奉仕団を含む地域との交流をしたのは効果的であった。特にマキ中祭では生徒が主体的に企画運営し、園児や小学生に、工夫して声をかける姿に感銘を受けた。今後、大学生、県外の人との交流を検討してほしい。
	生徒会活動や縦割り活動を通した生徒主体の学校行事	「委員会や班の活動に頑張って取り組めた」と、97.5%の生徒が回答している。「縦割り活動等の交流活動は協力してできた」と、100%の生徒が回答している。	A		
	地域貢献活動(生徒年間1回以上)　園小中の交流(年間3回以上)	「交流活動で感謝の言葉を伝えられた」と、92.5%の生徒が回答している。地域貢献活動各学年1回、マキ中祭、3年保育実習、小学生への陸上支援、小学生マラソン大会での支援、小学生への読み聞かせ	A		
	生徒90%以上が「先生はよく関わってくれる」と回答　「いじめ点検」を月2回実施	「先生はよく関わってくれる」と、97.0%の生徒が回答している。「いじめ点検(生活の振り返り)」2週間に1回実施	A		
○健康な心身の育成 ・健康な生活リズムの確立 ・自己管理の定着 ・挨拶運動の充実 ・部活動の充実 ・個に応じたマラソン大会	生徒90%以上が「学校に来るのが楽しい」と回答	「毎日が安心して過ごせ、学校へ行くのが楽しい」と、90.0%の生徒が回答している。	B	B	・休んでいる子に対応する先生方に感謝したい。組織的に見守る体制や意欲を喚起する教育活動について話し合う機会があればいい。 ・部活動以外でも、駅伝大会で優秀な成績をおさめている。自然体験、歴史文化活動、福祉活動等、地域の団体を利用すればその愛着心も高まる。 ・道で出会ったときに挨拶を返す子が多い。地域とのつながり結び付きが浸透している。ただ、通学路の安全確保が気になる。
	生徒85%以上が「時間に余裕をもって登校できた」と回答	「登下校の時刻やベル着など時間を守っている」と、94.5%の生徒が回答している。	A		
	生徒90%以上が「近所の人に挨拶ができる」と回答	「近所の人に会ったときは、挨拶をしている」と、96.5%の生徒が回答している。	A		
	生徒90%以上が「部活動が充実している」と回答	「部活動に満足している」と86.0%の生徒が回答している。校内マラソン大会(2km45名、3km31名、10km23名　スタッフおよび欠席19名)	C		
○保護者・地域とともにある学校の創造 ・総合的な学習の時間を活用した地域との連携 ・積極的な情報発信	地域とつながる学習活動の実施　地域貢献活動　生徒年間1回以上	地域貢献活動(1年：上開田パブリカ収穫祭　2年：Re フェスタかしま　3年：びわ湖高島栗マラソン)　マキ中祭(日赤奉仕団等の防災食等の支援、園小の招待)	A	B	・互いを理解する大人と生徒が話し合う場や園小中も連携はよかった。区民運動会で中学生が活躍してくれた。今後、小中合同協議会等を開催し幅広く子どもについて考えられるとよい。また、地域貢献活動をする背景を知ることが地域の実態や課題の学びにつながる。 ・ホームページは他校より充実している。
	「メール配信」の充実　年間2回の保護者・生徒アンケートの実施と学校評価結果の公表	運時、緊急連絡等メール配信、学校や生徒の様子を伝える学校ホームページの開設、月1回以上の学校・学年・保健等の便り、年間2回の学校振り返りアンケート結果公表	B		
	保護者対象「いじめ点検」月1回	保護者対象の点検を各学期に1回実施した。緊急性のあるものについては、即時に面談し解決を図ることができた。	B		
	学校運営協議会を通しての地域学校協働活動の実施	学校運営協議会を5回開催した。第2回目は保護者、生徒、教職員も参加し、意見交流ができた。学校地域連携カリキュラムについて共有した。	B		

学校関係者評価	総	評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	・評価の視点の4つに共感するとともに、少子高齢化・過疎化等の地域情勢や、年齢に応じた課題を踏まえたカリキュラムを工夫している。学業だけでなく、さまざまな取組に主体的に参加していることはよい。また、授業参観ができ、生徒が意欲的に生き生きとしている様子も見られて、生徒やPTA等との協議会の場も有意義であった。今後も学校と地域が連携し、生徒を支え育むためのよい学び場を模索していけたらよいと思う。ただ、評価指標は毎年同じでよいと考える。重点項目は絞られてわかりやすい。 ・部活動について、少数で好きな活動もできないだろうけど、優秀な成績をおさめる生徒も多数いるので嬉しい限りである。親しむという観点から拠点校部活動、地域団体、NPO、公民館活動等の指導者や、その活動等を活用する機会を増やせばいいのではないかと。 ・校長先生が新しい試みを考えだし、地域連携や園小中の連携は一層進んだと感じる。そのバイタリティをもってますますよくしてもらいたい。子どもの成長を願い、先生方が一丸となって取り組んで、地域住民として非常にありがたい。ただ、先生のワークライフバランスが大切で、簡略化や精選を図り、生徒と接する時間を作るのが大切ではないかと考える。		A	・指導力点、指標等については、前年度を継承しつつ次年度の学校の重点と鑑み考えていく。教職員のワークバランスを考慮し、生徒の学びへの意欲を喚起する教育活動を推進していく。そのために、今後も、教育課程を踏まえ、生徒と向き合う時間を大事にし、思いを聞き興味・関心を高める工夫をしていく。 ・今後も、次世代を担う生徒の育成のために、大学生や地域の人材を含めた外部講師を招いた授業や地域の学校として園小中の連携や地域とのつながりのある教育活動を推進していく。その中で、生き方について考えさせたり自己有用感を高めたりにしていく。 ・引き継ぎ、考えをやり取りする教育活動と書く活動、そして、生徒の自治活動を通した集団づくりに力を入れていく。 ・通学路の安全については、日課の工夫による下校時間の繰り上げや、生徒の危機管理意識の向上、関係機関との折衝を図っていく。

(様式1)		令和5年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書		高島市立今津東小学校	
学校 教育 目標	ふるさとを愛し、豊かな心を育み、 自ら学び挑戦する子の育成	昨 年 度 の 評 価 概 要	○子どもが元気で楽しく学校へ来るのが一番。体力作りも続けていくことを期待する。また、タブレットを使つての新しい取組にも挑戦してほしい。先生も元気で楽しいと感じることが大事。 ○子どもの思いに気づいてあげられる学校になってほしい。 ○小中一貫教育の推進については、市内だけでなく、広い視野で成功事例の共有の仕組みを確立させ、取り組むとよい。 ○学校地域連携カリキュラムを実践する中で、小中の連携をどうするか、その中でどうすれば地域の方に参画してもらうことができるかを考えていけるとよい。住民自治協議会とも連携をするとよい。	中 期 的 目 標	<中期的目標（R4～R5）> ○言語能力の向上を図り、正しい用語による論理的な表現力の育成を図る。 ○成就感や達成感を高める行事の工夫と連帯感や充実感を深める学級づくり ○すこやかタイムの定着と保健安全指導の工夫

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評価	改善方策	学校関係者評価
（かんがえ） 学びの楽しさを知り、自ら学びに向かう子の育成	「勉強がわかり、できる」児童の評価85%以上	「国語や算数の授業がよくわかる」に対する児童評価は88%。1年生のみ80%をきる。授業中の発表についての児童評価は63%。到達目標70%には、2・3年生のみ到達。「授業中にわからないことを聞く」の児童評価は70%。ICTを活用しながら、自分の意見が言える場づくり等が必要	B	B	児童の評価については、職員会議で確認・分析を行った。結果を真摯に受け止め、引き続き「わかる授業」に向けての授業改善に取り組む。 ・タブレットのでの授業が一般化していることはよいこと。その効果を出すことが大切 ・ICTの活用も大事だが、ICT以外の調べる手段も同時に学ぶことが重要。（やっさ今津についてタブレットで調べていた） ・児童の自己評価だけでなく、各学力テストや日常の到達実態など相対的な値・結果から総合的学力の達成状況を分析し、弱点改善に望んでほしい。 ・学びたい、わかりたいという前向きな姿勢の児童が以前より増えている。日々の学級経営の成果が学習の雰囲気にも良い影響を及ぼしていると思う。 ・タブレットを使用しながら文字言語の育成とともに音声言語による表現力の育成を続けてほしい。
	「ICTを活用した授業に取り組んでいる」教員の割合85%以上	「タブレットなどICT機器を活用して指導する」教員の割合は90%。昨年とほぼ変わりはないが、タブレットの使用頻度は高く、アプリの新しい機能等も活用し、毎日多くの学習場面で活用されていて、進んで学習に向かえる児童も増えている。	B		
	「読み解く力」を意識した授業づくりに努め、グループ学習を効果的に実施し、交流を深める授業を仕組む。	「読み解く力」を意識した授業づくりに校内研究の柱の一つとし、読み解く力の検証や授業研究に力点を置いて取り組んできた。また、ICTを有効活用し、どのようにすれば「互いの考えを深め、高め合う」ことができるかの研究をすすめた。	B		
（おもいやり） 自他を愛する豊かな心の育成	「学校に来るのが楽しい」の児童の評価80%以上	「学校に来るのが楽しい」の児童評価は90%で、昨年をやや上回っている。保護者評価は93%。ただし、不登校気味の児童や別室登校児童が増加傾向にある。個別のみとりと声かけをした。	A	B	・学校に行きにくい子どもについて教員（担任）だけでなく、子どもに関わる多くの機関との連携がさらに必要となってくる。 ・人権感覚を磨くにあたり、まず、個々の自己肯定感を高めることが大切。先生方は、一人一人を認める機会を意識的に設けてほしい。 ・登下校時などは、子どもたちのあいさつが気持ちよい。校内でも来校者に出会った時、同様に自然なふるまいができることを期待する。 ・多くの児童が学校は楽しいと回答していることから先生方の努力を感じる。様々な機会を活かして集団作りにより居心地の良い学校の維持に努めてほしい。
	校内人権の日に、教員が交代で人権啓発のメッセージを伝える。	年度当初に、各学級で「安心ルール」を決め、児童の実態に応じた説話を担任が行っている。また、「見つけよう友だちのいいところ 見つけよう自分のこと」をテーマに校内人権週間を行い、各学級では「やさしさの木」の取組を行った。「友だちのことを考えて行動している」の児童評価は93%	A		
	「学校はいじめ問題に誠実に取り組んでいる」の保護者評価80%以上	「先生はいじめのときはしっかり直させてくれる」の児童評価は93%。「学校はいじめ問題に誠実に取り組んでいる」の保護者評価は60%。ただし、わからないが30%。いじめ点検会議を毎週行い、全教職員で共通認識し、いじめ事業に取り組んでいるが、目に見える形での取組も必要	B		
（たくましい子） 体力や気力、生きる力の育成	「すこやかタイムをはじめ、教育活動全般で体力づくりを図る」の教職員の自己評価80%以上	今年度も、運動会（半日）、マラソン大会、すこやかタイム等、予定通り行うことができた。教師の自己評価90%。子どもたちも、「外で遊んだり、すすんで運動している」と答えた子は、91%。また、市陸上記録会へ向け6年生全員が中学生指導のもと北小学校と合同で練習することができた。	A	B	・感染症で学年閉鎖や学級閉鎖となったことは、対策を考えるべき。 ・学室においては、外遊びをしたがる子どもが多く、できるだけ機会を増やしたい。 ・夏休みは熱中症対策のため外に出られず、新たな対策が必要 ・体力や気力育成の一つに食育がある。コロナ禍以降、以前のような指導は難しいと思われるが、残食の様子やマナーの面での課題がある。もちろん可能な範囲でのことだが、一歩踏み込んだ指導ができるとよい。 ・業間などの時間では、遊びを通した体力づくりを企画してみてほしい。運動会やマラソン大会でまじめに活動にとりくんでいる児童の姿に感動した。
	健康で安全な生活を意識させる指導の工夫	感染予防に注意し、教育活動に取り組んできた。避難訓練についても、今年度は、火災や地震に対する避難訓練、不審者対応の訓練、および、保護者への引き渡し訓練も予定通り実施できた。	B		
	「異なる学年の友だちとも仲良く活動できる」児童の割合80%以上	「異なる学年の友だちとも仲良く活動できる」の児童評価は、88%。昼休みや長休みには、6年生が1年生教室を訪れたり、いろいろな学年の児童と一緒にサッカーをする様子等がよく見られた。また、6年生の掃除リーダーの取組や児童会の秋祭りの取組がよい結果をもたらしている。	B		
地域とともにある学校	学校・地域連携カリキュラムの実践、見直しを行う。	学校地域連携カリキュラムは、中学校区での統一したテーマをもとに職員研修、熟議を経て完成。今年度から実践している。今年度の結果から、課題を見つけ、見直しをし、持続可能なものにしていく必要がある。	A	A	・住民自治協議会との連携をさらに強め、「地域の大人と子供が一緒に活動する機会が増える」とよい。 ・行事、校外活動などにおけるボランティア活動は普段からもっと保護者の協力や参加を得たいし、得るべきところである。学校、PTA等から積極的に根気強く広報していく。 ・連携カリキュラムは、実践しながらさらに更新を進めて、地域の人材を取り込んでいってほしい。
	学校運営協議会の熟議を経た意見をもとに、全委員が執行者として学校運営にかかわりを持てるようにする。	学校運営協議会では、今年度、学校地域連携カリキュラム実行・見直しへ向け、熟議を行い、ご示唆をいただけた。特に、今年度も夏の第2回では、全教職員との熟議の場を設定することができ、学校運営委員会委員と教職員が意見交流するよい場となった。	A		
小中一貫教育の推進	小中一貫教育標準カリキュラムを活かした授業づくり。	小中一貫教育推進COのもと、今津中学校区での取組を進めてきた。小中学校の教職員が集まり、部会別研修や授業参観等の教員研修を実施した。さらに、学校地域連携カリキュラムについても小中連携して行う取組を考えた。	B	B	・高学年になるにつけ、次のステップをめざしたつながりになる事業が必要。子どもの数が減る中、北小との合同事業も重要 ・児童にも、教職員にも無理のないように取り組んでほしい。
	学校地域連携カリキュラムの実践の中で小中学校の児童生徒の交流の促進をはかる。	小から中への滑らかな接続のために、方法や時期を工夫して、陸上記録会練習、中学校での部活体験や「ようこそ先輩事業」を行った。また、学校地域連携カリキュラムの中でも小中連携事業を行った。	A		

	総	評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点	
学校関係者評価	○ICTを活用することは大切だが、自分の言葉で表現することも大切。自分の言葉で表現する子の育成をすべき。 ○タブレット端末を学習以外で使用している子はないか。タブレットの使用状況についても確認を ○あいさつなどの指導は、根気強く続けることが大事。それによって、自然とあいさつする態度が養える。 ○大人の目の届かないところでは、子どもたち同士の中では呼び捨てやひどい言葉遣いになっていることがある。 ○不登校は全国的にも増えている。今後も、一人ひとりをみて対応をすべき。 ○食べること・食べものに対する大切さ、思いやりなどを育成する食育指導を ○地域の力を自然と借りられるような地域の力を学校へ向ける取組にしていけないといけな ○小中連携して、系統立てた学習内容・学習ルールを確立していくことが大事			B	○今年度小中連携して作成したスキル系統表をもとに、タブレットの活用の仕方を確認し、「互いの考えを深め、高め合う」ためのタブレットの有効活用について他校の実践から学び、OJT研修をすすめ、学びの質の向上に努めたい。 ○あいさつなどの生活指導を継続的にを行い、子どもたちが元気で、楽しい学校になるような取組を進める。また、児童会を中心に、子ども自らが働きかけ、活動していく取組を仕掛けていきたい。さらに、多くの目で個別の見取りを確実にを行い、関係機関とも連携し、一人ひとりに寄りそった丁寧な指導をすすめる。 ○うがい・手洗いなどの基本的な感染症対策を継続し、運動する機会を確保しながら、体力低下を防ぐ取組を進める。また、食育指導を行い、食の大切さ・給食のありがたさに気づく取組になるようにする。 ○今年度から実施した学校地域連携カリキュラムを実践していく中で、課題について確認し、再度計画を立て直すことで持続可能な小中連携の取組や地域と一体となった教育活動ができるよう進めていきたい。そのために、地域のいろいろな組織や人とのつながりを深めていく必要がある。 また、北小学校および中学校と連携し、「ふるさとを思い 未来を拓く 今津っ子」をどう育てていくかを考え、共同授業研究やあいさつ運動などに取り組んでいきたい。

4段階評価（A 目標を十分に達成 B ほぼ目標を達成 C やや不十分 D 改善を要する）

学校教育目標	すすんで やさしく たくましく 人を思いやる豊かな心と自ら学ぶ意欲を持ち、ふるさとを愛する心身ともにたくましい子どもの育成	昨年度の評価概要	・少子高齢化が進む地域の実態を踏まえ、小規模校の良さが学校経営に活かされている。 ・コロナ禍による制限のある中で、保護者や地域連携をふまえた様々な取組の成果が子どもの元気な笑顔につながっていると評価できる。今後もこの取組が大いに成果につながるよう、工夫を重ね、可能な限り広げていただきたい。 ・「友達と仲よく過ごしていますか」に、児童の97％が○をしていることは評価できる。 ・課題や問題点が出てくる中、学校の細やかな対応にとても感謝している。今後、細部にも目を向け、なぜしなければならぬのか、子どもにも理解できるようにさらに指導してほしい。 ・ICT活用のリテラシーやモラルの指導を継続してほしい。	中期的目標	・学力の基礎基本の定着を図り、自分の考えたことを表現につなげる。 ・行事を通して成就感や自己存在感を深める学級づくり。 ・日頃から健康と体力を高めようとする意欲を育てる保健・安全指導の展開。 ・地域の特色を知り、ふるさとを愛する心情の育成。
--------	--	----------	--	-------	---

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評価	改善方策	学校関係者評価
学びあう子の育成のための力点 ◎考えたことを話し合い、言葉を工夫して表現する学習活動の工夫 ◎主体的な学びにつながる、わかる授業の実践 ◎ICTの活用 ・興味関心を抱かせ、思考につなぐ資料や考え方の提示 ・情報機器を使った学習の工夫とまとめ、発表機会の工夫	・「授業が分かる」と回答する児童・・・80％以上	2学期末で「国語・算数の勉強はよくわかります」と答えた児童98％、担任は100％がわかる授業のために事前に取り組んだと回答した。保護者は85％が「学校でお子さんは学習はよくわかったと言っている」と答えている。	A	A 外部研修の伝達講習を定期的に持ち、学校全体の指導力を高める。漢字プロ等朝学習の内容を工夫し、基礎基本の徹底を図る。 従来のドリル形式とタブレットを活用した家庭学習も取り入れ内容の充実を図る。 タブレットを活用し全員の意見を提示することで、自分の意見を述べる場を持つ。学年に応じた話し合い活動ができるように指導する。 情報モラル教育について、学年の実態に合わせて継続的な指導を徹底していく。	.情報モラルについては、保護者への周知も重要である。 ・タブレットの使用により、学習への興味は高まっている。さらに、文章を書く力の向上を期待する。
	・家庭学習時間の定着化・・・20分（1，2年生） 10分×学年（3年生以上）	家庭学習の時間は、学年の目標時間が達成できたと回答する児童が86％（昨年81％）、保護者は59％で昨年度より向上しているが、今後も粘り強い取り組みが必要である。	B		
	・話し合いを取り入れた学習活動 主体的・対話的で、深い学びの実現に向け、単元のまとめ等で随時ペア学習やグループ学習を実施	「友達と話し合うことで考えが深まったり、広がったりした」と93％（昨年86％）の児童が答えている。コロナ5類後、話し合い活動を通じて考えを深めたり広げたりする活動が着実に進んだ。	A		
	◎ICTを使った学習活動の充実 ・各教科の学習活動におけるタブレットの効果的な活用	タブレットは、各学級とも積極的に活用ができています。家庭にも持ち帰っている。家庭での利用のきまりを徹底するなどしてさらに適正な活用を促し、教員の研修も進めて有効的な授業での活用に努めている。	A		
◎いのち・人権を大切に ・「いのち」の大切さを全教科・領域を通じた指導 ・学級や縦割り活動における、好ましい人間関係づくり ◎いじめをなくそう ・日常生活の中で、「楽しい学校」について考えさせる。 ・人権集会を契機として自分たちからいじめをしない環境づくり	◎いのち・人権・思いやり ・やさしい言葉をかけられた経験 85％以上	今ずっとなかよし集会を2回実施した。「友達と仲よくすごしていますか。」の問いに児童の90％が過ごしていると答えている。多くの児童は思いやりをもって過ごしている。嫌な思いをする児童に対しては迅速な対応が必要と考え取り組んでいる。	A	B 職員全員で児童全員を指導することを心掛け、児童の呼び方や日ごろの言葉遣いなどを意識することで人権を尊重する環境をつくる。 いじめアンケートや教育相談を活用し、個々の思いを聞き取る。気になる児童には積極的に声をかけをし関係性を深めていく。道徳の授業の工夫をする。 児童会を中心にあいさつ運動を継続する。人権集会をして人権意識を高める。教職員の立哨の際も日頃から手本となるようなあいさつを意識的に実践する。	・あいさつに対する認識に児童と保護者で乖離が見受けられる。さらに地域の方へもあいさつができるような手立てが必要である。 ・いじめがあるという情報をつかみ、解決に向けて対応できていることが大切である。
	◎いじめのない学校づくり ・学校が楽しいと回答できる児童 90％以上	「学校で楽しく過ごさせているか。」に対して、児童は89％、保護者は95％が楽しく過ごしていると答えているが、「いじめがある」と答える児童もあり、いじめアンケートの分析や事象に合わせた対応、毎日の児童観察が必要である。	B		
	◎いじめのない学校づくり ・場にあったあいさつがしっかりとできる 85％以上	「元気にあいさつができていますか」は、児童は95％、保護者は69％となり、地域の方に対しても集団登下校時のあいさつができるよう指導を継続している。	B		
健やかなからだづくりのための力点 ◎体を動かすこと・外遊びの奨励と環境整備 ◎体力づくりの推進 自らの健康に関心を持ち、健康な毎日を送るための保健指導を推進	◎児童が体力向上の意欲を高める授業づくりや運動環境の工夫 ・外遊びをする子 80％以上 ・運動が好きと答える児童 80％以上	「天気の良い日は外で元気に遊ぶ」は、児童89％、保護者54％、「運動をすることが好きだ」と答えた児童89％、保護者は69％である。児童は冬季になってもよく外に出て運動や雪遊びをしている。また、苦手意識があっても縄跳び等に積極的に取り組んでいる。	A	A 個々に目標を持たせて体力づくりに取り組むようにする。校内放送等を活用し、引き続き手洗いやうがいなど感染予防に努める。 休み時間に運動をすること以外の方法で心や気持ちを切り替える児童もいることを理解しつつ、学級遊びも企画して外遊びの楽しさを経験できる機会を持つ。 タブレットの使用やゲームをする時間が長い児童もおり、PTAとともに「早寝早起き朝ごはん」の定着に粘り強く取り組む。	・児童の回答で10時までに就寝が少し下がっている。引き続き粘り強い取組に期待する。 ・早寝・早起き・朝ごはんの大切さを親子で学ぶ機会があるとよい。
	児童会企画（大玉転がし大会、なわとび大会）やマラソントайムで体力増進の機会を設定	大玉転がし大会は縦割りで協力し、練習もしっかり取り組めた。マラソンの練習も目標を持って黙々と走る児童が多く見られる。なわとび練習は、冬場の体力づくりに役立っている。	A		
	「早寝・早起き・朝ごはん」の取組をすすめ、コロナ対策を継続しつつ、健康で規則正しい生活を目指す。	「10時までに就寝」は保護者の93％（昨年86％）ができていますと回答。児童は91％（昨年96％）になる。学年が上がるにつれ夜更かしの傾向が強い。必要に応じたマスクの着用、手洗いの徹底等習慣化するよう指導を継続している。	B		
地域とともにある学校 ◎地域の教材の効果的活用と、地域人材からの学びの場を創出する小中一貫教育の推進 ◎発達段階に応じた学習規範の実施 ◎小中教員による授業づくり ◎学校・地域連携カリキュラムの実証	学校運営協議会 ・学校と地域がつながる機会や方法について協議し、地域に開かれた学校づくりに努める。	学校運営協議会では、学校地域連携カリキュラムの作成から、地域と学校のつながる機会について話し合いを深めた。新しいボランティアさんの募集の窓口を作ること、校区めぐり、焼き芋、マラソン見守り、九九や除草、左義長、にボランティアさんと呼ぶことができ児童の学習支援ができた。	B	B 地域人材を生かした活動については、地域連携カリキュラムに沿って、計画的に実行する。ボランティアさんの連絡調整の窓口を明確にして、教育活動の充実を目指す。 小中一貫教育の日に実施した部会の内容を共有し、目指す子ども像を明確にする。地域の活動を小中で連携して行う機会を増やす。	・地域とともにある学校づくりについて様々な取組がしっかりと行われている。特に、地域連携カリキュラムの充実やボランティアの拡充、左義長をはじめとする学校行事の地域への案内などは、大きな進展があった。 ・地域連携カリキュラムは、さらに深化を望む。
	小中合同による授業づくり ・共同授業研究を機会として、学区内の児童生徒の学力状況や学習課題にせまる。 ・中学校区で学校・地域連携カリキュラムの実証を行う。	小中一貫教育の日を今津中学校区内で設定し、お互いの様子を参観し合う公開授業ができた。また、次年度に向けて小中一貫教育で取り組む地域活動について本年度の取組をもとに具体的な内容の検討会を小中合同で進めている。	A		

学校関係者評価	総	評	評価	学校関係者評価を踏まえての改善点
	コロナ5類移行後、学校側の門戸は大きく広がってきたと評価できる。これからは、地域の人材も、学校の学習の中で、大いに活用していただき、児童の主体的な学びの場を作れるよう、さらなる関係の強化を期待する。 ・コロナ禍後、社会が変化していく中で、どのように学校と家庭が連携していくのか、課題は増えていくと思うが、一つ一つ取組を積み重ねているので、今年度の目標は達成できていると考える。		B	・小中一貫のつながりを意識し、保護者・地域と共に学校地域連携カリキュラムをさらに実証し、より実効的な取組になるよう検証を重ねていく。 ・ICT活用モラルについては、引き続き講師を招聘して、子ども向けの研修を継続し、安全に使いこなす姿勢を育てる。さらに、PTAと連携して、家庭でも使用時間や使い方について親子で相談して決めることにより、より良い使用の仕方と課題を明らかにし、ICT活用リテラシーを身につけるようにする。 ・毎日の生活リズムが整うようPTAにも働きかけ「早寝・早起き・朝ごはん」の取組を継続し、親子で振り返りができるようにする。 ・朝読書、教師やボランティアによる読み聞かせなどから、読書の楽しさを伝え、家庭での読書の習慣の定着を進める。

4段階評価（A 目標を十分に達成 B ほぼ目標を達成 C やや不十分 D 改善を要する）

(様式1)

令和5年度 学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立今津中学校

学校 教育 目標	ふるさとに愛着をもち 豊かな心と社会性を育み 夢の実現を図る生徒の育成 【校訓】 真理の探究・正義の実践・平和の愛好	昨 年 度 の 評 価 概 要	○学力の向上…B ・授業を楽しみにしている。(生徒69%) ・生徒が授業や学習をわかる、できる、楽しめるような工夫をした。(教職員87%) ○豊かな心づくり…B ・自分に自信のもてるよいところがある。(生徒66%) ・生徒の個性を認め、よさを伝えることができた。(教職員93%) ○健康な心身の育成…B ・困ったときは、先生に相談できそうな環境である。(生徒78%) ・学校には、いろいろと相談しやすい雰囲気がある。(保護者63%) ○地域連携…B ・PTA活動は保護者によく内容が伝わり充実している(保護者60%) ・学校と家庭が連携をとり、子どもの教育を進めている。(保護者64%)	中 期 的 目 標	○意欲をもって自ら学ぶ姿勢を育成する ○豊かな心を育む体験活動を実施する ○学友会活動を充実させ、自治的・自律的な集団を育成する ○正しい判断ができる生徒、規範意識が高い生徒を育成する ○保護者や地域に信頼され開かれた学校づくりを進める ○教師の授業力を向上させる ○生徒に寄り添い率先垂範する教師集団づくり
----------------	---	--------------------------------------	--	-----------------------	--

評価項目(指導力点)	指標:到達目標(成果指標・取組指標)	達成状況	評価	改善方策	学校関係者評価
学力向上・学習指導	①「楽しい、わかる、自信がもてる」授業が行われている。	生徒アンケートで「授業を楽しみにしている」と答えた生徒→73% 保護者評価で「子どもは、授業での学習を楽しみにしている様子がある」と答えた保護者→65% 教職員評価で「生徒が授業や学習をわかる、できる、楽しめるような工夫をした」という教職員→94%	B	B 昨年度よりも授業に取り組む姿勢が変わってきているが保護者には伝わりにくい。教職員も楽しみ、授業づくりを意識している。支援を要する生徒への対応を工夫したい。 タブレットを利用しながら意欲的に取り組む生徒が増えている。まだまだ、学力向上には結びつかないが、今後も統一した取組で学力向上につなげたい。 理解の定着につなげていきたい。生徒の努力を認めながら、得た知識理解を実践に運用できるような学習活動を取り入れ、自信をもたせたい。 班での学び合い活動が増えたため、安心して自分の意見や友人の意見を伝え合うことができている。今後も続けていきたい。	・授業を参観した際に、子どもたちが興味関心をもって活動に取り組む姿を見ることができた。なかには、興味関心をもてない子もいると思われるが、子どもたち同士で相談しやすい雰囲気があると感じた。 ・先生たちの配慮や工夫が見られた。今後も学習意欲が高まる授業や支援をお願いしたい。
	②学習面において子どもが自ら進んで取り組んでいる。	生徒アンケートで「わかる、できるようになるために自分から学ぼうとしている」と答えた生徒→85% 保護者評価で「子どもは自分から進んで学習に取り組む様子がある」と答えた保護者→63% 教職員評価で「主体性の育成のための授業づくりに意欲的であった」と答えた教職員→81%	B		
	③生徒は学習内容を理解できるように頑張っている。	生徒アンケートで「学習内容を理解できている」と答えた生徒→83% 保護者評価で「子どもは、学習内容ある程度理解している様子がある」と答えた保護者→72% 教職員評価で「アイデアの共有など、効果的なICTの活用を考え、実践した」と答えた教職員→94%	B		
	④安心して学習に取り組めている。	生徒アンケートで「仲間とともに考えたり、学び合ったりするなど、安心して学習することができる」と答えた生徒→88% 教職員評価で「安心して生活できる学級づくり、授業づくりに取り組んだ」と答えた教職員→88%	A		
豊かな心づくり	⑤道徳の授業の充実を図る。	生徒アンケートで「道徳の授業では自分のことや生き方について考えた」と答えた生徒→89% 教職員評価で「道徳の授業を重視し、他の教員と相談しながら、活動の充実」に努めた」と答えた教職員→69%	B	B タブレットを用いて、自分の意見や友人の意見がすぐに提示されるため、皆の前で発言しなくても多様な考えを共有することができる。毎時間、深く考えられている様子がある。改良を加えながら継続させたい。 行事がある日は欠席がほとんどなくなるほど、行事を楽しみにしている生徒が多い。生徒の主体性や成就感を育めるような行事をさらに工夫していきたい。 学友会活動も後期に入り、日常的な委員会活動が活性化してきた。生徒が自分事として学友会活動に積極的に取り組めるような工夫をしていきたい。 学校全体に気持ちのよい挨拶を交わす雰囲気が感じられる。地域からもお褒めの言葉をいただいている。 教職員は常に生徒個々に励みになるような声かけや取組をしている。生徒も少しずつ自信がもてていていると感じる。さらに一歩前に踏み出させたい。	・あいさつについては、地域や校舎内でも中学生は自然にできていると感じている。地域からも中学生があいさつをしてくれると元気になるという声も聞いている。 ・行事の日には欠席が少ないと聞いている。多くの生徒が楽しみにしている行事は今後も工夫しながら続けてほしい。今津中サポーター会も支援していきたい。 ・「自分に自信がもてるよいところがある」というのはなかなか自分では評価しにくいだろう。地域性もあるので、そこにとらわれなくてもいいのでないか。
	⑥集団を育成する行事を実施する。	生徒アンケートで「学校行事では、周りの人のことを考え、行事の成功のために行動できた」と答えた生徒→91% 保護者評価で「学校行事では、子どもが成長している様子が感じられた」と答えた保護者→89% 教職員評価で「学校行事では、学級や学年、学校の集団力を高められるよう、工夫や支援ができた」と答えた教職員→100%	A		
	⑦学友会活動を活性化する。	生徒アンケートで「学友会活動は主体的または協力的に行われている」と答えた生徒→78% 教職員評価で「学友会活動が、執行部を中心として、主体的な取組となるよう、相談・指導を行った」と答えた教職員→75%	B		
	⑧挨拶がしっかりできています。	生徒アンケートで「挨拶をしっかりと行えている」と答えた生徒→90% 保護者評価で「子どもは、挨拶をしっかりと行えている様子がある」と答えた保護者→80% 教職員評価で「生徒たちが挨拶をしっかりと伝えるよう、率先して挨拶をした」と答えた教職員→94%	A		
	⑨自分に自信のもてるところがあると感じる。	生徒アンケートで「自分に自信のもてるところがある」と答えた生徒→69% 教職員評価で「生徒の個性を認め、よさを伝えることができた」と答えた教職員→94%	B		
健康な心身の育成	⑩生徒が学校が楽しいという環境をつくる。	生徒アンケートで「学校は楽しい」と答えた生徒→81% 保護者評価で「子どもは家では学校が楽しんでいる様子がある」と答えた保護者→78% 教職員評価で「生徒が安心して学校生活を送れるよう、生徒どうしをつなげる工夫をした」と答えた教職員→94%	A	A 丁寧な生徒観察に努めて、その情報を共有することにより、さらに個々の生徒の気持ちに寄り添った対応を行っている。 生徒の奉仕の精神や感謝の気持ち等を育む価値のある活動の一つとして大切に、その活動の質を高める。校舎周辺の清掃活動も行いたい。 工夫した楽しい学校行事を行っていることもあり、生徒はいきいきと活動に取り組んでいた。さらに効果的な活動を自主的に考えさせたい。 教育相談週間以外にも常に相談できる雰囲気はつづけている。以前に比べ話しやすいと思われる。今後も生徒に寄り添った教育支援を行いたい。	・多くの生徒が学校行事を楽しんでいる様子が見える。なかには、家庭のことや友人関係で悩み楽しくないと感じている子がいると思われるが、個々に丁寧な対応をしてくださっている。 ・考えが違う他者とも活動を通して、仲間づくりや人との関わり方を学んでいってほしい。今後先生方の一人ひとり生徒に寄り添った指導や支援に期待している。
	⑪生徒が清掃活動をしっかりできるようにする。	生徒アンケートで「清掃活動を頑張っている」と答えた生徒→93% 教職員評価で「生徒が清掃活動を頑張れるよう役割分担や明確な指示、主体性をもたせる工夫をした」と答えた教職員→81%	A		
	⑫学校・学年行事を楽しめる生徒を90%以上にする。	生徒アンケートで「学校行事や部活動などに進んで参加し、楽しめている」と答えた生徒→91% 保護者評価で「子どもは学校行事や部活動などに進んで参加し、楽しめている様子がある」と答えた保護者→90% 教職員評価で「生徒は学校行事や部活動などに進んで参加するよう、声かけや支援を行った」と答えた教職員→94%	A		
	⑬困ったときに先生に相談できそうな環境である。	生徒アンケートで「困ったときは、先生に相談できそうな環境である」と答えた生徒→82% 保護者評価で「子どもに対して、学校からの日常生活の支援が丁寧になされている」と答えた保護者→81% 教職員評価で「生徒の様子の変化が気になったので、支援の声かけを行った」と答えた教職員→100%	A		
地域連携 教職員の資質向上	⑭PTA活動や地域の団体との連携を図り、活動を充実させる。	保護者評価で「PTA活動は、保護者によく内容が伝わり充実している」と答えた保護者→64% 教職員評価で「地域の生徒の育成を目指して、サポーター会や地域の団体と連携するよう」に努めた」と答えた教職員→56%	B	B PTA活動やサポーター会活動の内容について、学校通信等でお知らせしているが、十分には伝わっていない。地域連携はアンケート結果以上にできている。 学校地域連携カリキュラムなど、地域と学校がかかわりをもちながら教育活動を行う事ができている。今後さらに負担にならない程度に進めたい。 HP、通信等で学校の様子を情報発信したり、保護者アンケートを通して様々な思いを把握したりする。 若手教員が多いため、経験豊富な教員と互いに授業を参観するなどOJTを通して研修を充実させたい。	・ようやくPTA活動も、内容を精選しながらできるようにになった。無理のないように活動を続けてほしい。 ・OJTなどを通して研修ができていると思われる。校内での研修を通して人材育成に努力を続けてほしい。
	⑮地域とともにある学校づくりを進める。	保護者評価で「学校と家庭が連携をとり、子どもの教育を進めている」と答えた保護者→66% 教職員評価で「自校の教職員だけでなく、地域の大人が子どもの支援に関わりうとする体制であった」と答えた教職員→81%	B		
	⑯HPや通信等を通して学校での生徒の様子や取組を発信する。	保護者評価で「学校や学級からの通信や案内は、適切に配布されている」と答えた保護者→92% 学校により(今中スクラム)は区を通して全戸回覧をしている。	A		
	⑰校内研究・OJTの推進、研修の充実を図る。	教職員評価で「日頃から職員どうしで連絡や相談を行い、校内OJTを推進した」と答えた教職員→100% 教職員評価で「学校の課題の解決に向けた研修や資質の向上のための校内研修は充実していた」と答えた教職員→88%	A		

学校関係者評価	総	評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	○生徒の様子から ・落ち着いた様子で、仲間と協力しながら学校生活を送ることができている。学校行事や授業などを参観しても、生徒も先生方も楽しんで取り組めていると感じた。地域でも学校でもしっかりと挨拶ができおり、今後も続けてほしい。生徒も参加した学校運営協議会でできた生徒の願いが、今津中サポーター会の協力を得て実現できたことは大きい。 ○学力向上について ・授業中はしっかり取り組んでいるように感じる。苦手な意識がある生徒の興味関心を高めることは難しいと思われる。家庭学習を充実させながら、自信をもたせてやってほしい。授業が「楽しい・わかる・できる」が大切だと感じる。引き続き、子どもたちがやりたいと思えるような様々な出会いを学校にも期待したい。 ○家庭や地域において ・学校地域連携カリキュラムでの「びわ湖岸のハマビルガオ保全活動、外来種駆除」は地域住民自治協議会も動き活動することができた。また、3年生と地域住民との「大人としゃべり場～トークフォークダンス～」も実施することができたため、地域と学校とのつながりが深まった。		B	◎学校行事の精選と充実 ・学校行事を通して、生徒が楽しく活動し目的を達成する様子が見えた。行事の内容やあり方を再検討し、最も適した状況で学校行事を精選し、今後もあたりまえにとらわれず新しい学校行事の在り方を考え実行していきたい。 ◎学力向上に向けて ・生徒の学ぶ力の向上、学習に対する関心意欲を高めることは喫緊の課題である。楽しい授業、わかる喜びを感じ取る授業を展開し、教師が個々の生徒に寄り添いながら生徒に自己肯定感をもたせ、生徒自らが主体的に学習に取り組む姿勢を見につけさせたい。 ◎「地域とともにある学校」の推進に向けて ・PTAや今津中学校サポーター会などとの連携を強め、教育活動に関わっていただける気運を高めていきたい。 ・生徒が地域で活動できる、地域で生きる場を見つけ、地域の活性化に努めていきたい。そのため、「大人としゃべり場～トークフォークダンス」を継続して実施したい。 ・地域学校協働活動において、熟議をしながら教育カリキュラムの編成を行いたい。来年度も「びわ湖岸での活動」を続けたい。

4段階評価(A 目標を十分に達成 B ほぼ目標を達成 C やや不十分 D 改善を要する)

(様式1)

令和5年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立朽木東小学校

学校 教育 目標	『心身ともにたくましく、ふる里を愛する 人間性豊かな 子どもの育成』 なかよく たっしやで きばる子 (共生) (自立) (創造) 徳 体 知	昨 年 度 の 評 価 概 要	学校関係者評価 B 基礎学力は定着しており、学校としての努力が実を結んでいる。いろんなことに丁寧に、子どもたちに関わっていただく様子を伺い、大変有り難いことだと思う。地域と連携して体験学習を積み重ねていく事が大切だと感じる。それを学校地域連携カリキュラムとしてまとめられたことは良かったと思うが、そのカリキュラムを生きたものにしていくためには、年度ごとの振り返りが大事になる。コロナ禍の中、子どもたちの「今しかできない」学びや体験をできるだけ守りたいという学校の思いがよく伝わった一年だった。特にサイクリングは、先生方の努力や、保護者や地域の方の協力、子どもたちのがんばり、すべてが合わさって行うことができ、本当に感動した。今後、児童数が減少していくことは確実であるが、少人数だからこそ、自然豊かな朽木だからこそできる学びや体験をこれからも続けていきたい。高校やその他の多人数の中に入った時に、何か自信が持てるものがあれば良いと思う。少人数だからこそ、そんな一人ひとりにつけたい力と向き合えるのではないかとと思う。	中 期 的 目 標	1. 地域とともにある学校を目指す + 『夢』『志』をもって学び合う学校づくりを推進する ・中学校区保幼小中一貫教育10年目 ・コミュニティースクール6年目 2. 授業改善・指導力を向上し、児童が学びを実感できる授業の実践 ・道徳・外国語・ICT機器活用・学び合いに重点を置いた授業改善・授業研究 3. 「気づき・考え・行動する」子に「伝える」場を与えて、プレゼン力の伸長を促進 (コミュニケーション力の育成)・楽しく明日も来たくなる学校の創造
----------------	---	--------------------------------------	--	-----------------------	---

	評価項目(指導力点)	指標:到達目標(成果指標・取組指標)	達成状況	評価	改善方策	学校関係者評価
なかよく (徳)	①仲間・集団づくり ・心に響く道徳授業 ・いじめを許さない学校づくり ・共感的人間関係の育成	保護者への道徳授業公開 (各学年 1回以上/年間) 水曜1校時または2校時を「道徳」の時間として、計画通り進める 児童集会での個人発表機会 (1回/年間) 縦割り活動など仲間づくり	保護者への道徳学習参観を12月に実施。各学年のカリキュラムに基づき道徳授業を展開(通年 毎水曜日) 今年度は一堂に会しての児童集会を実施し、始業式・終業式後の「みんなの広場」で年間1回の個人発表実施(100%)。全校縦割り遊びを実施	B A	A	今後も道徳授業を全学年水曜の時間割に位置付けて実施することで、時数確保と授業改善の機運を高める。道徳の保護者参観は継続。外部人材を活用した道徳も模索していく。児童発表の場を複数回持てるよう工夫する。 地域の自然や地域人材との連携により、朽木ならではの学習を継続し、さらに積み上げていく。学習発表の場を今後も3学期に設定することとし、学習成果を参観者に伝え、児童のプレゼン能力・発表力を伸ばす場とする。 「学校いじめ防止基本方針」の見直し・改訂を随時実施し、実効性のある取組とする。社協と連携した福祉教育は各学年の内容を継続していく。人権教育を中心にいじめ防止に向けた意識を更に高めていく。
	②共生する力・生き方学習継続 ・特色ある地域学習の継承発展 ・森林・田んぼ・自然体験活動 ・他校との交流活動の実施	(低学年)稚拙放流・町探検(中学年)森林学習・どんぐりプロジェクト(高学年)オグラス登山・米作り・どんぐりプロジェクト キャリア教育に繋ぐ学習発表機会(1回/年間 3学期実施)	各種団体・地域連携や保護者がボランティアの協力を得て地域学習を実施 「朽木の自然の良さを知ることができました」(児童100%) 今年度は全校が一堂に会して実施。各学年1年間の学びの成果を保護者の前で発表(2/9学校開放日)	A A		
	③特別支援教育・福祉教育推進 ・個別支援計画による指導相談 ・保護者・専門的関係機関連携 ・障がい児(者)理解教育推進	福祉教育計画的実施(社協連携)(各学年1単元/年間) 毎月「校内人権の日」の取組実施(100%) 県の人権学習資料の活用(全学年)	社会福祉協議会と連携、各学年の発達段階に応じた学習を実施(100%) 1年視覚障害 2・3年聴覚障害 4・6年高齢者 5年ユニバーサルデザイン 人権を大切にする学級目標を立て、取組後の振り返りも実施。(100%)「人にいじわるや仲間はずれをしないようにします」(児童100%)	A A		
	④命を大事にする環境づくり ・命の学習・安全教育取組 ・教育相談週間計画実施 ・SOSアソート等調査結果の活用	『命の授業』2・4・6年(1回/年) 避難訓練・引き渡し訓練(4回/年) 「学校が楽しい」と思う児童(100%) アンケート調査結果をもとに指導対応、ケース会議(随時)	外部講師を招いて発達段階に応じた「命の授業」を計画的に実施。非常時の引き渡し訓練は、隔年実施のため今年度保幼小中合同で実施 「学校は楽しい」(1~3年児童100%4~6年児童83%)いじめアンケート・教育相談週間・ケース会議等により、個々に応じた受け止めや対応ができた。	A B		
たっしやで (体)	⑤生活習慣確立・食育推進 ・『NO!メディアウィーク』 ・『早寝 早起き 朝ごはん』 ・保健学習・食育指導の充実	『NO!メディアウィーク』の工夫実施・中学校区取組(100%) 栄養教諭による食育指導(各学年 100%) 朝食摂取率(100%)	10年以上の取組として定着(每学期実施100%)。2年前から保幼小中一貫教育の一環として中学校区全体で取組を進め、今年度内容を改善 食育指導は栄養教諭の指導により全学年で実施(100%)。6年生は養護教諭も入ってのTT指導。朝食摂取率(毎日食べている96%だいたい食べている4%)	A A	A	今後も、校外活動における安全マニュアルに基いた安全対策を徹底して教育活動を行う。特に次年度は、サイクリングに向けて万全な体制を整えていく。教育相談では、各種調査等に即応した面談・対応を実施し、関係課機関とも連携していく。 今年度改善を行ったノーメディアウィークの取組を次年度も見直し改善していく。今年度の保幼小中のアンケートを生かして内容を検討。栄養教諭による食育指導は、学活、保健、家庭科等の一環として今後も継続。 次年度の運動会も小中単独で開催予定(小中同一日 午前・小午後:中)。その中で小中交流を今年度よりも充実させる。日常の体育科や体育行事を通して、運動に親しむきっかけづくりをしていく。
	⑥体力向上策の継続 ・体育の授業、体育的行事の工夫 ・苦手種目克服・技能習得 ・みんな遊び・外遊びの奨励	少人数での工夫した体育の実施、運動会等の体育的行事の開催 体育的行事の内容工夫 鉄棒・一輪車・縄跳び・竹馬遊び等の技を増やす児童(100%)	学年部体育の実施。運動会は、6月の平日に種目を工夫して小学校単独開催。園・中学校とも連携 運動会やベースランニング走などの体育行事をきっかけに、体力づくりに積極的に取り組む児童が多かった。(児童100%)	A A		
	⑦学ぶ力向上のための授業改善 ・「学び合い」授業の追究 ・課題解決的な学習の充実 ・高学年一部教科担任制	「授業が楽しい」「勉強がわかる」児童(100%) BUT小中合同学び合い学習実施(100%) 学力調査・確認テスト結果活用 PDCAによる学ぶ力向上策の推進(每学期)	「勉強は楽しい」(児童88%)「勉強はよくわかる」(児童100%) BUT小中合同学び合い学習実施(年間3回実施100%) 6年生全国学力調査は国語・算数ともに高い正答率。結果を分析して学ぶ力向上対策に生かしている。	A A		
	⑧学びの保障に向けた取組 ・ICT機器の有効活用 ・個別最適な学びの実現 ・朝学習の充実(漢検等)	タブレット端末等のICT機器を活用した授業(毎日) 朽木東小漢字検定の実施・朝読書の定着 外国語活動・考え、議論する道徳授業(毎週水曜日実施)の充実	タブレット一人1台端末配置の環境を生かして、毎日の学習活動で効果的に活用(100%)。漢字検定(毎週火曜日)や朝読書も定着 ALTとの外国語科・外国語活動は内容が充実。「道徳授業などで、相手の気持ちを考える、ルールを守るなどを一生懸命考えました」(児童96%)	A B		
きばる (知)	⑨学習規律確立・学習習慣定着 ・家庭学習「10分×学年」以上 ・朝読書 朝学習 補充学習 ・読書活動の充実(図書加)活用)	家庭学習時間10分~15分×学年(95%以上) 朝読書の実施(週3日) 図書貸し出しの利用(全学年) ボランティアによる「朝の読み聞かせ」の実施(1~3年)	全学年タブレット端末を毎日持ち帰って家庭学習でも活用 「宿題や自主学習に進んで取り組んでいます」(児童90%) 朝の読み聞かせは年度当初から実施。ブックトーク、訪問貸出の実施 「学校や家で進んで本を読みました」(1~3年児童100%4~6年児童76%)	B A	B	少人数の良さを生かすとともに、ICT機器の効果的活用による個別最適化の授業をめざす。BUTの取組継続。各種調査結果を分析し、見えてきた課題の解決に向け日常の授業を充実させるとともに授業研究会を実施し、授業改善を行っている。 児童のタブレット端末活用力も向上。市内先進校としてICT機器タブレット等の活用に向け、更に実践を蓄積する。漢字検定は、学習意欲の向上につながり、成果も出てきているので継続。 タブレット端末の持ち帰りに伴い、情報モラル教育も行い、家庭学習の内容も改善していく。読み聞かせや図書サロンの本の貸出は、児童も楽しみにしている。今後さらに読書環境の充実や家庭への啓発を行っていく。
	⑩地域とともに・繋がり響きあう学校 ・コミュニティースクール6年目 ・学校情報発信・地域連携の推進 ・保幼小中の連携	学校運営協議会・地域学校協働活動との一体化 学校地域連携カリキュラムの作成 学校だより(月1回)、保健だより(月1回)、結の会通信(随時) メール配信(毎週土曜日)	保幼小中一貫した学校地域連携カリキュラムを実践、検証、改善できた。 協働活動は地区推進員のコーディネートにより活動を工夫して実施 各種広報については目標回数をクリアしながら発行。学校だよりは目標を大きく上回り発行	A		
学 校 チ ーム					A	A 熟議を増やして、学校や地域の課題を関係者で共通理解し、その解決に向けての方向性を見出していく。今後子どもと地域の方が語り合える場も設定できるとよい。推進員と協力して地域学校協働活動をさらに推進していきたい。

学校関係者評価	総 評	評価	学校関係者評価を踏まえての改善点
	・基礎学力は、少人数であることやICT機器の活用、教職員の努力で、ほぼ定着しているように思う。 ・昨年度の評価と比べ、BからAになった項目が5つあり、学校として取り組まれてきたことが成果としてあらわれてきたと思う。 ・B評定の4項目は、教職員や家庭の働きかけで、児童の意欲をどう高めるか、児童のおかれている状況をどう改善していくかという課題である。この課題は、学校生活の中で教職員が最も意識を研ぎ澄まして対応すべきものであり、日常での不断の努力が求められる。 ・地域の人、もの、ことをこれからも活用し、子どもたちの成長を家庭、学校、地域のみならず支えていきたい。 ・これからも朽木ならではの体験や学習を増やし、ふるさとの思いを強くしてほしい。 ・コミュニティスクールの意味を全職員が理解し、活用してほしい。 ・日々のマスクも制約のない学校生活は、子どもたちにとってとても開放的で心地よく過ごせた1年だったと思う。今まで出来なかった分を取り戻すかのように、本当に様々な体験や行事があり、地域ボランティアの方もたくさん参加してくださって、盛りだくさんな1年であった。来年度以降子ども数が減少していくことは確実ですが、少人数を活かした大規模校ではできない朽木らしい学びが引き続きできることを願う。	A	・近年の児童数減少により、複式学級編成、さらに職員定数も減となり、体制にも影響が出ており、今後、状況はさらに厳しくなっていく。コロナ禍の中で工夫しながら教育活動を行ってきた経験を生かし、行事の厳選や見直しを行い、「子どもの学び」を最優先にした教育活動を行っていく。 ・今後も子どもたちにつけたい力について熟議しながら、学校運営協議会や地域学校協働活動を軸に、保護者や地域との連携を深め、理解、協力を得ながら、外部の力を取り入れた教育活動を行っていく。 ・今年度検証、見直しを行った「学校地域連携カリキュラム」を2年目も円滑に実施するとともに、随時検証、見直しを行っていく。保幼小中一貫教育の取組ともリンクさせ、情報発信を積極的に行い、「結の会」を中心とした地域学校協働活動のさらなる充実を目指す。 ・朽木独自の保幼小中一貫教育を継承・発展させていく。ノーメディアウィークの取組を改善しながら継続していく。 ・市内ICT活用先進校として、タブレット端末を有効活用した授業実践をさらに積み上げていくとともに、家庭学習での活用も工夫していく。 ・朽木地区の自然や文化を生かした教育活動を大切に継承していく。そのことで「ふるさと朽木」を大切に作る心情を育んでいく。 ・少人数の環境下で手厚くきめ細かく指導できる良さを生かして、児童一人ひとりの思いに寄り添いながら、相談や支援をしていく。また、少人数であっても、多様な考えに触れ、自分の考えをより深めていけるような手立てを講じる。

4段階評価(A 目標を十分に達成 B ほぼ目標を達成 C やや不十分 D 改善を要する)

学校教育目標	針畑を愛し、地域とともに 元気に生きる子どもの育成 ○ 自他の健康と命を大切にすることの育成 ○ 深く考え根気よく行動することの育成 ○ 豊かな心と夢をもつ子どもの育成	昨年度の評価概要	・児童は明るくのびのびと過ごしている。少人数だが、逆にモチベーションや向上心を高めている部分がある。多少乱暴な言葉遣いであってもいじめにつながるものではないと思うが、感謝の心を表す、先輩を敬う、友達を理解する、謙虚な気持ちで誰とでも接するなど、大人が見本を示していく必要がある。 ・外国語の指導や読書が充実している。ICTを使った授業も必要だが少人数のメリットを生かした授業も大切にしてほしい。西小学校の伝統でもある和太鼓も継続する方法を考えていく必要がある。地域に特化した授業（地元の古老の話や聞くなど）の機会も取り入れてほしい。 ・子どもが地域の方々を名字でなく「〇〇さん」と名前で呼んでいることには親しみを感じる。「チーム朽木西小」として、地域とPTAそして教職員間の交流をもっと深めたい。	中期的目標	・へき地校ならではの教育活動の工夫 ・保幼小中一貫教育の一層の充実 ＜東小との交流、合同学習＞ ・「地域とともにある学校」の推進 ・キャリア教育の充実
--------	--	----------	--	-------	---

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評価	改善方策	学校関係者評価
○ 自他の健康と命を大切にすることの育成 1. 適切な言葉遣いの習慣化 2. いじめを許さない学校づくり 3. 体力の向上 4. 安全・健康に対する意識強化 5. 防災・安全教育の推進	①TPOに応じたあいさつ、言葉遣いの定着【毎学期末自己評価】	朝や帰りの挨拶がはきちんとできている。また、子どもなりにTPOに合わせて言葉遣いができつつある。時折心ない言葉遣いが見受けられる。	B	B 親しい間柄でも言葉を選んで会話できるよう、引き続き職員全員で指導を繰り返す。 マイナス思考の言葉が多いので、プラス思考の言葉遣いが心掛けられるよう働きかける。 現状を踏まえて目標を見直し、個別の遊びでもよいので、引き続き運動遊びを推奨する。 歯磨きの指導は引き続き学校でも行う。家庭での生活に関して個別懇談などで話題にする。 複数年での学習時などに、各担当が意識して取り組むようにする。 次年度も継続して地域と協働して取り組む。命の安全教育についても取り組めるようにする。	・登下校中の挨拶はしっかりできている。 ・適切な言葉遣いの習慣化という点においては、学校外に対する話し方と友だちや家族との会話で区別している様子が気になる。 ・いじめはないと思う。 ・体力の向上等については、学年が違うので、全員での目標ではなく個人の目標を作る必要があるのではないかな。 ・遊びを通じての体力向上は難しいのではないかな。
	②児童会によるいじめ防止の取組【毎学期1回】	児童会で毎月の生活目標を相談する際、相手の気持ちを考えることも話題に取り上げられている。相手の気持ちを考えた言動できるようになってきた。	A		
	③長休み・昼休み等を活用した全校での運動遊び【毎日】	年齢差や性別差などがあり、全員が同じ行動することが難しくなっている。	C		
	④生活リズム定着に向けた指導【毎日】	学校では片づけや手洗い等、基本的な生活習慣は身につけているが、週初めに体調不良の訴えがあることから、家庭での生活の乱れが出てい	B		
	⑤「自学自習」の実践【毎学期末自己評価】	学級の児童数が1～2名ではなかなか身に付きにくい状況にある。	B		
	⑥保護者や地域・関係機関等との連携による実践的な防災・安全学習【年間4回程度】＜地域防災福祉組との連携＞	地域の方は防災意識が高く、協力的である。児童と地域の方との心肺蘇生の講習会や放水訓練等は、他の地域にはない特徴的な取組みになった。	A		
○ 深く考え根気よく行動することの育成 1. 深く考える指導の工夫 2. 自主的、実践的態度の育成 ＜自学自習の力＞ 3. 学習意欲の向上と基礎・基本の定着 4. 家庭学習の工夫と習慣化 5. 保幼小中一貫教育での学びの充実＜遠隔授業交流・遠隔合同学習＞ 6. 外国語教育の推進 7. 読書活動の充実	①極少人数の良さを生かした授業改善(自学自習)（一人一授業公開、授業研究会の実施）【100%】	友だちの意見をふまえて考えたり協働的な学習に取り組んだりすることは難しいが、実りのある校内研究会となった。	A	A 授業改善に関する研究を引き続き取り組む。 児童のペースに合わせた学習を行い、充実感が味わえる授業づくりを進める。 活用する場面を精査し、手書きや書物による調べ学習もあえて取り入れるようにする。 中学校教員による教科担任制の授業は可能な形で実施できるよう検討する。 次年度は高学年が不在であるため、隔週の授業でよい。時間数を調整する。 テレビがある家庭が少ないので、新聞等の活用で時事問題についても高学年では考えさせる。	・学習意欲の向上という観点では、児童個人の個性を生かした学習ができていることは、個人の向上心に繋がっていると思う。 ・西小学校ならではののびのびと開かれた教育活動を期待する。 ・教科担任制の授業は良いアイデアだと思う。
	②「授業が楽しい、勉強がわかる」児童の評価【100%】	体験的な活動のための時間が十分にあり、児童のペースに合わせて納得のいくまで学習できている。	B		
	③効果的なICT機器の活用（一人一台タブレット）【随時】	児童は活用ができる機能や場面を理解しており、使いこなせている。	B		
	④東小学校での交流学习・BUT・遠隔授業交流・遠隔合同学習や中学校教員による教科担任制授業の実施【年間複数回実施】	東小や中学校との直接的な交流学习は予定どおりできた。コロナ明けで遠隔授業の必要性がなくなり、実施できていない。	B		
	⑤コミュニケーション能力の素地を培う外国語指導助手とのTT授業（遠隔授業）【低10時間・中35時間・高70時間】	授業だけでなく楽しいイベントを取り入れることで、外国文化を含めて相互理解につながった。時間数も充分確保できた。遠隔授業は必要なかった。	A		
	⑥読書の質の向上 ・朝読の実施、家読の奨励、新聞記事の活用 ・「お気に入りの1冊」発表会【毎学期1回】 ・読書量の増加【月：低10冊、中5冊、高3冊以上】	児童が興味を示す図書が多く贈呈され、進んで読書に親しんでいる。朝読書は確実に実施できていないが、読書量は確保できている。毎月図書サロンの本が届くことがありがたい。	A		
○ 豊かな心と夢をもつ子どもの育成 1. 体験を通じた学びの充実 2. マ이스クール事業の推進 3. 自分の思いや感謝の気持ちを豊かに表現できる心の育成 4. 考えを深め心にひびく道徳教育の推進 5. きめ細かな教育相談の実施 6. 系統立てたキャリア教育の推進	①地域、自然、文化を生かした体験学習【年間7回以上】	芦生原生林の散策、小入峠の登山など、地域の自然の素晴らしさを体感し、郷土の自然に対する誇りがもてた。地域訪問や文化祭などの催しを通じて地域の高齢者とも心通わす、人と人との繋がりができた。	A	A 地域の自然や人、文化に触れる活動は児童数が少なくなっても継続していく。 低学年化する児童のことを踏まえ、年間を通じて練習できるような計画を立てる必要がある。 感謝の気持ちを伝えたり、感謝される行動を自然にしたりできるよう機を逃さず指導する。 道徳以外の授業でも気軽に参観してもらえる機会を設けるようにする。 情報共有をもとに、それぞれの役割を生かした組織対応ができるようにする。 キャリアパスポート以外にも、短期の夢（なりたい姿）について話す場面を設定する。	・短期の夢でもいいので児童の思いを尊重すること、時折夢の進捗度を聞くことなどで、児童は気にかけてもらっているという信頼感が生まれるのではないかな。 ・地域の人と関わる行事（運動会、地域訪問、授業参観、グラウンドゴルフ、登山等）での大人との会話や行いを見ることが子どもたちの心の肥やしになっていると思う。
	②和太鼓演奏の技能の向上とその成果の発表【運動会・文化祭・感謝祭・交流事業等年間5回以上】	演目を工夫することで、1年生を含めた構成で予定どおりの演奏が全てでき、児童の技術の向上につながった。	A		
	③感謝する心の育成と仲間づくり【毎学期末自己評価】	地域の方々との触れあいや多くの講師との出会いから、へき地にいながらも感謝する心は育まれ、児童間でも思いやりの言葉が聞かれる。	B		
	④地域の方や保護者が参画する道徳授業の実施【年間1回】	年に一回の授業だが予定どおり実施でき、相互理解に役立った。戦争体験を聞くよい機会にもなった。	A		
	⑤きめ細かな教育相談の実施と全職員による情報共有・対応【随時】	毎月の職員会議の他、朝の打合せや放課後等に常に情報共有ができ、全児童について全職員が理解し、適切に関われている。	B		
	⑥「キャリアパスポート」の活用、キャリア教育の推進【毎学期末自己評価】	年度初めや学期末に忘れず取り組むことができた。自己の未来像への思いが足跡となって残るよい記録となっている。	B		
○地域とともにある学校づくり（チーム朽木西） 1. 保護者や地域、関係団体・機関等との情報共有と信頼関係の構築 2. 学校運営協議会の運営と地域学校協働活動の推進	①保護者会・学校評価等でのニーズの把握と学校だより・HP更新による情報発信【随時】	地域とのつながりができており、地域のニーズや要望が把握しやすい。学校だよりの発行（保護者、地域）、ホームページへの掲載も確実にできている。	A	B 引き続き地域との連携を大切にし、気軽に情報を伝えてもらえる関係づくりに努める。 学校運営協議会の方との関係づくりに努め、学校運営について気軽に相談できるようにする。	・今年は「チーム朽木西」として、地域とPTAそして教職員の距離が近くなった気がする。 ・地域とともにある学校として、地域の人材（小川Sさん）や伝統（古屋六斎念仏）を活用してほしい。
	②学校運営協議会での学校教育目標や経営方針等の共有、課題解決に向けた熟議【年間5回】	PTA幹事会や学校運営協議会での熟議により、文化祭等への下針畑の方々の招待方法などを検討し、実行することができた。	B		

学校関係者評価	総評	評価	学校関係者評価を踏まえての改善点
	・へき地校の極小規模校ではあるが、公立学校としての様々な制約・制限がある中、朽木西小学校ならではの教育活動が展開されている。また、一人ひとりの行動や考えが尊重されるため、いじめ等が発生していないことはよいことだ。 ・個々の児童の個性や学習意欲を大切にしているので、向上心の伸長に繋がっている。一方で体力向上においては、学年が異なる集団であること、少人数であることが課題になっているので、個人個人の目標設定が必要である。 ・地域住民との関わる行事が多く、大人の言動を知るよい機会になっており、児童の成長に繋がっている。今後も、様々な技術や知識を持つ地域人材、継承されてきた伝統行事や活動などの地域素材を活用した教育活動を展開してほしい。	A	①全校で児童は2人という極少人数集団の中で、一人ひとりの個性や発達段階、能力に応じた適切な目標設定をし、丁寧な学習指導や生活指導を行い、主体的に判断しながら行動できる児童の育成に努める。 ②西小学校がこれまで取り組んできた様々な活動について、踏襲・改善の視点で見直し、時代にあった本校らしい教育活動を推進する。 ③東小学校や中学校との交流の機会を大切にし、大きな集団での学習経験や生活経験を積み、社会の中で自信を持って生き抜く人格の形成に努める。 ④学校地域連携カリキュラムを基に、地域の文化を知る活動や地域の方とのつながりを大切にする活動を推進することで、地域を元気にし自らも元気に生きる児童の育成をする。教職員も地域とのつながりを意識して行動する。

学校 教育 目標	杉の木とともに 大地に根を張り 幹を太らせ たくましく伸びる ○朽木の自然と地域の人々とともに、ふる里を愛し、ふる里を語れる ○豊かな知識や技能、自分を支える体力、粘り強い精神力や豊かな人間性を高める ○夢や目標を持ち、自分で考え自分で判断し、たくましく未来を切り拓く	昨年度 の 評 価 概 要	○生徒の主体的・自主的な活動への評価が生徒、教職員共に高評価で良い。不登校生徒がいることが気になり、地域ぐるみの対応が大切だと感じる。 ○生徒の学習での積極的な発言やタブレット有効活用は評価したい。今後は、個々への手立てを期待したいし、授業改善にもしっかり取り組んでほしい。 ○学校・学級づくりが親子とも高評価であり、今後も教育相談等の充実を願いたい が、小規模校ゆえに目が届きすぎること気をつけてほしい。 ○今後、学校・地域連携カリキュラムの実施に向けて、地域の方々と巻き込み進められるとよい。卒業後、新しい環境に順応できる生徒の育成を期待する。	中 期 的 目 標	□『読み解く力』の視点を踏まえた授業づくり □目的意識と主体性を発揮できる場面の設定 □小中一貫教育の発展 □朽木を愛する心を育む体験活動の推進 □キャリア教育の充実 □学校運営協議会、地域学校協働本部を核とした「地域とともにある学校」の推進
----------------	--	------------------------------	--	-----------------------	--

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評価	改善方策	学校関係者評価
知「学習指導」 ◎「読み解く力」を核に、生徒が意欲的、主体的に取り組む授業の創造 ◎ICTの有効活用 ◎保幼小中一貫教育を通した系統性のある学習指導 ◎家庭学習の習慣化	○「授業がわかりやすい」と答える生徒が90%以上	「授業に真剣に取り組み、授業が楽しく感じられた。」は100%、「授業の内容はよくわかった。」は95%であった。	A	A	学習意欲を高めるための課題提示や学習方法を工夫していく。 生徒が個々の考えを深めるための手立ての研修を重ね、実践していく。 ICTの有効活用について研修を重ね、さらに積極的に活用していく。 課題の出し方や提出の仕方を工夫し、効果のあった取組を継続していく。 保幼小中のつながりを大切にした取組であり、今後も継続していく。
	○全教科で『読み解く力』の視点を踏まえた授業改善90%以上	「読み解く力」の視点を踏まえた授業改善を行い、授業力の向上に努めた教職員は100%であった。	A		
	○ICT機器の有効的な活用80%以上	ICTの有効的な活用について全職員で取り組んでいる。生徒も100%が有効なツールとして活用できたと答えている。	A		
	○宿題、自主学習、読書等の家庭学習が、1日60分以上の生徒が70%以上	家庭学習の評価については、生徒は81%であったが、保護者は48%であり、意識のずれがある。	B		
	○小中合同授業（Build Up Time）、保幼小中合同授業研究会の充実80%以上	小中合同授業研究会や小中合同授業（BUT）の取組は、計画的に運用され充実したものになっていたと答えた教職員は89%であった。	A		
「道徳、生徒指導等」 ◎いじめを許さない生徒指導の推進 ◎生徒個人に寄り添った教育相談の充実 ◎豊かな人間性・社会性をはぐくむ体験活動の推進 ◎道徳の授業と評価の研修	○居心地のよい学校・学級づくり（学校・学級は安心して過ごせる）90%以上	「学校、学級は安心して過ごすことができ、学校に来ることは楽しい。」と答えた生徒は100%、保護者の評価も、95%であった。	A	A	小規模校の良さを生かし、一人ひとりを大切にした取組を継続していく。 取組を検証しながら継続し、より良い生徒理解に努めていく。 SC等の関係機関と連携し、生徒の思いに寄りそう教育相談を継続していく。 生徒が目標を振り返る時間を確保するなど、達成感を味わえる工夫をしていく。 教材の選択や指導方法、評価の仕方など研修を重ねていく。
	○「ストップいじめ行動計画」に基づくいじめ撲滅に向けた取組推進と、いじめ防止対策委員会の開催（毎日）	いじめの早期発見、早期対応のため毎日の情報交換、振り返りアンケートなどに取り組んだ。（生徒評価90%、教職員評価88%）	A		
	○SCと連携しながら、生徒の思いに寄りそった相談活動の充実90%以上	「相談しやすい雰囲気大切にしている。」教職員は100%、「先生は、悩みや相談事に親身に対応してくれる。」と答えた生徒は95%であった。	A		
	○夢や目標の達成のために努力したり、新しいことに挑戦したと答える生徒が80%以上	今年度の指導力点の一つであり、生徒も少しずつ意識ができ、生徒の肯定的な評価は95%であった。	A		
	○「考え議論する道徳」への授業改善90%以上	教職員の授業改善への意識は100%と高く、生徒の肯定的な評価も100%であった。今後も発問や交流の仕方を研修していきたい。	A		
体「体育・保健・部活動」 ◎生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の育成 ◎体力の向上と健康の増進 ◎望ましい生活習慣の育成	○部活動の意欲的な取組90%以上	生徒の肯定的な評価は91%であった。2つの部活動であるが、個に応じた目標設定など意欲を引き出す指導が今後も重要である。	A	B	部活動は、先生の負担、得意不得意、生徒個人のやる気の有無、地域指導者の活用の仕方・・・バランスが大事なと思う。 部活動に対する生徒の思いが、「しっかり練習して力をつけたい」「みんなと楽しく活動したい」に分かれるように思うので、指導の工夫が必要と考える。地域の方の協力も考えながら生徒の力を伸ばしてほしい。
	○規則正しい生活習慣の定着80%以上	生徒の肯定的な評価は86%であったが、遅くまで起きている生徒は少なくない。保護者の肯定的な評価は79%であった。	B		
地域とともにある学校 「保幼小中一貫教育、地域連携」 ◎学びの連続性を重視した教育の推進 ◎学校と地域の協働による新しい文化の創造と発信	○滑らかな接続を目指す、保幼小中一貫教育による職員の連携、協力、協働80%以上	保幼小中間での相互の授業参観や研究会を通して、連携が深められたと答えた教職員は88%であった。	A	A	今年度の取組をしっかりと振り返り、来年につなげていく。 学校・地域連携カリキュラムの検証と見直しを継続していく。 学校の様子が保護者や地域の方に伝わる通信になるように工夫していく。
	○学校運営協議会、地域学校協働活動との協働による教育活動の充実	「地域の行事に積極的に参加している。」生徒は77%であったが、地域の方の協力や地域貢献活動を充実させることができた。	A		
	○「朽木中だより」「保健だより」「学級通信」等の発行により学校の様子がよく分かる90%以上	「学校だより」「保健だより」等を随時発行してきた。保護者の肯定的評価が90%以上であり、今後も継続していきたい。	A		
「主体性、自主・自律の精神の育成」 ◎主体的な活動による自主・自律の精神の育成 ◎自己の課題の克服と、自己研鑽への取組 ◎自主的、創造的な活動と縦割り活動の活性化 ◎地域貢献活動の推進	○「自分磨きタイム」の活動での主体的な取組90%以上	意欲的に取り組むことができた生徒は100%だったが、教職員の評価は50%であり評価に差が見られた。	B	A	次年度の「自分磨きタイム」は、日課の関係で行わないこととする。 自己肯定感や達成感を味わえるように支援をしていく。 3年生が1、2年生をリードし、意欲的に活動できるように支援していく。 地域との連携を大切に、より地域に貢献できる活動内容を検討していく。
	○学級活動、生徒会活動（行事等）、体験活動における主体的、創造的な取組90%以上	体育祭や文化祭の企画運営を生徒会が中心に行い、個々が意欲的に取り組んだ。1学期100%・2学期90%の生徒が充実していたと答えた。	A		
	○縦割り集団を生かした活動(委員会・清掃)への取組90%以上	「縦割り活動を生かした活動ができた。」と答えた教職員は100%、掃除に真剣に取り組んだ生徒は95%であった。	A		
	○地域貢献活動への積極的な参加	地域貢献活動（通学路の掃除、花壇の植え替え、雪囲い、プランターの運搬等）に全校生徒、環境委員会で取り組んだ。	A		

学校関係者評価	総 評	評価	学校関係者評価を踏まえての改善点
	・地域とつながろうという生徒の思いや先生方の協力があり、地域の中で中学生の力強さや頼りがい等いろいろな場面で見ることができた。今後も中学生の活躍を大いに期待する。 ・多様性が求められる現在、多様な人材や多様なアイデアや経験を生かして「革新」や「新たな価値」が生みだされる。多様なゆえ、意見のぶつかり合いもあるが、同じ目標に向かう共存意識を高めることで、より良い学校生活が送れると思う。 ・バスの時間が限定的で、放課後活動にしばらくがある中、先生方がより有意義に生徒たちが過ごせるように考えてくださっていることがわかりありがたい。	B	○誰もがわかる授業を目指して、今後もICTの有効活用や個に応じたきめ細かな指導の研修を重ねていく。 ○個々の生徒を大切にした教育相談の充実を図るとともに、不登校生徒や別室登校生徒の対応は関係機関等と連携し、生徒の望ましい成長に繋がるものにしていく。 ○「自分磨きタイム」を廃止することで効果的な日課運営に努め、昼休みの活用・部活動・生徒会活動の充実を目指す。また、教職員の働き方改革を推進する。 ○総合的な学習の時間や特別活動を中心に、生徒の主体的な活動を推進し、自主・自立の精神の育成に努める。 ○学校・地域連携カリキュラムを検証し、学校運営協議会委員の方と熟議を重ね、地域との協働を進める。

4段階評価（A 目標を十分に達成 B ほぼ目標を達成 C やや不十分 D 改善を要する）

(様式1)			令和5年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書			高島市立安曇小学校		
学校 教育 目標	豊かな心と自ら学び考える意欲をもつ 心身ともにたくましい安曇っ子の育成 じょうぶで がんばる やさしい子	昨 年 度 の 評 価 概 要	・子どもたち一人ひとりに寄り添い教育を行うことの大変さを感じた。学校の数居がまだまだ高い中において多くのボランティアが授業に関わっていただいていることは、素晴らしい。今後も継続してボランティアの呼び掛けを行う必要がある。地域から入っていき一緒にできる活動が増えるとよい。 ・ICT教育など、継続して良いところが伸びているし、良くなかったところも改善されている。やりがいや目標を感じられる授業ができれば、子どもたちの成長が見えそうである。 ・図書館リニューアルを機に、魅力ある空間にしてみたい。子どもたちの興味を引き出し、読書活動の推進に努めて欲しい。		中 期 的 目 標	・基礎、基本の確実な習得と、学び合いを活性化し、主体的・対話的で深い学びの創造 ・読解力等言語力、活用力を高める授業の展開 ・ICTの活用による、わかる、できる授業の創造 ・道徳教育の充実で豊かな人間関係を育成し、いじめを絶対に許さない仲間づくりの推進 ・健康、体力づくりと、豊かな心の育成 ・小中一貫教育の推進による教育課程や生徒指導面での連携とキャリア教育の一貫した取組 ・地域学校協働活動を核とした地域とともにある学校の推進		

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評価		改善方策	学校関係者評価
○自ら学び考え、行動する力を育む教育の創造 ・魅力ある授業で、基礎的・基本的な学習内容の定着と主体的な学習の推進 ・「人」台端末を生かした個別最適な学びと協働的な学びの実現 ・地域学習や福祉学習を核とした生活科、総合的な学習時間の推進 ・読み解く力を育成し、自分の言葉で表現する子の育成 ・パワーアップタイム等による「書く力」の育成	・授業が楽しい、わかる90%以上 ・パワーアップタイムで、「書く力」がついた90%以上	・授業が楽しくよくわかる87.2%（児童） ・学習内容をだいたい理解している88%（保護者） ・パワーアップタイムで、「書く力」がついてきた81.8%（児童）	B	B	・道徳科を窓口として、講師の指導助言を受けながら授業の工夫・改善を行う。 ・パワーアップタイムの継続	・先生方が日々研鑽に励まれておられるのが訪問を通してよく伝わってくる。 ・安曇っ子発表会をはじめ様々な学習で、資料収集やまともにタブレットの活用が進んでいるようであるが、インターネットだけに頼らず本（参考図書）の活用も推進できるとよい。 ・パワーアップタイムの継続により「書く力」が一層身につくことを期待したい。
	・相手の話をしっかり聞いた児童評価が90%以上 ・自分の考えを持ち、発表したり深く考えたりしている85%以上	・先生や友だちの話をしっかり聞いた91.9%（児童） ・学習準備や話の聞き方など学習規律を確率できた80%（教師） ・自分の考えを持ち、発表したり深く考えたりしている77%（児童）	B		・学習規律の徹底を図る。 ・学級会の充実により自他を認め合う学級づくりを推進する。	
	・学校行事は楽しい児童評価が90%以上	・学校行事に楽しく参加している93.2%（児童） ・学校行事に喜んで参加している97.9%（保護者）	A		・今後も学校行事に児童が一層主体的に関わることができるよう改善に努める。	
	・効果の上がる校内研究、校内研修とOJTの推進	・全教員参加の道徳科授業研究会（校内研究）を年3回実施、事前授業もすべて実施 ・アプリの新機能伝達、授業での活用法研修により、全教員がタブレットを活用 ・若手教員により毎週1回のOJT研修会の実施した。	A		・中学校区で連携を図り、道徳科授業の充実・推進を図る。	
	・朝読書、図書訪問貸し出し、委員会活動による読書活動の活性化	・進んで読書をしている71.3%（児童） ・月1回の訪問貸し出し、各学級での読み聞かせと朝読書を実施	B		・図書委員会により読書推進を図る。 ・新書（約千冊）の活用を推進する。	
○豊かな心と良好な人間関係づくり ・児童によるいじめ啓発活動 ・言葉遣いや言語環境の整備 ・教育活動全体を通じて、道徳科の充実と藤樹先生の教えに学び実践する心の教育の推進	・学校が楽しい児童評価90%以上 ・学校、学級は居心地がよい児童評価85%以上	・学校が楽しい86.5%（児童）・子どもは楽しく学校に通っている94.2%（保護者）・友達を励ましたり協力したりしている93.9%（児童） ・学級の居心地が良い82.1%（児童）	B	A	・お互いを認め合える学級づくりを推進する。	・校内研究が充実していて、それが道徳・人権・特別支援等の教育活動全体を通じて行われていることが理解できる。しかし、児童アンケートでの「学級の居心地のよい 82.1%」という結果は少し気になるところである。 ・縦割り活動やグループ活動は他者を思いやる気持ちが育成される。さらに充実していけるとよい。
	・いじめをしない、許さない児童の育成 ・先生は自分の良いところを認めてくれる児童評価85%以上	・毎学期、教育相談やいじめアンケートを実施 ・先生は自分のよいところを認めてくれる85.8%（児童） ・友達の良さをみつけ合う、まるふわタイムの実施（月1回）	A		・いじめ防止について、委員会や児童会からの活動を推進する。	
	・個別の教育支援計画に基づいたきめ細かな指導と支援の実践	・特別支援教育会議を定期的に開催。支援を必要とする子の確認と支援方法を共通理解 ・個別の支援計画を保護者と共有	A		・SC、SSWの活用を推進。 ・支援を要する子への支援方法の共通理解を図る。	
	・校内研究を道徳科に据えての実践 ・藤樹先生の教えに学び、よりよく生きる道徳教育の推進 ・縦割り活動、ペア活動による良好な人間関係の育成	・道徳科を校内研究として、年間3回の全教職員による研究会を実施。中学校区としても講師を招聘し研修を積む。（道徳の研究大会を実施） ・運動会の応援練習や清掃活動に縦割りグループを活用。上の子が下の子をみたり教えたりする活動を重視	B		・縦割り活動のさらなる充実を図る。 ・校内研究を道徳に据え、全校で道徳教育の充実を図る。	
○たくましい心と体づくり ・業間運動、鉄棒や縄跳び、マラソン等の体力づくりの推進と自己の体力の課題改善に向けた取組 ・食育の推進や早寝早起き等生活リズムの構築	・マラソンや鉄棒、縄跳び週間、教科体育の充実 ・特に高学年での体力の向上	・マラソン週間や鉄棒週間の実施。自主参加の縄跳び大会の実施などにより、運動の機会を提供し体力強化を図る。 ・外で遊んだり元気に運動したりしている84.1%（児童）	B	B	・鉄棒、縄跳び、マラソン等に意欲を喚起できるように（カードやICT等）工夫する。	・コロナ禍が子どもたちの生活習慣や体力に影を落としていることは否定できない。地道な取り組みを続けることが大切である。 ・生活習慣の改善は保護者への啓発が重要である。
	・生活アンケート等を活用した子どもたちの生活習慣の改善 ・早寝早起き朝ごはんの生活習慣90%以上	・早寝早起き朝ごはんの生活リズムができている87.2%(保護者) ・テレビやゲーム、インターネットの時間を決めている。69.8%（児童） ・減塩指導を5年生で実施	B		・家庭学習強化週間や生活アンケート等で、保護者への啓発を行う。 ・利用時間もきめ、ネットに係るモラル教育の充実を図る。	
○小中一貫教育の推進 ・豊かな学びにつなぐ授業研究の充実 ・道徳科の授業の研究推進 ・安心して意欲的に学べる学習環境づくり	・部会の再編により、教師のつながり感を高める。 ・小中連携による道徳教育の推進	・学びの基礎・充実・発展、小中・地域のきずなの4部会に再編し、小中の教員がともに道徳の授業づくりの研究に取り組む。 ・大学教授等の指導も受け、11月には道徳研究発表大会を小中で実施	A	A	・次年度も小中教員が連携して道徳の授業づくりの研究推進を図る。	・小中一貫教育の推進が定着し、その成果が表れているものと思われる。子どもにとっても先生方にとってもよいことであるので、一層充実させてほしい。
	・6年生の合同学習を、中学校進学への不安解消に役立てる。	・中学体育祭の見学、中学校での6年生体験授業（合同学習会）や陸上記録会練習など、小中一貫教育の取組を実施 ・6年合同学習後の感想、「勉強が難しくなるのももっと勉強していこう」「部活動で先輩が優しく教えてくれてよかった」など前向きな感想が多く聞かれた。	A		・中学生との交流活動を、工夫しながら充実・発展させていく。	
○家庭、地域等との連携 ・学校便り等による保護者、地域への情報発信 ・学校運営協議会、地域学校協働活動の推進、学校関わり人口の増加	・あど小通信を月1回以上発行する。 ・新たな学校支援ボランティアの発掘と組織化	・月一回の学校だよりや学年通信等で、情報発信ができた。 ・お便り等で、学校の様子をだいたい把握している91.5%(保護者)	A	A	・ホームページの活用・充実にも努める。 ・メールでのボランティア依頼の継続	・学校が「開かれている」と実感している。互いの努力と思いやりが感じられた。 ・保護者の参加を増やすため、PTAの力を借りられるとよい。 ・ホームページによる情報発信は必要であるが、発信が活動参加を促すことに効果的であるとは言えない。
	・地域学校協働活動推進員との連携による地域人材の活用 ・学校・地域連携カリキュラムを推進する。	・多くの分野で学校支援をいただき、花壇や見守りに加え、九九道場、ミシンボランティア、朝読書など学習支援にも関わっていただけた。 ・学校・地域連携カリキュラムをもとに活動推進が図れた。	A		・学校・地域連携カリキュラムをもとに計画的に依頼や募集に努める。	

	総 評	評価	学校関係者評価を踏まえての改善点
学校 関係 者 評 価	- 全体を通して教育目標に対しての学校の努力が見られる。 - 学校は楽しいと思える子どもたちが増えて欲しい。それは「わかる授業」と「居心地のよい学校・学級」が欠かせない。特別なことでなくていい。日常にある大切なことを積み上げられる集団を作っていてもらいたい。 - 自ら学び考える＝（魅力ある授業）をもう一歩前進し、先生や友達の話をしっかり聞き自分の意見をはっきりいえるようになると良い。 - 教職員の働き方や学校の業務を見直し、教職員の負担の軽減を図ることも大切である。子どもたち一人一人と向き合えるよう学校現場の改善が必要だと考える。 - 保護者や地域への情報発信や支援の求め方がはっきりしているので参加しやすく、工夫されている。 - 子どもたち一人ひとりに寄り添い教育を行うことの大変さを感じた。今後も継続してボランティア（地域人材）の活用呼びかけを行う必要がある。 - コロナが明けて、ボランティアで関われる機会が増えた。地域の方と関わる機会が増えることにより、豊かな心の育成につながるのではと考える。いろんな人とかかわりのある学校づくりをしていただきたい。	B	- 居心地のよい学校・学級づくりの取組推進に一層努める。道徳教育の充実とあわせ、人権教育や特別支援教育の充実を図る。特に道徳教育については、「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」を今年度と次年度に渡り中学校区で受けており、本校だけでなく中学校区全体で小中一貫教育の柱として道徳教育の充実を目指す。 - 自ら学び考える児童の育成をめざし、安曇っ子発表会等の機会を活用し、探究的な学びに一層努める。インターネットから得る情報だけでなく、図書の活用を図ったり、実体験に基づき自分とのつながりの中で考える学習を大切にする。どの子にも「わかる授業」をめざし、これまで同様に配慮を要する児童に対してきめ細かな支援に努める。 - 学校・地域連携カリキュラムに基づき、今後も地域とともにある学校を一層推進する。地域学校協働活動推進員さんとの連携のもと、メールでの呼びかけも積極的に行っていく。保護者層の参加を促すため、PTAの会議等を活用し学校ボランティアの活動紹介や参加の啓発に努める。

4段階評価（A 目標を十分に達成 B ほぼ目標を達成 C やや不十分 D 改善を要する）

令和5年度学校評価自己評価報告書および学校関係者評価報告書

高島市立青柳小学校

学校 教育 目標	校訓 「良知に生きる」 学校教育目標 自ら学び 心豊かでたくましい 子どもの育 成	昨 年 度 の 評 価 概 要 ○学運協で企画した運動場の除草作業を2回実施したところ、保護者や地域の方にたくさん来ていただけた。来年度も学運協やPTA、ACと協力して、つながりを横に広げていけるといい。子どもらといっしょに活動できる形も続けてほしい。 ○中江藤樹先生の地元であるので、校訓「良知に生きる」を大切に、藤樹先生の教えを継続実践していくことを望む。 ○「学校・地域連携カリキュラム」には写真を入れてわかりやすく工夫し、地域の支援が必要な取組には「ボランティア募集」の言葉を入れるとよい。もっと地域の人に見てもらえる機会があってもいいし、学校だけで難しいことがあれば地域をよい意味で巻き込んでほしい。	中 期 的 目 標 めざす子ども像 徳：たがいに思いやる子 知：よく考え実行する子 体：明るく元気な子 めざす学校像 地域とともにある学校
----------------	---	---	---

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評価	改善方策	学校関係者評価
○学力の向上 ・「我が校の学力向上策」の改善により学力向上を図る。 ・保護者と学校が連携し、学力向上の土台づくりに取り組む。 ・基礎基本の定着と活学力の向上を図るため、算数科・理科・社会科等の専科指導を充実させる。 ・ICT機器の有効活用を図る。	・学力向上策の推進において、学期ごとのPDCAサイクルで評価、改善を加え実効性のあるものにする。 ・自己肯定感を育む活動(PTA「長所の花を咲かせよう」運動)の継続実践と振り返り。 ・「先生はわからないときに丁寧に教えてくれる」（児童評価90%以上） ・ICT機器の効果的な活用により「個別最適な学び」と「協働的な学び」の充実を図る。	全国学力・学習状況調査の分析を踏まえた学力向上策を推進。OJT等で各学年の取組を交流し授業改善に生かした。 継続はできているが、実施後の検証（考察）が必要である。活動の目的を十分に周知し、実施後は検証を行っていく。 児童の疑問等には個別指導を中心に丁寧に対応することを心掛けた。(児童評価97%) 授業における学習ツールとして意見交流や学習のまとめで効果的に活用できているが、工夫の余地があると思われる。	B B A A	B 学力向上推進委員会を中心に、進捗状況の確認と改善方策の検討 今後もPTA研修部からの呼びかけで継続して取り組んでいく。 学習のつまずきや疑問については、個別対応でサポート 研修等で学んだ活用法を職員間で交流し実践に生かす。	・九九道場は、計算の基礎であり、継続しての取組は学力向上に有効である。 ・タブレットが授業の補助として児童にとって抵抗なく使用されている。機器に使われることなく、機器をうまく利用して学力向上に努力されている。書く活動や自分の考えや思いを発表し合う場も大切にしていきたい。 ・小学生の時から勉強のやり方を身に付けておくことが大切（特に自主学習の習慣は大切）。
○言語活動の充実 ・国語科における言語活動を基盤として各教科での言語活動の充実を図り、思考力、判断力、表現力を育む。 ○読書活動の充実を図る。 ○小中一貫教育の推進 ・高島市小中一貫標準カリキュラムを活用し、めざす15才の姿の共有のもと各段階の教育活動に取り組む。	・校内研究のテーマ「良知を磨く「考え、議論する道徳」の在り方」の研究実践を積み重ねる。 ・授業では、振り返りの時間を中心に「書く活動」を多く取り入れ、「読み解く力」の向上を図る。 ・学校・家庭における読書活動の充実により、読書の楽しさを実感させ、読書習慣の定着を図る。 ・小中教職員による共同授業研究を充実させ、小中学校の学習のつながりを意識した授業づくりに取り組む。	研究指定事業との関連で熟考された授業ができており、次年度へつながる実践の積み重ねができている。 ワークシートを取り入れ、書くことに慣れるよう教材の工夫を行った。授業内での「書く活動」の時間確保が課題 「朝読書」が定着。PTA「読書カレンダー」の取組実施。家や学校でいろいろな本を読んでいる…児童評価80% 小中教員が「学びの基礎部会」「学びの充実部会」「学びの発展部会」の3部会に分かれ、授業づくりに取り組んだ。	A B B A	B 藤樹先生に関わる地域教材を活用した道徳授業を研究していく。 毎学期、「書くこと」の単元で題材設定や文章表現、推敲の学習過程を丁寧にを行う。 図書館や図書室に出かけ、児童個々に合った本の選定ができるようにする。 道徳科を中心に他教科でも小中学校の連携を進めていく。	・道徳教育実践推進校として授業に取り組まれ、児童に「心」の大切さが認識されている。タブレットも話し合うためのツールとして有効活用されている。道徳の学習の足跡を掲示されているのもよかった。 ・図書館に出かけたりブックトークを取り入れたり、いろんな分野の本と出会い「読むこと」が楽しくなる工夫がされている。 ・朝読書やPTA「読書カレンダー」など、子どもたちが本に親しめる工夫はとても良い。家庭での読書習慣の評価が低いので、今後、毎週○曜日に30分ほどの親子読書タイムに取り組んでみてはどうか。
○集団づくり ・けじめのある生活を送ることのできる集団を育成する。 ・周りの子どもたちや大人に対して思いやりの気持ちをもって接することのできる集団を育成する。 ・異学年交流を通して望ましい人間関係の育成とリーダーを育てる。	・いじめ未然防止の日常的取組。生徒指導の情報交換やケース会議等による事案への早期かつ適切な対応 ・「進んであいさつや返事をしている」(児童評価90%以上) ・あらゆる教育活動を通して、周囲の友達や他学年の友達のことを考え、思いやりの気持ちを育てる。上級生は下級生をいたわり、下級生は上級生に感謝の気持ちを持てるよう指導する。 ・異学年交流や児童会活動の活性化を図る。（たてわり活動、集団登下校、運動会等）	未然防止の取組、生徒指導に係る定期的な報告と情報共有、事案発生時の早期かつ組織対応はできている。 「おはようございます さようなら」などのあいさつや返事をしている… 児童評価95% 保護者評価76% 学級活動や道徳科の授業を中心に他者を思いやる気持ちや行動について考える機会を多く設定。1年生と6年生と一緒に清掃を行い、6年生は1年生をいたわり、1年生は6年生に感謝の気持ちを持てるようにしている。 たてわり活動や全校的な行事では協力して活動している…児童評価93% 児童会で様々なイベントも実施	A A A B	A 未然防止のため、職員の意識を高め些細な出来事も見逃さない。 PTA、AC等の各種団体と連携したあいさつ運動の推進 道徳教育、人権教育を柱とした心の教育を大切にしてい。今後も1年生と6年生と一緒に清掃を行う。 藤樹デーや運動会以外にも、たてわり班で活動できる場を工夫	・「おはよう」「こんにちは」集団登下校時の挨拶は気持ちが良い。「あいさつ運動」は引き続いて取組をお願いしたい。青柳小の子どもたちは、挨拶を返してくれる子が多い。 ・雪道の登校では、上級生が先頭で下級生に気を配りながら登校していた。 ・少人数学級であり。児童全員に目配りができており、いじめなどの未然防止となっている。 ・たてわり活動、1、6年ペアの掃除、運動会等を通して、上学年と下学年が良い関係で学校生活を送れている。
○藤樹学習を中心とした地域連携 ・中江藤樹の教えを学ぶ機会や地域の文化や伝統を取り入れた学習を取り入れる。 ・PTAやAC（青柳コミュニティ）、地域学校協働本部との連携を深める。	・「藤樹デー」「大洲小学校との交歓会」等、青柳小ならではの取組の充実 ・「学校では藤樹先生に関係する勉強をやっている」(児童評価90%以上) ・学校運営協議会での熟議を通して、目指す子ども像の実現に向け地域学校協働活動の充実を図る。 ・学校運営協議会、PTA、AC（青柳コミュニティ）、地域学校協働本部等と連携した取組	「藤樹デー」や「大洲小との交歓会」「立志祭」は藤樹先生の教えを学ぶ伝統行事として実施でき、児童も達成感を感じている。 総合的な学習の時間を中心に、学年の発達段階に合わせて実施。地域人材の活用による学習も進んでいる。(児童評価96%) 学校運営協議会での熟議を重ねるごとに、地域学校協働活動が充実してきた。学校の現状を知っていただく機会にもなっている。 保護者ボランティアによるきめ細かな指導、安全確保が図れた。学校地域連携カリキュラムを年度末にリニューアル	A A A A	A 藤樹先生の教えを学ぶ伝統行事として継続・発展させていく。 藤樹先生の教えを道徳科の地域教材として積極的に取り上げていく。 今後も協議会での熟議を行い、地域連携の取組充実を図る。 学校地域連携カリキュラムの更新と保護者ボランティアの発掘	・藤樹先生生誕の地にある小学校として、様々な取組がされており、人口減、高齢化社会の中で児童が藤樹先生の教えを学んでおり、心強い思いである。 ・藤樹デーや大洲小との交流会など、青柳小ならではの学習はとても良い。 ・普段の生活の中で藤樹先生の教えを意識できるように、「五事を正す」「貌、言、視、聴、思」を低学年でもわかる言葉で示してはどうか（例えば児童会テーマなど合言葉をみんなで考える）。 ・学校地域連携カリキュラムを通じて、学校活動を地域の人に知ってもらい、地域連携が図れている。

学校 関係 者 評 価	総	評	評価	学校関係者評価を踏まえての改善点
	・学校地域連携カリキュラムは、コンパクトに学校の1年間の活動が凝縮された広報活動紙である。行事紹介や行事の写真も多く挿入され、大変見やすく改善がされてきた。また、カリキュラムの地域掲示・回覧によって「掃除の日」が広報されている。児童を通じてさらに参加者を増やして児童と共に「きれいな校庭・運動場」にしていきたい。 ・藤樹先生生誕の地にある小学校として様々な取組がされており、藤樹先生の教えを学んでいる。テレビ会議システムでの大洲小学校との交歓会など『青柳小学校ならではの行事』に引き続き取り組んでいただきたい。 ・校内の先生方と意見を交わしながら学校地域連携カリキュラムの見直しができ、より良いものへと改訂していったことが良かった。保護者を中心に、さらに地域の方へ活動の輪を広げていけるよう今後も工夫していきたい。 ・文科省の「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」の推進校として、今後も道徳教育の研究に取り組んでいただきたい。 ・子どもたちから地域の方々にボランティアのお願いなどの発信をすることで参加者も増えるのではないかと。子どもたちも「やってもらえる」ではなく、地域の方と一緒に参加する、地域の活動にも子どもたちがボランティアとして参加すると、お互いに協力し合える形ができるのではないかと。		B	・藤樹先生の教えを学校教育の中核に据え、これまでの『青柳小学校ならではの行事』のみならず、日常の学校生活の中でも藤樹先生の教えを意識させ、実践につなげられるような取組をしていく。また、道徳科授業でも藤樹先生の教材活用について研究していく。 ・読書活動については、地元の図書館との連携を図り、ブックトークの継続や図書館訪問（本を借りる）を増やしていく。また、家庭での読書習慣の定着を図るために、PTA研修部主催の「読書カレンダー」に加えて、定期的に30分ほどの「親子読書タイム」のような取組を設定するなど、家庭と連携した取組も検討していきたい。 ・次年度以降も「学校地域連携カリキュラム」に基づく地域学校協働活動の更なる見直しを図り、カリキュラムを「地域とともにある学校づくり」の重要なツールとして保護者や地域に広報し、協働活動の充実を図っていく。今後は、現在支援してくださっている地域ボランティアだけでなく、保護者に教育活動への参加（例えば安全確保の見守りを兼ねて校外行事に参加するなど）を呼び掛け、ボランティアを増やしていく。協働活動がボランティアや学校職員にも過度な負担にならないよう、持続可能な活動として定着できるように留意したい。

4段階評価（A 目標を十分に達成 B ほぼ目標を達成 C やや不十分 D 改善を要する）

学校 教育 目標	校訓「たくましい子 本庄の心」 地域の願いや期待を受け止め、自らの未来を切り拓こうとする意志と能力を持つ子どもの育成	昨 年 度 の 評 価 概 要	○小規模校の良さを活かし、児童一人ひとりに行き届いた教育が実施されているといえる。評定にもA評価が並ぶように、多くの指標で目標が達成できている。 ○タブレット端末の導入により、学習の様子が変わってきたことが随所に感じられる。 ○学校運営協議会としても、熟議の結果を受けて、除草をはじめとする環境整備活動や学校支援ボランティアなど（地域学校協働活動）を積極的に行ってきた。その結果、地域の方が学校に足を運び、地域とともにある学校づくりがより一層進んできていることを感じる。 ○中学校進学への不安は、中学校入学後の気後れに繋がる。小規模校で、一人ひとりが大事にされるのはよいことではあるが、過ぎればそれは弊害にもつながる。子どもの自立にとって何が必要か、小規模校だから考えるべき課題もある。	中 期 的 目 標	○基礎基本の充実を図り、思考力・表現力を伸ばす。 ・読み解く力を発揮して学びを深める授業づくりを行う。 ○自ら考え、ともに学び合う力をつける。 ・自らの志を実現しようと努力する意欲を育てる。 ○豊かな心、たくましい体を育てる。 ・様々な体験を通して、心身ともにたくましい本庄っ子の育成を図る。
----------------	---	--------------------------------------	--	-----------------------	---

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標） 数値は「よくそう思う」（強肯定）の割合	達成状況 数値は「よくそう思う」（強肯定）の割合	評定		改善方策	学校関係者評価
学力向上のための力点	学習意欲の向上 「学習内容がわかる」 75%以上 「学習は将来役に立つ」 75%以上	児 童：学習内容が分かる。(73%) 学習したことは将来役に立つと思う。(89%) 保護者：子どもは授業が分かり、楽しいと感じている。(38%)	A	B	指標・到達目標は、数値としては達成できた。引き続き、学ぶ楽しさが実感できる授業づくりに努める。	・活字離れが進む中、考える力をつけるのに読書は有効。いつか良本に巡り合えるよう、読書指導の取組は続けてほしい。 ・学習に関する数値は親子で差異が見られるが、保護者の数値が低いのは子どもに対する期待の表れか。
	授業改善 意見の交流や深め合う授業づくり 50%以上 ICTを効果的に活用した授業の実施 75%以上	児 童：友だちの意見を聞き、自分の考えと比べたり、深めたりしている。(71%) 教職員：授業づくりの工夫（意見の交流や深め合う場）。(36%)	B		個別最適で協働的な学びにより、児童の学習意欲の向上と主体的な学びの実現を図っていく。	
	家庭学習の習慣の定着（宿題＋自主学習） 「低学年20分、中・高学年10分×学年」 75%以上 1年間に70冊以上の読書 50%以上	児 童：家庭学習は、学年の目標時間を達成。(56%) 年間70冊以上を目標に、進んで読書。(47%) 保護者：決まった時刻に目標時間以上家庭学習ができています。	B		家庭学習の定着に課題がある児童は、保護者と連絡を取り、家庭での過ごし方を丁寧に指導する。	
たくましい心身を鍛えるための力点	基本的な生活習慣の定着 「早寝・早起き・朝ご飯」「挨拶・返事・靴揃え」の習慣 75%以上	児 童：「早寝・早起き・朝ご飯」ができている。(55%) 教職員：「早寝・早起き…」「挨拶・返事…」を継続的に指導。(36%)	B	B	教職員の共通理解を図るとともに、PTAと連携し保護者への啓発に努める。	・躾や生活習慣は、家庭環境の影響が大きいため、保護者やPTAとの連携が大事。また、挨拶や忍耐力などの人間力は、どの子にもしっかり身につけさせたい。 ・学校では、いろいろなことに耐えられる我慢強さや辛抱する力を育ててほしい。
	向上心や忍耐力の育成 自己目標（遠泳、マラソン等）の達成に向け努力できた 75%以上	児 童：運動会やマラソン大会などに一生懸命取り組めた。(75%) そうじは黙って、時間いっぱいまで頑張っている。	B		運動は、目標を持ち努力を続けられる子が多い。学習や読書、そうじなどにも粘り強く取り組ませたい。	
	安全・安心な学校づくり 「学校は安心できる場所だ」 75%以上 効果的な避難訓練や防災教育の実施	児 童：学校は安心できる場所。(74%) 安全に気をつけて行動。(81%) 廊下走らず右側通行。(34%) 保護者：学校は、健康や安全への配慮ができている。(64%) 分かりやすいお便りや連絡。(100%)	B		廊下歩行は、児童主導で意識を変えていく。警察や消防などと連携し、施設や態勢のチェックを実施する。	
豊かな心を育むための力点	個性を尊重し、つながり合う集団づくり 学級が楽しい、学校へ行くのが楽しみ 75%以上 自分にはよいところや得意なことがある 75%以上	児 童：学校生活は楽しい。(71%)自分には良いところがある。(71%) 友だちと活動するときは、協力してできた。(79%) 保護者：子どもの良いところを見つけて褒めている。(31%)	A	A	定期的に実施している児童アンケートにより、一人ひとりに寄り添った支援を心がける。	・JRC活動は、子どもの行動変容や成長に大いに役立つものであった。継続した取組を求める。 ・道徳心を身につけさせることは難しい。藤樹先生の教えや大事な言葉を、校内の共有スペースに掲示し、視覚に訴えるのも一つの方法かと思う。
	自発的で奉仕的な活動の推進 「気づき 考え 実行する」の実践 75%以上	児 童：JRC活動（「気づき 考え 実行する」）の定着。 保護者：JRC活動で自主性を持って行動するよう導いてもらった。	A		引き続きJRC活動に取り組み、児童の主体的・奉仕的な活動を行う。下学年の児童も学級で行う活動を推進す	
	健全な倫理観の育成 考え議論したくなる道徳科の授業づくり 50%以上 人権週間における人権学習の取組	児 童：道徳の勉強は楽しい。生活に活かしている。(58%) 教職員：価値観を深め合えるよう道徳の授業を工夫した。(44%) 全教育活動を通して道徳的価値観の醸成に努めた。	B		「考え議論する」道徳の授業を通して、多様な価値観に触れ、高め合える道徳の授業改善を図る。	
地域とともにある学校	地域や保護者との連携（横のつながり） 学校運営協議会・地域学校協働活動の充実 学校・学年だより、ホームページ等により、学校や児童の様子が分かる 50%以上	児 童：地域の人にあいさつ(82%) ふるさと本庄が好き(78%) 教職員：地域の力を取り入れた教育ができている。(82%) 保護者：お便りや連絡により、学校や児童の様子がよくわかる。(40%)	A	B	地域学校協働活動との一体的な推進が図れるように、学校運営協議会での熟議を大事にしていく。学校地域連携カリキュラムの点検も随時行	・「地域の学校」は、学校運営協議会の最大目標として進めてきた。理解と協力のおかげで一定の成果が見られた。 ・小中とともに小小交流も大事にしたい。6年生のみならず、下学年でも交流が持てるとよい。
	小中一貫教育の推進（縦のつながり） 中学校進学への不安を感じていない児童 75%以上 小中合同授業研究の効果を感じている教員 50%以上	児 童：中学校進学への不安を感じていない。(80%) 教職員：他学年や中学校を意識した系統的な指導の展開。(36%) 小中合同での研究会は効果が期待できる。(9%)	B		小小・小中合同の授業研究会をさらに充実させる。6年生児童の不安を和らげる手立てを講じる。	

	総	評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点
学校関係者評価	・ 評定は、もっと高い評価でも良いのではと思う。指標や達成状況を読んでいくと、学校だけでなく家庭での改善や地域との連携が必要なことが分かる。細部にわたる分析がなされているので、来年度につなげてほしい。 ・ JRCの取組など、子どもたちの成長ぶりは喜ばしい。また、協働的な学びに子どもたちが楽しく取り組む様子から、児童や地域の実情に合わせた的確な授業づくりがなされている。 ・ 高齢化が進む地域にあっては、子どもたちが地域の行事に参加し、元気な姿や無邪気な笑顔を見せてくれることは、地域の大人たちの心を和ませてくれることでもあり、とても喜んでいる。また、「ふるさとが好き」という意識がある子がたくさんいる学校は、ありそうでなかなかないと思う。このままその気持ちを持続してほしい。 ・ 詳細は分からないが、小中合同授業研究の到達目標50%に対し、達成が9%の乖離を当事者の教職員がどのように受け止めているのか説明の責任がある。 ・ 評価に課題が見られる項目については、各家庭の頑張りが必要なものもある。親は子どもにとって、最も影響力のあるお手本として、しっかりした背中を見せれば、子どもはそれに倣って成長していくだろう。		B	・ 地域の思いを子どもたちに、子どもたちの思いを地域につなげていくことで、「地域の中にある学校」がより大きく、より堅固なものとなるだろう。学校運営協議会では、6年生児童や大学院研修でそうした課題に向き合う教員が参加し、熟議に加わってきた。児童発信の地域イベントや活性化事業の実施により、より緊密な関係となるように努めたい。 ・ 小中合同授業研究の効果を感じる教員の割合は、強肯定9%だが、肯定と合わせれば「効果が期待できる」と回答した教員は91%であった。数値は全般にわたり、強肯定（よくそう思う）のみを指標としていることから低く出たが、令和5年度、6年度と中学校区で文部科学省・滋賀県教育委員会による道徳教育抜本的改善・充実に係る支援事業を受けた合同研究を推進してきたので、成果が実感できる研究にしていかなければならない。 ・ 家庭との連携が求められた課題については、PTAやひびきあい、懇談会などで課題を共有したり、対応を検討したりしながら、実効性のある取組が始められるようにする必要がある。また、学校からの発信だけでなく、学校運営協議会にお願いし、地域や各地区での具体的な取組につなげてもらえるようにしていきたい。

学校 教育 目標	『 確かな知性 かがやく良知 たくましい心身 』	昨 年 度 の 評 価 概 要	・新型コロナウイルス感染症が収束しない中でも、在校生と町内小学校6年生との交流や小中教員による共同授業研究の機会など、工夫した取組が行われたことは評価できる。今後も、小中9年間を通して大切にすべき内容について、小中の教員間で共有しておくことは大切である。 ・1人1台端末を有効に活用し、定期的な授業公開や研究授業を通して、積極的な授業改善が図られていることは評価できる。1人1台端末の活用にあたっては、情報モラルの育成を図るとともに、より一層効果的に活用できる技量を身に付けさせてほしい。 ・道徳的価値を高める教育および人権意識を高める取組を通して、思いやりのある良好な人間関係を育むことは、将来的に安曇川地域の発展に欠かせないことであり、高く評価できる。今後、より一層互いの多様性を認め合い、人を思いやる豊かな心を育むことが必要である。 ・小中合同の学校運営協議会の開催など、地域とのつながりを大切にした取組が展開されている。今後は、学校運営協議会委員と教職員、さらには生徒たちとが、意見交換や情報共有ができる機会が増えることが望ましい。以上のことから、総体的にB評価とする。	中 期 的 目 標	地域に誇りと愛着をもち、 地域に役立ち、貢献できる生徒の育成
----------------	--------------------------------	--------------------------------------	--	-----------------------	---------------------------------------

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評価	改善方策	学校関係者評価
小中一貫教育の推進 ・小中9年間を見据えた系統的かつ継続的な学習指導や生徒指導を行い、「自ら考え、判断し、行動する力」を育てる。	・小中をつなぐ児童生徒の交流活動に取り組みます。	町内3小学校の6年生の合同学習を実施し、当日は、6年生同士での交流体験、小・中学校教員による数学科の授業体験、在校生との部活動体験を行った。	B	B	・小中一貫による道徳教育の研究は、継続的な指導であり、全教職員が9年間を通して大切にする内容の共通理解しながら推進していくものである。小中学校の教職員がさらに連携を深めてほしい。 ・小・中学生の交流は、「交流となる」仕掛けを作って、生徒自らが意欲的に取り組める充実した内容の取組にしていけることが必要である。 ・教員は様々研修等の機会を持ち、専門性を高め、授業をはじめ様々な教育活動に取り組んでほしい。
	・学びの連続性を大切にし、小中教員による共同授業研究等の取組を推進します。	「道徳教育の抜本的改善・充実に係る支援事業」推進校として、中学校区の小中教職員が4つの部会に分かれ、3回の研究授業を行い、小中一貫した共同授業研究の継続的な実践を図った。	A		
	・「我が校の学ぶ力向上策」に基づき、学力向上を図ります。	非認知能力の育成を授業改善の切り口とし、各教科の授業の中で、「生徒が主体的に活動する場面」を多く取り入れ、協働的かつ探究的な学びの推進に努めた。	B		
確かな学力の定着 ・基礎・基本の定着と問題解決能力を育てる。 ・1人1台端末を活用し、「個別最適な学び」と「協働的・探究的な学び」を充実させる。	・1人1台端末を有効に活用し、学び合い学習を取り入れた授業を全教員が実践します。 （授業が分かる：生徒80%、保護者60%）	全教員が、各教科の授業において1人1台端末を有効に活用し、学び合い学習の充実を図ることができた。1人1台端末の活用については、先進的に取り組めた。 （「授業が分かりやすい」と回答した割合：生徒は82.7%、保護者は69.4%）	A	A	・一人一台のタブレット端末を効果的に活用しているが、学力は向上しているのか、子どもたちの学習以外での端末の使用などが心配される。 ・学年による定期テストの教科の数は、学習への意欲や取組に影響していないか。学校としてのやり方を子どもや保護者への説明は必要である。 ・授業や学習に対する理解や取組が進みにくい子どもには、個別に指導する体制づくりを期待したい。
	・校内研究を推進し、積極的な授業研究会や全教員の公開授業を実施します。	中学校区小中一貫教育研究「道徳教育」を校内研究として、定期的な授業公開や授業研究会を開催し、各部会等で全教員が参観して研究協議を行うことができた。また、各研究会には大学教授等にご参加いただき、授業改善に向けた指導助言をいただくことができた。	A		
豊かな心の育成 ・豊かな情操や規範意識、社会性、人を思いやる心を育成する。 ・すべての子どもの多様性が認められる豊かな人権意識を培う。	・道徳教育を推進し、対話的な学びを通して、自他を認め合う心情を養います。	「考え、議論したくなる道徳」の授業づくりに向け、授業展開や考えを深めることができる発問の工夫など教員の指導力向上に取り組んだ。	A	B	・非認知能力や一人ひとりの自己肯定感を高めて社会で生きぬく力を身に付けていってほしい。 ・職場体験は、仕事での役割を持ち行動することで、大人から承認されると大きな成長の機会となっている。今後も連続性のあるつながりになっていくとよい。 ・中江藤樹先生の教えが心の教育、道徳教育にさらに広がっていくことを期待する。 ・時間はかかるが、子どもたちに実体験を経験させ、積み上げて苦勞しながら自分でやらせていくことが大切である。 ・教員は、子どもの悩みや相談事などを聴いて、しっかり受け止められるように接する時間を大切にしてほしい。子どもとよりよい信頼関係を築いてほしい。
	・体験活動を通して、豊かな心を育みます。 1年:地域探訪 2年:キャリア学習 3年:体験的進路学習	3学年とともに年度当初計画していた体験活動を実施し、地域の中で仲間とともにこの時期にしか体験できない貴重な経験を積むことができた。	A		
	・生徒会活動や学級活動を柱にして支え合い高め合える集団づくりを推進します。 （学校は楽しい：生徒90% 保護者80%）	生徒会担当教員が中心となり、伝統ある校友会活動のさらなる発展を目指す校友会役員をサポートし、全教員で校友会活動の活性化に向けた全校的な取組の充実を図った。（「学校は楽しい」と回答した割合：生徒90.6%、保護者87.1%）	B		
	・人権意識を高め、思いやりのある良好な人間関係を育みます。（いじめを許さない：生徒90%） （学級はまとまりがある：生徒80%）	いじめの早期発見・早期対応のため、定期的に生徒や保護者を対象とした「いじめに関するアンケート調査」を実施し、課題解決に向けた迅速かつ適切な対応に努めた。校友会活動「安曇川中学校いじめ撲滅運動（AIB）」が小規模となり、生徒自らによるいじめ防止の意識の醸成を図れなかった。	B		
健やかな体の育成 ・体力向上と健康の保持増進の基礎となる運動習慣等を育成する。	・保健指導、性教育、がん教育など、健康の保持増進に特化した授業を行います。	医師や助産師、歯科衛生士、体験者の方々を講師に招き、健康の保持増進に特化した授業を行い、心身の健康教育の推進を図った。	A	A	・各部活動で集団活動を通して、細やかで手厚い指導をしていただいた。体力と忍耐力が培われ、より良い自信につながるとよい。 ・次年度から始まる拠点校部活動については、今後の経緯を慎重に見ていくべきである。
	・部活動の活性および効率化に努め、体力の向上を図ります。	部活動の指導体制の強化を図り、活動の充実に努めた。各種大会やコンクール等においても活躍した。外部指導者の協力が図れた。	A		
地域とともに歩む学校づくり ・地域・家庭・学校がつながり積極的に連携・協働する体制づくりを推進する。	・学校運営協議会の活性化と地域学校協働活動の充実を図ります。	学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的推進に向けて、学校運営協議会において熟議を重ね、地域の各種団体との情報共有を行い、つながりが深まった。	A	B	・校友会役員との懇談や授業公開は、大変良い機会だった。今後、定期的に実施し、直接話をしたりともに活動したりする機会を増やしてはどうか。 ・子どもたちは、地域での行事やボランティア活動に大勢参加していた。地域で育つのだから、地域の方を頼ってさらに連携を深めていけばよい。
	・保護者の理解や協力を得るため、授業や行事への参加、相談等家庭との連携を図ります。	学校・学年だより、クラスティングによる情報発信、体育祭や文化祭等の行事や授業公開を行った。	B		

学校 関係 者 評 価	総 ・中学校区の小中教員による道徳教育への取組として、授業研究に取り組まれたことは評価できる。9年間を通して大切にすべき内容について、小中の教員間で共有しておくことは大切である。子どもたちの豊かな心の育成に、次年度の取組を期待したい。 ・1人1台端末を有効に活用して、教員が積極的な授業改善が図られていることは評価できる。しかし、1人ひとりの学力の定着・向上に結びついているか評価してほしい。また、使用状況から子どもたちの情報モラルの育成を図るとともに、今後の端末の効果的な活用を検討してほしい。 ・ここ数年変化が絶えない時期であったことから、子どもや家庭が振り回されることなく、意欲的に学習に取り組めるよう学校運営を進めてほしい。 ・さまざまな授業や行事などで地域とのつながりを大切にした取組が展開されている。校友会との懇談に加えて、今後は、学校運営協議会委員と他の教職員との意見交換や情報共有、授業の配信等ができる機会が増えることが望ましい。以上のことからB評価とする。	評	評 定	学校関係者評価を踏まえての改善点
			B	・中学校区小中一貫教育では、道徳科の授業研究を中心として研究推進していく。課題として、生徒一人ひとりが自分事として深く考えていくこと、思いや考えを自分の言葉で発表したり説明したりして、生徒同士が意見を交流していくことがあげられる。授業だけでなく、すべての教育活動を通して仲間づくりやより良い関係性の構築できるように取り組みたい。 ・タブレット端末の活用は大変進んでおり、「個別最適な学び」「協働的な学び」をさまざまな方法で取り組んでいるが、生徒個人の学習習慣や学びの定着が身についていない実態がある。思考や探究する活動を進めていく上で、土台となる基礎・基本的な学習内容の習得や言語読解力の向上を目指した学習活動を展開し、「個の学びの充実」に取り組みたい。 ・学校地域連携カリキュラムに基づき、地域とともに多くの活動を実践したことによって、多くの意見や思いが出された。各学年の総合的な学習を中心として、生徒が故郷への貢献や自分の生き方について、主体的に考え行動できるような学習活動を工夫して実践したい。

学校 教育 目 標	確かな学力と豊かな心を身につけ、 たくましく未来を拓く子どもの育成	昨 年 度 の 評 価 概 要	〈令和4年学校評価 概要〉 ・感染対策を踏まえ、学習や行事、集会を年間を通じて実施しており、子どもも多くの経験ができています。 ・児童、保護者アンケート結果はともに、昨年度に比べて総じてよい評価となっていることから、学校全体として評価されていると思われる。次年度、コロナ対策の制限がなくなる中で、今年度の評価を活かした学校づくりが進むことを期待する。 ・子どもたちは、主体性をもって活動することにより、大人に対する信頼関係を築き、安定した学校生活に結びつくように思う。 ・高島町は大人しい土地柄で、穏やかで素直な子どもが多い。しかし、競争意識が弱いように思う。まだ余力があるように感じる子どもたちの活力を引き出させるような取組を期待する。	中 期 的 目 標	＜ 中期的【3年間】目標(2年目) ＞ ○「学ぶ力の向上」をめざし、個別最適な学びと協働的な学びを実現する授業改善を進める。 ○義務教育9年間の学びの土台となる基礎基本の習得を徹底し、主体的な学び方を身につける。 ○児童理解を深め、主体的体験的な活動を重視し、ふれあいを基調にした教育活動を進める。 ○多くのひととの関りを通し、自分の個性や可能性を信じ、よりよく生きようとする「志の教育」を進める。 ○家庭・地域との連携を密にし、開かれた学校づくりに努める。		
評価項目(指導力点)		指標:到達目標(成果指標・取組指標)		達成状況	評定	改善方策	学校関係者評価
【確かな学力の力点】 ●子どもを真ん中においた個別最適な学びと、協働的な学びになる授業改善 ●読書活動の活性化 ●特別支援教育の充実 ●自主学習の習慣を確立		中学校と一体となって授業研究やOJTに取り組み、思いを深め、達成感のある学びを実現する指導力の向上に取り組む。 【月1回のOJTの実施100% (教師)】		児童生徒が話し合いや交流をしながら学習を深める「学び合い」をキーワードにして、小中の教職員が共通の課題をもって授業研究に取り組んだ。授業参観や合同研究会を定期的に開催することができた。【ペア・グループ学習 教職員100% 個に応じた指導 教職員100%】	A	●市立図書館と連携し、社会科などの学習内容に関連した本を教室に置き、発展学習に生かす等、読書へのきっかけの場を広げる。 ●課題意識を明確にしながら、授業研究や研修の場を学園合同で定期的に開催する。研修での学びを日常的に実践する。 ●家庭学習の手引きを保護者へ周知するなど、家庭やPTAとの連携をより深める手だてを探っていく。	・どの学年においても、意欲的に取り組む姿に感心している。学習には「楽しい学び」がないといけない。 ・朝読書やお話会などの取組に加え、図書室やおはなしルームの環境づくりも充実している。 ・夢ノートについては、高学年になると内容を工夫したり、復習に生かしたりするなどの姿が見られる。
		・朝読書の充実や、読書環境の整備を進め、読書に親しむ児童を増やす。【読書冊数目標到達70%(児)/50%(保)】		ボランティアによる朝読書やお話の部屋におけるお話会実施、貸出図書の奨励により、読書に親しむ機会から本好きの児童も一定見られる。一方、児童と保護者の意識の差が大きい。【児童69.0%/保護者28.0%】	B		
		・ゆめノートを活用した家庭学習の充実に取り組む。 【家庭学習の時間を達成した児童が85%以上】		家庭学習の手引きや学年に応じた課題の工夫を行っている。【家庭学習を頑張っている 児童80.4%/保護者55.3%/教職員94.1%】	B		
【豊かな心の育成の力点】 ●自分事として生き方を見つめる道徳教育の推進 ●心を耕し、豊かな感性を磨く教育活動の展開 ●主体性を引き出す児童活動の推進		・他の教育活動と連携した道徳カリキュラム(別様)を着実に進め、日常に立ち返る道徳教育を進める。		年間計画に基づいて、道徳科の授業が丁寧に取組まれている。高島藤樹会より外部指導者を招き、指導の充実を図った。【道徳の授業がためになる 児童92.8%】	B	●道徳教育はすべての教育活動を通して行いながら児童の道徳性を育てていくことを、改めて共通理解していく。 ●今年度はPTAに親子音楽鑑賞会を計画実施していただいた。音楽に限らず、広く芸術に触れる機会を設けていく。 ●校内での縦割り活動や中学校との交流活動は、計画されたものだけに限らず管理職やコーディネーター、担任間の連携で柔軟に実施していくことができる。その成果を子ども、教職員が共有することを大事にしたい。 ●インターネットリテラシーの育成はこれからの重要な教育課題である。タブレットの使い方を通じて指導を徹底する。	・校外学習や交流行事は児童にとって非常に刺激的であることが見て取れるので、それらを継続していくことが大事である。 ・豊かな情操は、文化芸術のみならず、田植えや稲刈り、花の栽培、他者とのふれあい等から育まれるものであり、それらを含めて評価するべきである。 ・音楽鑑賞やプロスポーツをはじめ、地域のプロなどその生き方にも触れさせたい。
		・文化芸術に直に触れ、豊かな情操を養う。		4年生は高島市小学校音楽会で発表したり、他校の発表を鑑賞することができた。びわ湖ホール の音楽鑑賞会にも参加した。	C		
		・中学校と連携した特別活動の活性化を図り、児童の主体性を引き出す活動に取り組むとともに、望ましいリーダーの育成を図る。 【学校生活の楽しさ:80%(児)/75%(保)】		校内における縦割り活動に加え、第1ステージの交流活動、第2ステージの体験学習の充実を図ることができた。また、中学校文化祭への参加や陸上記録会に向けた中学生との合同練習等にも取り組み、児童にその成果が見える形で表れた。中学校生徒会メンバーと小学校児童会の連携も行うことができた。【学校が楽しい 児童93.2%/保護者91.7%】	A		
【豊かな人間関係を結ぶ力の育成の力点】 ●相手の立場を尊重し、人権意識の高い、いじめを許さない集団づくり ●礼儀正しい節度ある生活態度(あいさつ、時間を守る、掃除)の育成		・児童集会や行事等を通じて、友達や多様な人々との交流の機会を増やす。 【学校生活の楽しさ:80%(児)/75%(保)】		校内の縦割り活動や、ステージでの活動、中学校との交流活動等により、交流の幅が広がり、その中でリーダー性も育むことができた。【学校が楽しい 児童93.2%/保護者91.7%】	A	●今後も児童の課題や活動のねらいを踏まえ、交流の幅や機会を広げるよう工夫していく。 ●人よりも先に自ら挨拶をする児童がさらに増えるよう日々の声掛けや指導を粘り強く継続する。 ●児童の学習や生活の様子を丁寧に見取り、いじめ等に関する課題には、学校いじめ防止基本方針に則り、保護者と連携しながら、確実に対応する。	・地域の体験行事でもグループ内での相談や活動などを協力して進める姿が見られ感心している。どのような場面でも、人とつながり協力する力は大切に育てたい。 ・取組を通して、学年ごとの自覚や責任感が伺える。 ・学校生活での多様な交流を通して、各個人の社会性の形成もうまくできていると感じる。
		・人権意識を高める指導に加えて、中学校と協働した児童生徒の主体的な活動を通して、いじめ未然防止に取り組む。【いじめがなく学校生活が楽しい95%(児)】		毎月の人権の日では、人権に関する放送や講話、児童会目標の取組により、人権意識を高める機会を持つことができた。【学級の友達を大切にしたい 児童99.1%】【自分によいところがある 児童78.7%】いじめについては小さなものでも早期の組織対応を教職員で申し合わせ、丁寧に対応している。【いじめ認知件数 R5:10件 R4:3件 R3:6件】	A		
		・真面目で誠実に学校生活を過ごす態度を育成する。 【あいさつ、時間、そうじ85%以上(児童)】		挨拶をすると挨拶を返す児童は多い。掃除にも全体的にまじめに取り組んでいる。【あいさつ 児童90.3%/そうじを頑張る 児童93.7%】	B		
【健康な心と体の育成の力点】 ●児童理解を土台にして、自己指導力の向上をめざす生徒指導の推進 ●命を大切にし、健康で安全な生活実現を目指し、行動できる資質能力の育成 ●基本的生活習慣の確立と食に関する指導の充実		・生徒指導の3機能を意識した教育活動を展開し、一人ひとりの児童に居場所がある学級づくりを進める。 【学校生活の楽しさ:80%(児)/75%(保)】(再掲)		児童に「自己決定の場を提供」「自己存在感の感受の促進」「共感的な人間関係を育成」することを意識しながら児童と接するよう申し合わせている。【学校が楽しい 児童93.2%/保護者91.7%】	A	●児童が安心し、生き生きと生活することができる学級づくりや指導、対応のあり方について、研修を行い教職員の更なる資質向上を図る。 ●日頃の連絡により、保護者とのつながりをより深めていくとともに、関係機関との連携も図っていくことでより適切な指導につなげる。 ●家庭における食事や睡眠、スマホやタブレットの使用状況など、児童の状況の把握に努める。	・健康な生活について、特に食事と睡眠、スマホ、タブレット、ゲームとの付き合い方に関する学びを継続していきたい。 ・元気に登校している児童と、休みがちな児童が見られる。特に、後者への丁寧な対応をお願いしたい。 ・食に関する指導では、残食にこだわらず、より広い視点からのアプローチが必要である。
		・児童理解のための教育相談の機能を充実する。 【困っていることを先生に相談できる85%(児)】		児童の気持ちをさくアンケートの実施や、その結果を踏まえた個別面談で実態把握に努めている。不登校傾向児童や保護者にも丁寧な対応を行っている。【先生は相談しやすい 児童83.4%/保護者79.7%】	B		
		・残食0日数の増加に取り組む。		残食に関する全校的な活動はできていないが、食育を通して食べ物の大切さや感謝の気持ちを持つことの大切さ等について指導を行った。	B		
【小中一貫教育推進の力点】 ●小中合同授業研究会の充実 ●小中教員の交流指導による連続した指導の充実 【地域とともにある学校づくりの力点】 ●学校運営協議会と地域学校協働活動の連携 ●協働して地域全体で子どもの成長を支える風土の醸成		・中学校と一体となって授業研究やOJTに取り組み、思いを深め、達成感のある学びを実現する指導力の向上に取り組む。(再掲)		児童生徒が話し合いや交流をしながら学習を深める「学び合い」をキーワードにして、小中の教職員が共通の課題をもって授業研究に取り組んだ。授業参観や合同研究会を定期的に開催することができた。【ペア・グループ学習 教職員100% 個に応じた指導 教職員100% 教職員の交流充実 教職員89.5%】	A	●学園一体となった学校運営協議会により、小中一貫の視点で多くのご意見をいただき、学校経営につなげることができた。引き続きご意見をいただきたい。 ●学校地域連携カリキュラムをもとに地域人材の協力を得ることができた。本年度の成果を踏まえ、持続可能なカリキュラムへと見直しを進める。 ●教科担任制や交流授業は児童にとって有意義であり、人材確保や校内体制の工夫に努めたい。	・隣接型高島学園としてのよさを最大限に活用し、教科担任制や合同研究などの手法で、9年間を見通し、子どもたちのつながりを大切にしながら学力向上に向けて努力している。 ・小中学校のOJTの取組、教科担任制、地域学校協働活動、情報発信など、様々な角度からアプローチ出来ていて学校、地域、様々な方面から子どもの成長へ貢献できていると思う。
		・小中教員の交流授業を進め、小学校の教科担任制と中学校での複数指導の拡充を図る。		中学校加配教員の小学校での授業(理科)をはじめ、その他中学校教員が小学校での授業(音楽、書写)を行った。また、小学校教員が中学校へ出向いて授業(社会、数学)を行う機会も設けた。【教職員交流の充実 教職員89.5%】	B		
		・学校運営協議会と協働し、地域学校協働活動を教育課程に位置付け、開かれた教育課程の実現に取り組む。		学校運営協議会の協力と地域学校協働活動推進員のコーディネートにより、多くの地域人材の協力を得て、学習の幅を広げ、内容を深めることができた。	A		
学校 関係 者 評 価	総 評				評定	学校関係者評価を踏まえての改善点	
	・全体的に教育環境がよく整備されていて、子どもたちは伸びやかに学校生活を送っている。 ・「学校・直・地域」の関係ではなく、推進員さんの努力により、「支援から協働」へのよい関係が育ってきている。さらに、「地域はもう一つの教室」として、子どもも大人もともに「多様な人とつながり」「多様な経験」ができる場を関係機関と連携しながら、「子ども」を真ん中にして、「学校」「家庭」「地域」が協働して進めていけるとよいと思う。 ・小中学校、PTA、地域が連携して土台となり、その中で具体的な学び、人との関わりを通して子どもは成長していると感じる。コロナ禍で、子どもはできることを見つけて、やるべきことをやるような、問題解決能力が向上していると感じる。来年度も、土台としてのつながりを強めながら、子どもたちの生きる力の向上について考えていきたい。 ・行事だけではなく、日常の学校生活において、あらゆる地域人材が学校に溶け込んでおられ、地域の子どもの地域で育てる機運が醸成されていると実感している。今後は、SNS等を通じて、取組の経過も地域の人々に細かく伝わり、それに対するフォローが得られるような体制ができるとよいと思う。				A	・コロナ禍があけて再開された交流活動やステージ活動について、本年度の成果を踏まえ、児童の学びや成長に向けより良い活動となるよう、小中学校間の連携を深めながら充実を図る。また学園研究についても学園としての良さを生かしながら、継続、発展させていく。 ・地域学校協働活動推進員との連携を図りながら、学校地域連携カリキュラムの内容の持続可能な視点での見直しを進めていく。これまで出来上がってきた、よい関係性を維持し、引き続き連携が深まっていくよう努めていく。 ・縦割り活動や交流活動、ステージ活動の様子、その良さなどを広く知ってもらうことができるよう、広報等で積極的に周知していく。	

学校 教育 目標	確かな学力と豊かな心を身につけ、 たくましく未来を拓く子どもの育成 ○主体性と思いやりを育てる 「おもしろい」感動の教育	昨 年 度 の 評 価 概 要	○学力（B）…学校生活の充実（A）授業がわかる（A）学習意欲（B）家庭学習（C） ○豊かな心（A）…清掃活動（A）あいさつ（A）教員の熱意（A）学校生活の充実（A） 道徳教育（A） ○健やかな身体（A）…行事・部活動（A）学校生活の充実（A） ○地域とともにある学校（A）…情報の公開・発信（A）地域貢献活動（A） ○小中一貫教育（A）… 「子どもおよび学習のつながり」（A）学習スタイルの連続性（B） ●学校関係者評価（A） ・開かれた信頼される学校づくりに向けて、工夫しながら新たな取組が進められたことに敬意を表する。	中 期 的 目 標	○生徒の主体性を引き出す教職員のかかわり ○生徒の思いやりを育てる教職員のかかわり ○温かい見守りと粘り強いかわり ○「良さ・好き」を伸ばす支援 ○学園研究「学び合い」が充実し、生徒同士がつながり合う授業づくり ○家庭・地域とともにある学校づくりの推進
----------------	---	--------------------------------------	---	-----------------------	---

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	評価	改善方策	学校関係者評価
学力の向上 ○主体的な学びの育成 ○「学び合い」 ・生徒がつながる ・生徒が気づく ・生徒が答えを導く ○感動のある 発見のある授業 学びの面白さがある授業	学校生活が楽しく充実している(80%)	生徒「学校生活は楽しい」1学期94％ 2学期88.7% 保護者「楽しく学校へ行っている」1学期89.5%2学期85.1%	A	主体的な学びを生み出す ・「学び合い」の学習形態を継続し、主体的な学びを充実させる。 ・気づき、発見のある授業の創造を目指した授業改善を行う。 ・安心して学べる学級集団づくりを行う。	・”たかが朝読書、されど朝読書”その時、畑にいと、今日は急行なのかと見まがうほどに、後者は静寂の中にある、本に親しみ、一限目の学習に向かう生徒の気持ち伝わってくる。 ・家庭学習について、保護者アンケートで具体的な取組状況を聞く とよい。
	授業で発見がある(80%) 人の考えとの違いに気づき、新たな考えをもつ	生徒「やる気をもって授業の課題に取り組んでいる」1学期80%2学期85.4% 保護者「学習への取組姿勢が意欲的になった」1学期56.2% 2学期66.4%	B		
	朝読書に自ら取り組み、穏やかに一日を始める(100%)	生徒「読書に集中して取り組んでいる」1学期89.6%2学期87.3%	A		
	家庭学習が楽しく取り組み、充実している(60%)	生徒「自ら計画的に家庭学習に取り組んでいる」1学期49.7%2学期61.9% 保護者「学習への取組姿勢が意欲的になった」1学期56.2%2学期66.4%	A		
豊かな心の育成 ○自ら考え、自ら実践する態度の育成 ○良いと思うことを自ら行う生徒の育成 ○仲間、異学年・異年齢交流 人に寄り添い、思いやる生徒の育成	良いと思うことを自ら実践する(100%)	生徒「係活動等に真面目に取り組んでいる」1学期96.6%2学期96.5% 生徒「清掃活動に真面目に取り組んでいる」1学期86.8%2学期89.5%	A	明日も行きたい学校づくり ・主体性の育成 「良いと思うことを進んでやる」姿をより多く発見し、それを広げる。 ・一日の始まりを大事にする朝読書100%に近づく生徒へのかかわりを継続する。	・子どもたちの様子を見ていると、inputの力に比べて、outputの力は及第点に達していない気がする。①メモ帳を持ち、プレゼンをしたり、②文章（英語も含めて）を音読したり、③自分の思いを気軽に第三者に伝えたりする練習等が必要だと思う。 ・学校が抱える課題については概要でかまわないので、協議会の中で伝えていただければと思う。生徒の発表の声の大きさや話す速度を指導してもらえると、もっと活発な発表になるだろう。 ・学校行事は大変意欲的に取り組まれています。楽しく継続してもらいたい。
	人の思いや考えをうけとめる(100%)	生徒「道徳の授業で、深く考えようとしている」1学期92.5%2学期91.1% 学園研究の学び合いを通して、人の考えを受けとめる活動を日常的に行ってきた。	A		
	思いやりの気持ちをもって行動する(100%)	日々の生活で、人を思いやる生徒の発言や行動を見るが、一方でいじめと認定する事案も起こった。それぞれの事案に丁寧に対応し、このことをきっかけに、良い方向で育つようかかわりを続けてきた。	B		
	自分の考えや悩みを自ら解決しようとする(80%)	全欠生徒は0である。多様な課題を持つ一人ひとりの生徒に即したかかわりを続けてきた。登校できなかった生徒が少しずつ教室へ向かうようになった。	A		
健やかな身体の育成 ○自分を、仲間を、生かす心の育成 ○夢や目標をもち、それに近づこうとする力を養う。 ○仲間の頑張りを支え、喜ぶ生徒の育成	学級、学校、地域に役に立とうとする(80%)	生徒「係活動等に真面目に取り組んでいる」1学期96.6%2学期96.5% 生徒「清掃活動に真面目に取り組んでいる」1学期86.8%2学期89.5%	A	生徒主体の学校行事の創造 ・生徒会活動の充実を図る。自分たちの学校を自分たちが創造する意識を持たせ、行動させるかかわりを行う。 保護者との信頼関係 ・生徒への丁寧なかかわりから、保護者となんでも話せる関係を築く。	・MyCityの取組を高島地域に限定されたのがよかった。3年間で積み上げられる活動になれば良いと思う。成果物の広報に工夫が必要である。 ・何をおいても、こんなに自由気ままに意見が言える学運協議会を開いていただいていることがありがたい限りである。
	体育的活動および文化的活動での頑張りを支え、讃えようとする(100%)	体育祭と文化祭の二大行事を通して、力を尽くすこと、まとまることの楽しさを全校生徒が感じた。学級や学年、全校での集会での生徒の発表や感想文を通してそのことを感じ取ることができた。	A		
	互いに励まし、努力し、目標に近づこうとする。(100%)	行事を通して培われたものが大きい。生徒が互いに励まし、共に目標を達成しようとする態度は育っている。学園研究の学び合いにおいても、教え合う姿が多く見られるようになってきた。	A		
	学級活動、部活動、生徒会活動が充実している。(100%)	学級活動、部活動、生徒会活動の取組を通して、生徒の主体性を育てることができた。自ら良いと思うことをする生徒の姿が多くみられた。	A		
開かれ、信頼される学校づくり ○主体的な貢献活動 ○学校を愛し、地域を愛する心を育てる ○学級、学校に役に立とうとする生徒の育成 ○地域の一人として、地域に貢献しようとする生徒の育成実施 小中一貫教育の推進 ・育ちがつながる小中一貫教育の推進	保護者や地域の方々の教育活動への参画(60%)	PTA活動を通して、朝読書や授業参観、環境整備作業に参加する保護者が増えた。地域の方は日常的に学校の見守りをしてくださっている。	A	コミュニティスクールの日常化 ・地域の温かい見守りの中で、子どもたちは豊かな育ちをしている。さらに地域とともにある学校を目指す。 小中一貫教育のさらなる充実	
	地域への貢献活動の充実(80%)	地域行事への参加（ボランティア活動）する生徒が増えた。My Cityを通して地域を良くしたいという生徒の思いの高さを知ることができた。	A		
	学校や地域が好きだと思う(80%)	コミュニティ・スクールの充実により、子どもたちが地域を大事にする思いを表現するようになった。今後も一層の地域の方々の参画を願いたい。	A		
	育ちをつなぐ小中一貫教育の充実(100%)	小中学校の教職員の行き来が日常的になり、一体的に教育活動を行ってきた。年間通じて子どもの育ちをつなぐ取組みが充実した。	A		

学校 関係 者 評価	総	評	評価	学校関係者評価を踏まえての改善点
	・「学校生活が楽しい」と、大多数の生徒が感じているのは素晴らしい。それにもまして、不登校、長期欠席者が0という現状は特筆に値する。楽しくなくても学校へ行く、しんどくても別室登校はする、そこを頑張れるのは、親の愛情や教職員の生徒一人ひとりへの支援が、生徒の心に届いているからであろう。その中には「先生が最後の砦」という生徒もいることだろうと思う。 勤勉で真面目なのが高中生のイメージである。だから友達と協力して与えられた仕事を成し遂げられる。しかし、それは気心の知れた少数の間でのこと。集団が大きくなったり、異年齢の者が加わると、その長所は出せない。高中生が克服する課題の一つだと思う。 ・引き続き学校や子どもの活動が見える機会を設けていただきたい。		A	・高島学園コミュニティスクールが定着し、様々な場面で地域の方が学校で生徒にかかわってくださっている。次年度は部活動のない曜日に学習支援をしていただくことを依頼したいと考えている。この機会を通して、子どもたちの意欲の向上を目指す。 ・子どもたちの表現力に課題があると指摘された。日々の生活の中で子どもたちがより多く話す機会、子どもから言葉を発するようなかかわりを続ける必要性がある。 ・学園の意識の高まりが見られた。小学校教員が常に中学校職員室に來たり、校内電話を活用して話をしている状況がある。小中一貫教育のあり方を見直したので、さらに小中学生の9年の育ちを意識した教育活動の展開をする。

学校 教育 目標	かがやくひとみ ～自律できるたくましさを育む～ 【目指す学校像】 ◎笑顔で登校、笑顔で学び、笑顔で下校 ○一人ひとりの居場所がある「安心」できる学校 ○自分もやってみようとして「意欲」がもてる学校 ○子ども・教職員・家庭・地域 みんなで「協働」する学校	【めざす子ども像】 ○考える子 学ぶ力の育成 ○がんばる子 主体性の育成 ○やさしい子 豊かな心の育成 ○きたえる子 たくましい心身の育成
昨 年 度 の 評 価 概 要	◎考える子：学ぶ力の育成 B 基礎基本の定着（B） 学習規律、学習習慣の確立（B）授業改善（B） 小中一貫教育（B） ◎がんばる子：主体性の育成 B 個が生きる集団づくり（A） 豊かな人間性・社会性（B） やり切る姿勢（A） ◎やさしい子：豊かな心の育成 B 心育てる道徳、人権教育（A） 特別支援教育の推進（B） 凡事徹底の学校風土（B） ◎きたえる子：たくましい心身の育成 B 健康への意識の向上（B） バランスの取れた体力（A） 安全を守る意識と実践力の向上（C）	◎学ぶ力の育成 ○知的好奇心を高め、自主的、主体的に学ぶ態度を育成する。 ◎豊かな心の育成 ○「人と関わる力」を伸ばし、『気づく力』を身につけ『挑戦する力』『やり切る力』を育成する ◎たくましい心身の育成 ○自分の体力の向上に関心を持つとともに、安全を確保することのできる知識・技能・態度を身に付けさせ、危機管理意識を高める ◎つながりを意識した18年間を見通した小中一貫教育の推進、学校・地域連携カリキュラムの実践と学校に対する地域の理解や関心を一層高める ◎授業力、学級経営力、課題対応力の向上を目指す活気のある教職員集団の構築

評価項目（指導力点）	指標：到達目標（成果指標・取組指標）	達成状況	小項目	中項目	改善方策について	学校関係者評価
◇考える子：学ぶ力の育成 ◎基礎基本の定着 ○個別最適な学び ○個に応じた学習活動や学習課題の実施 ○協働的な学び ○「ねらい」を達成するために協働的な学びの実施	◎基礎基本の定着 個別最適な学び、協働的な学びの実現 ○授業で習ったことは理解している90%以上 ○わからないことを質問したり、聞いたりしている90%以上 ○聞く、話すにより自分の考えを深めている80%以上 ※意見を交流する場設定への自己評価90%以上	○「学習理解度」の児童評価96%、保護者評価88%。「質問する、聞く」の児童評価92%、保護者評価88%であった。「考えを深める」の児童評価94%、保護者評価（声かけ）は60%で、大きな差がある。 ○友だちや教師に質問したりわからなところを聞くなど、問題を解決しようとする姿は見られる。一方で聞けなくて困っている児童への対応が課題である。 ○子どもをつなぎ、双方向性を意識した授業が協働的な学びにつながっている。 ○「家庭学習」の児童評価は89%（9ポイント増）、保護者評価は88%。「読書」の児童評価は81%（10ポイント増）であり、読書活動への取組の成果が始めている。保護者の読書への声かけは54%である。 ○規律は概ね身についているが、向かう姿勢に課題があり職員の自己評価は低い。	B	B	○基礎・基本の定着 ・e-ライブラリは、個別最適な学びを進める上で有効なツールとして単元に応じて継続的に使用する。（アンケートやテスト機能も活用する） ・コミュニケーションの媒介としてグループ学習に積極的に取り入れる。 ・思いの双方向性を意識して、子どもを繋ぐ授業展開に努める。 ○学習規律、学習習慣の確立 ・家庭学習習慣の確立と読書に親しむ取組の充実。（家読の定着） ・「学習の振り返り」を発達年齢に合わせて毎時間行う努力をする。 ・学習規律の徹底のため、学校で共通したルールを決め実践する。（授業の挨拶、発言の仕方、聞く姿勢、学びに向かう姿勢づくり等） ○子どもと創り上げる授業（授業改善） ・個別最適な学びと協働的な学びを意識して、子どもを主にした授業づくりに努め、子どもが「再構築」するための授業展開を考える。 ・「与える」から「見つけ出し、活用する力」の育成を図る。 ○保幼小中＋高一貫教育の取組の充実 ・保幼小間で保育や授業、小中で授業や生活指導の在り方等を研究。 ・各校園のカリキュラムのつなぎの研究と実践。進級への取組の継続。	○タブレット活用のスキルの差はあっても、うまく利用できている。 ○授業内容を理解していない子どもへの支援を今後も継続してほしい。 ○読書担当を中心に学校全体として、読書活動に重点を置き、家読の日の取組や本の紹介などを読書日より等々学校と保護者が互いに共有し読書活動の推進につなげていることは継続してほしい。 ○家庭学習習慣の定着のために、「学習をがんばる週間」を一定期間設けたり、自主学習の内容や方法を異学年交流で学ぶ機会にしていたり、教室や廊下に掲示していたりと様々な工夫がうかがえてよい。 ○全国学力・学習状況調査の結果と考察を踏まえて、次年度少しでも全国平均に近づけるような指導を期待する。思考・判断・表現力を高めていく学びの場を期待する。 ○保幼小中間での授業のカリキュラムの共有（積み上げ）は大切である。 ○黒板の丁寧な板書は、子どもたちに非常にわかりやすい。 ○子どもの学習理解度の評価が高い理由として、タブレットによる授業の双方向性を大切にしたり、常に授業改善に取り組んだりしている教員の努力や姿勢がうかがえる。 ○教室の環境整備と子どもの感想や作品へのコメントなど丁寧である。
◇がんばる子：主体性の育成 ◎「個」が生きる「集団」づくり（特別活動） ○「I」を伸ばす：自己肯定感を育む ・自分の中にある能力に気づき、伸ばす ○「We」の世界を広げる：共感力を育む ・関わりの中で自分の中の優しさを伸ばす ◎豊かな人間性、社会性を育む（キャリア教育） ○所属意識、自尊感情、自己有用感を育む ・集団の中で自分を生かす意識を高める ・認め合い、高め合う集団を育てる ◎やり切る姿勢（やり抜く力）を伸ばす ○チャレンジ精神を高める ○めあてをもって努力し続ける力の育成	◎「個」が生きる「集団」づくり ○「I」を伸ばす：自己肯定感を育む ○自分には良いところがある90%以上 ○「We」の世界を広げる：共感力を育む90%以上 ○学校で笑顔で過ごしている90%以上 ○考え、思いを仲間と聞いてもらえている90%以上	○「よいところがある」へ児童評価は89%、「笑顔で過ごす」への評価は94%で、「思い・考えを聞いてもらえる」への児童間評価は93%、教師と児童間は96%とどちらも昨年度よりポイント増である。 ○児童の良さ、得意なところを伸ばすことへの意識、特別活動で全ての児童に活躍場面を与える等、「個」が生きる「集団」づくりの成果が出てきている。同時に児童は、自己肯定感を高めてきていると判断する。 ○「将来の夢や目標」への児童評価は91%（4ポイント増） ○「マイクラススローガン」への児童評価は92%、「協力してやり遂げる楽しさ」への評価は95%であり、集団を意識している児童が多い。 ○お互いの良さを認めたり、自分たちで考えたりする姿が多くなった。 ○「努力」への児童評価は95%（5ポイント増） ○めあてを意識させたり、振り返りを大切にしたりすることで、児童の活動意欲は高まっているが、最後までやり切れない児童への指導は課題である。	B	A	○個が生きる集団づくり ・子どもの自信につながる声かけや激励を継続する。 ・係活動や話し合い活動によってよりよい学級をつくる（学級を変える） ・子どもが、児童会・委員会活動の活性化に努め、より良い学校を目指す。 ○豊かな人間性、社会性を育む（キャリア教育） ・今学んでいることが将来につながっていることを理解できる授業。 ・体験活動、地域の大人から学ぶ時間の充実と地域への貢献を整理する。 ・縦割り活動やクラブ活動、人権集会等のねらいと目指す姿を明確に示しながら、児童の主体的な活動によって達成感を味わわせる。 ○やり切る姿勢（やり抜く力）を伸ばす ・めあての達成具合を確かめる時間をとる。振り返り、自分ががんばった（いる）ことを自覚させて自己肯定感を高める。 ・児童が、自分と向き合い自己決定する場を積極的に取り入れる。	○登校班、縦割り班、学級、学校等のなかで、高学年のリーダーシップを期待する。自分で考え、判断し、行動しながら、成功体験を積み、自己肯定感を高めてほしい。同時に思いやりの心も育つことを願う。 ○子どもたちの前向きな姿勢や笑顔を多く見ることができた。 ○異学年の交流は、子どもたちのつながりを深め、自己有用感を育てる。 ○児童会のスローガン「笑顔で挑戦」を1年間貫き、諸活動への工夫ができたことと、子どもたちの達成感や成就感は高まったと考える。 ○「笑顔」が増えて、昨年度より明るい雰囲気は漂っていた。また、仲間意識の高まりも感じられる。 ○子どもの力を信じ、PDCAサイクルを利用しながらより一層子どもの主体的な態度を育成していく。 ○自分の興味関心のあることから一生懸命取り組み、失敗しながら今後の将来の生き方を考えている子どもを育てる。
◇やさしい子：豊かな心の育成 ◎互いの違いを認める心の育成（人権教育） ◎思いやりの心を育む（道徳教育） ○相手の気持ちに寄り添う心（共感力）を育み、励まし合う関係づくりに努める ◎特別な個別支援教育の推進 ○不公平感を感じさせず、周りの子への配慮を忘れず、対応を教えていく（支援者を育てる） ◎凡事徹底の学校風土の構築 ○児童と「当たり前」の共有 ○学校、家庭、地域と「当たり前」の共有	◎互いの違いを認める心の育成（人権教育） ◎思いやりの心を育む（道徳教育） ○相手の気持ちに寄り添う心（共感力）を育み、励まし合う関係づくりに努める ◎特別な個別支援教育の推進 ※個別の支援計画の活用への自己評価90%以上 ※教育支援委員会の充実への自己評価90%以上 ◎凡事徹底の学校風土の構築 ○学校の決まりを守って生活している90%以上 ○友だち、先生に進んでいささつをしている90%以上	○「友達のことを考えて行動する」への児童評価は97%、「協力」への評価は97%（2ポイント増）などから、思いやり、励まし合う関係が育っている。 ○「思いやり」への保護者は働きかけは96%で、保護者の意識も高い。 ○教師の児童の気持ちに寄り添った対応をしたり言葉かけをしたりしている姿勢は、児童のよい手本となっていると思われる。 ○巡回相談を活用し、支援が必要な児童への支援につながっている。 ○個別の支援計画は、更新しており全体で共有しながら指導にあたっている。 ○保護者と相談しながら進めるように職員全体で取り組んでいる。 ○「きまりを守る」の児童評価は96%、保護者の働きかけは98%、「あいさつ」の児童評価は93%↑、保護者の働きかけは97%↑であり、当たり前にできるように取り組んできた成果が出ているが継続した取組が必要と考える。 ○「生活リズム」の児童評価は86%↑、「健康・安全」の児童評価は95%↑。保護者の働きかけは「生活リズム」96%↑、「健康」99%であり「健康」「安全」への保護者の具体的な声かけを考えていく必要があると考える。 ○家庭、地域と連携した取組を充実させていく必要がある。	B	A	○互いの違いを認める心、思いやりの心を育む ・道徳や人権教育を核とした学級経営に努める。 ・教職員は、児童の発言や行動に敏感になり、児童の人権意識を高める存在であることを引き続き意識していく。（その場を逃さない） ○特別な個別支援教育の推進 ・通級指導教室が設置されている利点を生かし、児童への支援について学び合い、高め合う。（授業公開と参観） ・チェックリストにあがった児童について支援体制を整える。 ○凡事徹底の学校風土の構築 ・当たり前のことを当たり前にできる力を育むため、その意義を理解させ、同じ姿勢で、指導しきる。（やり直しをさせる）	○教職員と児童の発言や行動に寄り添う姿勢は、授業や学校の日常に感じられる。また、人間関係のトラブルが起っても当事者の言い分を聞き周りの子どもたちと共有し考えていく指導を継続してほしい。 ○子どもも教職員も、人権について考える研修や動画等を視聴して学ぶ機会にしてほしい。 ○廊下で出会ったとき、「おはよう」「こんにちは」と元気に挨拶をする子どもの姿が増えた。アンケートの結果、「挨拶」は、高評価である。日頃から凡事徹底を教職員が1つにつながって指導している。 ○養護学校との交流（副読制度）は今後も継続してほしい。 ○見逃さずに、その場で指導をすることを継続する。（善悪の判断の基準になる）
◇きたえる子：たくましい心身の育成 ◎健康への意識向上 ○基本的な生活習慣の確立 ○食育の充実 ◎バランスのとれた体力の育成 ○魅力ある体育授業（授業改善） ○運動に親しむ環境づくり ◎安全を守る意識と実践力の向上 ○安全な学校を目指した教育課程の編成	◎健康への意識向上 ○基本的な生活習慣の確立 ○食育の充実 ◎バランスのとれた体力の育成 ○外で遊んだり、進んで運動したりしている90%以上 ※体育授業、体育的行事の工夫へ自己評価90%以上 ◎安全を守る意識と実践力の向上 ○非常時の行動についてわかり、危機管理意識を高めている90%以上 ※教師の危機管理意識の向上90%以上	○「生活リズム」の児童評価は86%↑、「健康・安全」の児童評価は95%↑。保護者の働きかけは「生活リズム」96%↑、「健康」99%であり「健康」「安全」への保護者の具体的な声かけを考えていく必要があると考える。 ○家庭、地域と連携した取組を充実させていく必要がある。 ○「運動への親しみ」の児童評価は87%（2ポイント増）、保護者の働きかけは83%であり、保護者の関心の高まりが見られた。 ○カードやタブレットの効果的活用、児童間の評価の実践は、よかった。 ○「非常時の適切な行動」の児童評価は98%↑、保護者の働きかけは98%であり、危機管理意識の向上はうかがえる。ただし、登下校のトラブルが絶えず、家庭、地域と連携した安全教育的取組が今後の課題となる。	B	B	○健康への意識向上 ・健康の基本となる生活習慣を、自ら進んで見直すことができるように気付かせる指導を心がける。 ・保護者への啓発、連携の手立てを考え、実行する。 ○バランスのとれた体力の育成 ・「できた」を重視するのではなく、「どうしたらできるようになるか」を考えた上、教え合ったりする授業づくり。（努力に価値あり） ・体育ファイルを活用し、結果を生かす取組を考へ、実施する。 ○安全を守る意識と実践力の向上（分団児童会の自治） ・危機回避能力を育てる安全教育を地域、保護者と連携して実施する。	○家族内で子どもは、それぞれの生活リズムで過ごしている。部屋にこもっている保護者も把握し切れないのでは。自分でリズムを整え、健康に過ごす力をつけたい。 ○子どもの迷宮が多い。中学校ではもっと多いようである。体力をつけるためにも、徒歩での登下校にしていけないか。 ○学校で友だちが怪我をしたらすぐに先生に伝える子どもたち。その姿勢が、登下校時の急なことへの対応力となってほしい。 ○集団登下校の様子は、大人の見守りやある程度のペナルティをつける改善される。日常的に分団児童会での決定事項を守ることを育てる。
◇教職員の教育力を高める ◎学び続ける姿勢と学び合う教職員集団 ○学校運営参画意識の向上 ○OJT研修の充実（多様で多面的OJT） ◎「チーム」で勝負する教職員集団 ○組織対応力の向上 ○学び合い、高め合う職員室	◎学び続ける姿勢と学び合う教職員集団 ○意見やアイデアを学校運営に生かすことへの自己評価90%以上 ○OJT研修の充実への自己評価90%以上 ◎「チーム」で勝負する教職員集団 ○安心して学級、学校づくりに取り組んでいる90%以上 ※相談、交流、伝承のある職員室への自己評価90%以上	○それぞれの思いを交流する姿が多く、目的をしっかりとった提案が多くあり、児童の学校行事等への前向きな姿につながっていた。 ○職員主体のOJT研修が実施され、日頃の工夫が共有され、学びあえた。いかに時間を生み出すのか、時間的な余裕が必要である。 ○毎週の打ち合わせ等によって、自学級以外の児童についても理解を深めることができた。普段から、授業、児童理解等について話せる雰囲気があり、安心できる。生徒指導上の情報、指導の方向性を今後も共に共有。 ○学校運営協議会や夢の会サポーター会議等、地域とともに学校をつくっていく雰囲気は醸成されている。 ○学校・地域連携カリキュラムの作成と熟議から、1年間に見通しや地域の方の協力など、マンネリ化を避け、より効果的なものにしていきたいとよい。	A	A	○教職員の教育力を高める ・自己目標シート、学校評価、各種研修は、資質向上につながっており組織力向上につながるという認識をもつ。 ・OJT研修の充実、活発化のための環境整備。 ・相談しやすく、一丸となって行動できる職員室を維持する。 ・企画委員会・教務部会を充実させ、気になる児童の今後の対応について話し合う機会を定期的につくる。	○学校教育目標を達成するために、教職員が一丸となっている雰囲気があり、明るさや活気を感じる。 ○会議や研修等の時間確保が難しい現状であるが、協議して同じ方向で指導していく風土と今年度よりもステップアップしていく姿勢を大切にしたい。
◇地域とともにある学校づくり ◎協働、相互参画による教育活動の充実 ○学校運営協議会と地域学校協働活動の一体化 ○学校・地域連携カリキュラムの作成 ◎「聴く」「対話」による信頼関係の構築 ○学校教育目標、めざす子ども像の共有 ○相談しやすい学校	◎協働、相互参画による教育活動の充実 ※教育課題への取組をともに考え実行する体制づくり ※学校・地域連携カリキュラムの熟議と実行 ◎「聴く」「対話」による信頼関係の構築 ○わかりやすく情報を提供している90%以上 ○一人ひとりを理解し大切にしている90%以上 ○学校や担任に相談しやすい90%以上	○「教師、学校の対応」への児童評価、保護者評価共に、全ての項目で90%以上の好意的なものとなった。引き続き信頼感を高めたい。 ○児童や保護者の多様な背景に配慮し、学校としてどのようにできるかを考える風潮が固まってきた。	A	A	○地域とともにある学校づくり ・学校運営協議会の熟議のテーマを工夫し、教育課題への取組をともに考え、実行、発信する体制を充実させる。 ・学校・地域連携カリキュラムを実践し、学校運営協議会での熟議の中でブラッシュアップしていく。 ・学校教育目標、めざす子どもの姿の保護者、地域との共有。 ・保護者の気持ちに寄り添いながら、子どもの思い、保護者の思い、学校が進めていきたい方向をすり合わせるように努める。	○子どもの笑顔で学校、地域が元気になる。学校・地域連携カリキュラムや子どもに関してともに考える学校運営協議会でいたい。 ○目指す子ども像とそのための方策について十分熟議して、子どものより良い成長を願いともに活動できる雰囲気は継続する。 ○登校中の子どもたちの会話を聴くと教職員と子どもたちの関係が良いことに安心感がある。 ○小学校から中学校へ、運動性のある（うまく充足できる）学校・地域連携カリキュラムにしていこう。（地域との関係も含めて）

学校 関係 者 評 価	総	評	評定	学校関係者評価を踏まえての改善点	
				学校関係者評価を踏まえての改善点	
学校 関係 者 評 価	○ アンケート結果の少数意見や「あまり」という評価箇所については、注意が必要である。子どもの良さや強みを生かしながら、活躍できる学校を目指してほしい。 ○ 今後も、教職員と子ども・保護者・地域との良い関係づくりと一人ひとりを大切にして、安心・安全に過ごせる学校にしていほしい。 ○ 児童、保護者のアンケート結果もよく、今の取組を継続するとともに、新しい発想で新たな取組も実施してほしい。 ○ 学校経営方針として大切にされている「自己肯定感」「共感力」の育成と「自己決定の場」をもち「自治能力」を高める取組は、生きる力の土台となるため、協力しながらともに尽力したい。 ○ 学校・地域連携カリキュラムの実施や改善と工夫を今後も連携して取り組んでいきたい。	B	B	○ 子どもを主にした授業づくりや「個別最適な学び」と「協働的な学び」の工夫、改善、読書活動の推進や家庭学習の充実、基礎基本の定着、意欲的・主体的に学ぶ姿勢を育むなど引き続き重視する。さらに、子どもの意欲を掻き立てる課題設定や体験活動を重視して児童の知的好奇心を高める。子どもが聴き合い響き合い、自分の考えを更に深めていく場を設定し、読み解く力の育成につなげる。 ○ 心温かい思いやりのある豊かな人間性を育て、自分も友だちも大切にできる人間関係の基盤づくりと凡事徹底の学校風土の構築を引き続き重視する。また、何事にも挑戦できる環境を整え、児童会活動を中心に据えながら活気あふれる学校づくりを目指す。登下校指導においては、分団児童会活動の工夫や安全指導（見守り活動）による高学年の自尊感情の育みとリーダー性の伸長を重視する。 ○ 「めざす子どもの姿」を学校、保護者、地域で共有するとともに、学校・地域連携カリキュラムを実践し、地域人材、地域素材を生かした教育活動の更なる充実を図る。次年度は、児童が持続可能な目標を意識しながら、学校から地域へ発信できる取組を模索する。 ○ 昨年度に引き続き「学び続ける教師像の確立」を学校経営に位置付け、「組織対応力の向上」「信頼関係づくり」「学校運営への積極的な参画」を力点として、チーム学校として、これまでの取組を発展させたい。	
				4段階評定（A 目標を十分に達成 B はば目標を達成 C やや不十分 D 改善を要する）	

学校 教育 目標	「自ら考え 変化に挑む子」の育成 “新たな課題に向かい、 アイデアを出し合い、高め合い、 支え合う子ども”	昨 年 度 の 評 価 概 要	○5.6年生の総合的な学習の時間で展開した地域学校協働活動はオリジナルな取組であり高く評価できる。子どもをほめる機会を多く生み出せること、「やればできる」ということを身をもって実感できる良さを大切にして発展させ、ますます自主性を育てていきたい。 ○何のためにその活動をするのかを十分に考えさせ、高学年の登下校のリーダーシップを高め、あいさつ運動等に取り組ませることが必要である。4年生の愛鳥の森への1年生招待や九九道場における6年生の指導等でたてわり活動の活性化につながる役割を持たせることで、自分に自信を持たせたい。 ○タブレットの使い方や学習時間と休み時間のメリハリをどの学年でも徹底することにより、誰もが気持ちよく過ごせる学校づくり、集団づくりへと導くことが様々な活動を支える土台となる。	中 期 的 目 標	・豊かな人間性、社会性の育成と学力向上 （生活習慣・学習習慣の確立） ・教員の授業力の向上 （授業改善と個に応じた指導） ・地域とともにある学校づくりをめざす （学校運営協議会 地域学校協働本部）
----------------	--	--------------------------------------	---	-----------------------	---

評価項目(指導力点)	指標:到達目標(成果指標・取組指標)数字:評価肯定率	達成状況	評価	改善方策	学校関係者評価
◎やさしい子 ●思いやりのある、差別やいじめのない学校づくり(たてわり活動・あいさつ運動) ●読書活動の充実(家読、読み聞かせ) ●保護者との対話、きめ細かな個別対応 ●基本的な生活習慣と行動様式を身に付け、時と場に応じて行動できる子	よりよい集団づくりに努め、仲間はずれやいじめをしない、許さない。100	児童情報の共有に努めた。「いじめ・仲間外れしない」(児)96%、「友達を支える雰囲気がある」(保)90%。「いじめに組織対応している」(教)88%。児童・保護者との対話に心がけ、いじめの定義に沿った積極的な認知に努めている。	B	B	学校いじめ防止方針を決定・共有の場を適切な機会に行い、職員・保護者・地域に共有する。その都度、出来事を記入し、記録として残しておくシステムをつくる。 読書の記録を活用する。朝読書を徹底する。学級文庫を入れ替え、読書環境を整える。図書の貸し出しをしやすい(バーコード登録のみに)家庭への持ち帰り促進。 家庭と互いに連絡し合える関係づくりに努める。(良いこと・善くないこと)通信・連絡帳で子どもの様子を伝えていく。 教師も進んで挨拶を継続し、よい雰囲気を保つ。委員会で継続して課題に届け、言葉遣いを学校をあげて改善する運動に発展させる。(人権放送の復活等も)
	読書指導により読書活動を推進し、進んで読書をする子の育成に努める。80	図書ボランティアによる環境整備を継続中。「ふだんから読書活動に取り組んでいる」(児)63%(保)40%「読書指導に工夫」(教)71%。少し向上はしているものの全般的に低迷している。家庭で読書することが少ない。意識向上には、読み聞かせの活動が継続できたことも影響している。	C		
	相談・連絡しやすい学校づくりに努める。100	「困ったことを友達・先生に相談できる」(児)90%「担任や学校に相談できる」(保)86%。些細なことであってもその日のうちに保護者に連絡をとるように各担任は心がけているが、相談がしやすいという意識はやや低下した。	A		
	言語環境を整え、時と場に応じた言葉遣いをする。進んであいさつと素直な返事をする。90	「適切な言葉遣いができている」(児)89%(教)63%。「自分からあいさつができた」(児)88%(保)64%(教)指導している94%、意識に差があるが、言葉遣いについては低下し、言葉の使い分けができていない子が目立つ。あいさつについての意識は向上傾向である。	B		
	学年に応じた学習規律を身に付け、「話す」「聞く」のマナーの確立を図る。90	「学年に応じた学習規律の徹底が図れている」(教)80%。「話す姿勢・聞く態度が身についている」(児)85%。「グー・ベタ・ピン」といった姿勢の合言葉を用いて多くの学年で啓発している。「能動的な聞く・話す」のために相手への伝え方の指導、語彙の獲得も課題である。	B		
◎かしこい子 ●学習規律を整え、秩序を大切にした授業づくり ●ペアやグループで主体的に学び合う言語活動の充実 ●「読み解く力」を重点においた授業づくり ●ICTを活用した学び方改革 ●授業とつながる家庭学習 ●郷土の良さを学ぶ学習（藤本太郎兵衛、針江かばた、高島晒）	言語活動を充実し、読み解く・考えを深める活動を通して、児童が主体的に学べるよう学習方法を工夫する。80	「理解できている子が8割以上」(教)-国57算57%。「理解している」国-(児)82%(保)89%・算-(児)88%(保)83%。算数は昨年とさほど変化がないが、国語の意識が低下している。国語科の授業改善が必要である。	D	C	話し方・聞き方のルールを確立する。床に着席時の「三角すわり」の健康面での見直し。 朝学習の見直しをする(視写やスピーチ等、曜日ごとの内容を検討、漢字音読名人、読み解くカプリントの活用、コグトレ)…朝の会との順番検討。 「けてぶれ」を紹介する。家庭学習がんばり週間を設けずに、日々の宿題で自主学習を課す。 中間層の子の学力を保証する。「どんどんプリント」「レベルアップかいだん」など、学級に合ったシステムを活用して指導する。 総合的な学習の時間が多くなり過ぎないようにする。郷土のことを学ぶ機会に地域人材を活用したいが、学力の向上も大切にする。
	内容を工夫して、家庭学習を学年×10分(1・2年生は30分間)行い、学習の定着を図る。80	「家の勉強をしっかりしている」(児)81%(保)62%。「家庭学習ががんばり週間が有意義」(児)85%(保)58%…強化週間の頻度や取組方法が不十分であった。自主学習への取り組み方についての指導、質の向上が課題である。	B		
	楽しい・わかる授業を心がけ、個別の能力を見とり、一人ひとりを伸ばす学習に努める。90	「授業改善に取り組めた」(教)93%。「話し合いで考えを深めた」(児)89%。「自分の考えを出せた」(児)82%。授業改善にかかる意識は向上した。とくにICT機器のより効果的な活用にご手ごたえを感じている。効果的な学習場面を見極めることが大切である。	B		
	郷土への認識を深め、さらに知りたくなるような郷土愛が育つ学習を仕組む。90	「総合的な学習の時間は地域の実情を生かし、探求的な活動を展開できた」(教)100%。「物事に根気強く取り組んだ」(児)88%(保)71%。地域学校協働活動をはじめとする体験活動が教員の意識を向上させている。全教科に課題解決学習を展開する意識が必要である。	C		
	外遊び・集団遊びを推進し、『体力アップ週間』を設定し、児童の体力向上に積極的に取り組む。80	「外遊び等で体力がついた。」(児)84%「運動に親しみ体を動かそうとする」(保)73%。「みんな遊びに取り組む」(教)100%。運動習慣の二極化の実態はあるが、みんな遊びは、運動の機会を与えるのには効果的である。冬は縄跳びの練習に熱心に取り組む児童が多い。	C		
◎強くたくましい子 ●体力アップ強化週間等、運動能力向上の全般的な取組(なわとび・マラソン等の取組) ●食育を通した健康な体づくり・「早寝早起朝ご飯」の推進 ●遊びを通した仲間づくりと体力づくり ●安全に対する意識の高揚、感染症から身を守る行動様式の徹底	「早寝早起朝ご飯」を推進する。90(朝ご飯の摂取率は100)	「早寝早起朝ご飯の生活リズムがついている」(児)89%(保)80%(教)75%…家庭と学校の意識の格差がある。生活のリズム、とくに就寝時刻が遅い子が、集団での登校に間に合わない子もあり、朝のスタートが気持ちよく始められない傾向にある。	C	C	がんばりカード等、全校で取り組んで意欲を高めるものを。体育のたから箱」を復活させる。(定期的にタブレットで配付)みんな遊びを定期的に設定する。 生活改善の呼びかけを積極的に行う。スマホやゲームの学習を設け、朝起きられない、脳が目覚めない実態を知る。リズムアップカードはGWにも。 情報モラル教育や学習者タブレットの使い方の講話を親子対象で企画する。家庭学習カードにも目標の設定をさせる。 登下校指導の復活は有効であった。下校時の挨拶は小グループに戻した方がいいかも。教室を出る時刻の徹底。時間短縮や信号横断のためにも。 希望の会のおかげで充実した活動ができる。みどりプロジェクトの改善・職員への周知・共有が必要。懇談を通じて地域の方の思いが伝わった。 たてわり活動・運動会の取組など、高学年があこがれの対象となっていて継続させたい。「キャリアパスポート」の有効な活用をすべく。 部会で異校種教員の共同授業は有効で継続すべき。もっと気軽に(部会を超えて)参観し合う機会や校内での紹介・交流を進めたい。 おたよりは継続しながら、ホームページを有効に使った発信ができるといい。(紙の配付にこだわらない発信・共有)
	スマホ・ゲーム・テレビは家で決められた時間内を守る。スクリーンとの適正な付き合い方を身に付ける。90	「ゲーム等決められた時間を守れている」(児)90%。「テレビ・ゲームの時間を決めている」(保)65%。約束事を決める家庭の割合は低下した。長時間使用に困る一方で、約束事が不要の家庭もあり、差が激しい。個人タブレットに依存する姿もある。	C		
	交通安全に気をつけた行動を身につける。感染症対策を徹底し、正しい行動を定着させる。100	「交通安全・校内安全が図れている」(教)100%「ルールを守って登下校できる」(児)96%。肯定率は高いが、ヘルメットを着用しないなど、安全を過信した現状があり、危機感が乏しい。集団登下校には指導を要する。	B		
	学校運営協議会と「北小希望の会」による地域とともにある学校づくりを推進する。100	「学運協・希望の会の活動を理解している」(教)94%。夏に地域住民との懇談会を設けたり、学校運営協議会へ全職員が参加したりしたが、教職員の意識はやや低下した。「北小希望の会」の活動がますます充実し、「のぞみひろば」の新設、「みどりプロジェクト」の継続など、多くの住民に助けていただいた。	A		
	社会・集団への貢献を自覚する活動に取り組み、キャリアパスポートの活用により自分の未来を描く。90	「たてわり活動は有意義である」(教)88%(児)87%。「特別活動は児童が自主的に行う」(教)100%。「係・委員会活動はみんなのために工夫できている」(児)89%。感染症対策が落ち着き、たてわり活動の機会が増え、意識は向上している。	B		
◎つながり響き合う教育 ●ヨコのつながり(地域と学校が一体となって子どもを育てる意識の醸成・地域住民の学校運営への参画) ●未来とのつながり(将来を見据えた教育活動の展開・社会や団体への貢献を感じる活動の展開) ●タテのつながり(湖西中学校区での『学び合い』に視点を当てた授業・保育交流の推進)	湖西中学校区保幼小中一貫教育を推進する。90	湖西中学校での体験入学が復活し、中学生・6年生児童にとって有意義な機会が持てた。「有意義に感じ、積極的に取り組んでいる」(教)88%と意識は向上した。それぞれの部会の取組には課題があり、各校園とともに改善点を検討すべき。	B	B	地域学校協働活動が見通しを持った子どもの活動へと発展した。地域の間でも抵抗なく、大人との会話ができる子が増えている。この活動を無理なく継続していくべきである。 小中学生の有志による駅前清掃など、湖西中学校との連携が深まった。さくら園との関係も、中学校や高島市の備品を借用してまで子どもたちの体験活動を進めようとする担任の意識を知ることができた。学校職員の考えを希望の会として聞く場を設けて、高学年だけに限らない、全職員の意識を知る機会が欲しい。
	タイムリーで分かりやすい学校情報を発信する。100	「情報発信に努めている」(教)100%。「学校の様子を知るのに役立っている」(保)97%。学校・学年・学級だよりで学校の様子発信には努めた。感染症対策の軽減により、学習参観などの保護者の来校機会を増やしていくべきである。	B		

学校 関係 者 評 価	総 評	評 定	学校関係者評価を踏まえての改善点
	登下校の見守りを始め、学校内外の様々な場面で子どもたちの笑顔、素直な反応、そして時には感謝の言葉をもらい、これらが地域住民としての喜びになっている。それと同時に、大人も子どもたちにしっかり反応することが必要だと考える。子どもの良さを見つけ認める行動を返していくべきである。そのような場面を多く生み出すために体験活動は有効に働く。体験によって学び、体験によって交流・コミュニケーションが生まれる。地域住民が子どもたちと、またすべての職員とコミュニケーションを密にすることで、今以上に支援が機能する。 子どもたちが、相手意識を身に付けられるようになってきたからこそ、学習に地域のヒト・モノを活用することを通して、知・徳・体のあらゆる面を伸ばせる環境を整えていきたい。	B	体験活動を通じた学習が有効であることから、子どもにどんな力をつけるために、どんな活動が必要かを学校職員と地域住民が本音で語り合う場を設け、どんなサポートがあれば体験活動が実現し、充実していくのかを時間をかけて協議する。 「人と人とが豊かにつながる学校づくり共創事業」を日々の学級経営に有機的に絡め、子どもたちが集団への所属意識を実感し、学校生活を楽しく送れるような取組を発展させ、学年を超えた「北小学校の児童である自分」という意識を高められるよう、研修に取り組む。

4段階評価(A 目標を十分に達成 B ほぼ目標を達成 C やや不十分 D 改善を要する)

学校 教育 目標	<学校教育目標> 「心豊かで、たくましく生きる生徒の育成」 <めざす子ども像> 「自分を大切に、主体的・協働的に学ぶ生徒」 <めざす学校像> 「活力と思いやりがあふれる学校」	昨年度 の 学校 評価 概要	生徒が、自分を大切に、協働的に学ぶ取組や授業は活発に行われ、めざす子ども像への育成につながっている。主体的に学び、考え、行動ができよう。そして、学力向上につながる、工夫された新たな教育活動を期待する。 地域学校協働活動について、学校地域連携カリキュラムに明確に位置付けられ、地域住民も意義を理解して取り組めることになり、また、継続性の面からも大変喜んでいる。今後は、このカリキュラムの考え方を保幼小中一貫教育がうまく運動して、より充実した協働活動となるよう期待している。学校運営全般に、生徒に寄りつい、よい教育ができていると思う。 生徒数の減少により、部活動の数が減少していることが残念であるが、「心を育む教育活動」「学力を育む教育活動」については生徒の満足度も高く、成果につながるよい環境が作れていると思う。今年度から始めた「学校地域連携カリキュラム」をさらに進化させ、地域の方と関係をより良いものに展開していったほしいと思う。	中 期 的 目 標	☐ 豊かな心を身につけ、認め合い、支え合い、共に成長する集団の育成 ☐ 学んだことを地域社会の中で生かす社会性の伸長(学而事人) ☐ 社会的規範が身に付いた生徒の育成 ☐ 学校や地域に誇りがもてる教育活動の展開 ☐ 授業で活動の質を高め、自ら進路を切り拓く学力の育成
----------------	--	----------------------------	---	-----------------------	--

評価項目(指導力点)	指標:到達目標(成果指標・取組指標)	達成状況	評価	改善方策	学校関係者評価
○豊かな心を育む教育活動 ・生徒支援・教育相談の充実 ・個を大切にした生徒指導の推進 ・いじめのない学校づくり	・あいさつができる学校づくりをします。各教育活動において生徒との対話を大切に、生徒の居場所づくりを進めます。	生徒「周りの人に気持ちよく挨拶をしている」:91% 保護者「子どもを安心して学校へ通わせることができる」:94% 教員「学級の生徒一人ひとりの居場所があり、楽しい学級の雰囲気を作り出した」:83% おはようミーティング、生徒会 学級活動 による効果	A	登校時の挨拶や来客への挨拶はできており、生徒の評価も高いが、マスクをしている関係もあってか、声が聞こえにくかったり、全く声が出ない生徒もいる。引き続き、大人から笑顔で元気に声掛けをし、生徒の気持ちよく登校に寄与したい。 生徒会が年間を通して、人権高揚をテーマに取組を進めてくれたこともあり、生徒全体の意識は高まっていく。人権週間には、特設の学活により、各学年ごとのテーマで人権学習に取り組むとともに、毎日人権について考える講話資料を使用し、担任による指導に生かした。 日々の生活ノート指導や定期的なアンケート、気軽な声かけ等による教育相談を進め、軽微ないじめ等も見逃さず、今後も適切な対応を進めている。	・地域住民が主体的に関わるおくげの花の会やおはようミーティングの活動の甲斐もあり、玄関前でも地域でもしっかりとあいさつができる生徒を多く見るようになっていく。校舎内では、どの生徒からも元気な声であいさつしてくれ、驚きと喜びを感じる。また、生徒活動が活発で、生徒たちからよい学校にしようという気持ちが見えた。 ・教育相談を重視し、生徒や保護者と連携がよく取れている。結果、相談しやすい環境の構築、いじめの未然防止、個に応じた教育支援へとつながっている。 ・各項目での評価が、生徒・保護者・教師ともに高く、実際の生徒の様子を見てもきちんとしており、充実した教育活動のもとで成長しているように思う。 ・各指標それぞれに、子どもたちが主体的に活動できるように取組をしておりアンケート結果を見ても評価できる。今後は「生徒会が積極的な理由」など、主体的に動いている理由の分析をすることで湖西中の良さが継続するヒントになると思う。
	・教育相談を重視し、生徒理解を進め、個に応じた教育支援を行います。生徒指導の委員会を促進し組織対応を進めます。	生徒「先生に気軽に相談したり、話が」:79% 保護者「何か課題があったときには、学校と相談しやすい」:90% 教師「生徒理解を推進、教育相談に努めた」:84% 教育相談週間の推進、ライフノート、日々の声かけ、家庭連絡の充実。	A		
	・人権学習を充実させ、人権意識を高め、人を大切にする生徒を育てます。	生徒「仲間はずれやいじめをしない、させないようにしている」:94% 保護者「学校はいじめの無い雰囲気づくりに努めている」:80% 教員「学校生活の中で起こるいじめや人権問題に適切な指導ができていたか」:88% 人権学習 生徒会 いじめ撲滅運動	A		
	・生徒会活動を活性化させ人権意識の向上を図ります。SOSカードなどを徹底し、早期発見、組織対応をすすめます。	生徒「生徒会活動に積極的に取り組んだ」:95% 保護者「学校は人権意識を高めるための生徒会活動を活性化させている」:80% 教員「振り返りシートの結果や教育相談を通して、問題の早期発見・早期対応ができた」:68% 生徒会活動によるいじめ撲滅運動、文化祭人権劇、他 総合的な学習、道徳の推進	A		
	・わかる授業づくりを進めます。	生徒「学校の授業はよくわかります」:90% 教師「わかる授業と学力の定着に努めた」:83%、「個別最適で協働的な学びができるよう授業改善をした」:88% 将来の生き方を考え、進路実現に努めた。	A		
○確かな学力を育む教育活動 ・学力向上の取組の推進 ・学び合い学習の推進 ・ICT活用の推進 ・保幼小中一貫教育の推進	・少人数指導等学習形態の工夫により、各教科の授業に目標を持たせ、きめ細かな指導において成果を上げます。	生徒「少人数による授業はわかりやすかった」:92% 保護者「各教科の授業に目標をもって取り組んでいる」:79% 少人数学習、グループワーク、学び合い、個別指導、学習支援	A	生徒の「授業がよくわかる」がテスト等の結果に表れないところはあるが、授業中は、ICT活用やグループやペアを活用した学び合い等により、積極的な意見交流ができたり、わからないことを聞けたりしたことでも評価が高かったことが考えられる。定着させるための家庭学習の充実や、さらに、考えを深めさせるような課題の提供などが進んだ教科はあるが、全体としては課題が残った。 生徒の少人数授業に対する評価はよい。人事にもよるが来年度は35人を超える3年生で、教員の少人数授業を実現させたい。 保幼小中一貫教育では、高校での体験授業や出前授業が実現し、昨年度よりも進められた。生徒が、進学後の学習のイメージも持てたことは大変価値あるものであった。今後も、系統的なキャリア教育の一環として位置づけられるよう、連携を深めていきたい。	・分かる授業づくりやめあての明示により、積極的・主体的に学べる環境にあることは評価できる。ただ、授業への参加態度や聞く姿勢が、学力向上に必ずしもつながっていない点は、評価の分かれる所である。 生徒が目標をもって学習を積み重ねていき、確かな学力が付くように試行錯誤している様子は評価するが、まだ実際には、学力向上には至っていないと認識。「わかる授業づくり」のさらなるチャレンジを期待する。本項目の到達目標が「確かな学力」であるならば、達成状況欄に客観的評価指標としての全国学力テストや学年別テスト等の経年比較などの客観的指標も必要かと思う。 ・教科横断的な取組や、グループで発表する活動などの取組が見られた。学習への意欲が、学校外でも高められるような取組があるとさらに良くなると思う。 ・授業の様子は熱心に聴き、学習に取り組んでいる姿に好感が持てるが、家庭学習の習慣のあるなしで差が出てくることを危惧する。文字の理解力や想像力を付けるためにも、読書の機会を大切にしていほしい。 ・ICTの活用や少人数指導など工夫された学習環境の下で着実に学力向上が図られているように思う。家庭学習については、やや低い評価もあるが、学習塾での活動も含めると、仕方ない程度かなと思う。
	・「めあて」を明示し、「振り返り」を行う授業づくりに努めます。	生徒「めあての提示や振り返りて意欲・関心がもてた」:81% 保護者「各教科の授業に目標をもって取り組んでいると話している」:79% 教師「次時につながる振り返りの時間を工夫した」:80%、「学びを振り返ることができるように家庭学習の課題を工夫した」:70%	B		
	・ICT機器を効果的に活用し、学力向上を図ります。	生徒「授業中 ICTの活用で内容がよくわかった」:94% 保護者「ICT機器を様々な活動で効果的に活用している」と話している」:84% 教師「ロイノートの活用による対話的な授業の展開した」:98% 学び合い活動の促進、生徒が安心して学べる雰囲気の醸成、リモートによる生徒の学習保障、他	A		
	・ペアやグループでの学び合う活動の充実を図ります	生徒「学習の約束を守れている」:95% 保護者「子どもは家庭での学習習慣が身につけている」:72% 教員「学習に取り組む姿勢や学習規範を身に付けさせる指導ができた」:75%「保幼小中一貫教育」:85%	B		
	・保幼小中の連携を図り、学習規律の定着や家庭学習の習慣化を図ります。	生徒「部活動は充実していた」:87% 保護者「家庭や地域と連携し、基本的な生活習慣の育成に努めている」:88% 教員「部活動指導に意欲的、練習時間や約束を守る指導」:83%「生徒の健康管理や生活安全の意識は高まった」:70%「危機管理意識をもって生徒の指導にあたった」:85%	B		
○健康かな身体を育む教育活動	・部活動の活性化を図ります。	生徒「部活動は充実していた」:87% 保護者「家庭や地域と連携し、基本的な生活習慣の育成に努めている」:88% 教員「部活動指導に意欲的、練習時間や約束を守る指導」:83%「生徒の健康管理や生活安全の意識は高まった」:70%「危機管理意識をもって生徒の指導にあたった」:85%	B	2年生の結果が他学年に対して低かった。部活動に取り組む期間も残り1学期間になるので、目標を持たせ、頑張れるよう支援していく。 学校地域合同防災学習やマイタイムライン(1年)、救命救急の講習(2年)などの学習を通し、生徒全体の防災や安全についての意識は高まっており、95%以上の生徒が、地域防災において中学生の役割が大切であると考えている。	・部活動は充実しており、基本的な生活習慣の育成に保護者の努力が見られ、よい状況だと思ふ。一方で、部活動での「目標をもって励む」、モチベーションの低下を感じる。生徒の可能性を見て、「やる気スイッチ」をONしてあげられるような指導の工夫を望む。 ・外部の活動を意欲的に取り組んでいる生徒は多い。 ・教員評価の「生徒の健康管理や生活安全の意識は高まった」70%が示すように、本項目の指標を部活動のみで図るのは少し難しいように思われる。次年度以降、学校保健活動による健康管理意識の高まりや、地域学校協働による校内見守り活動による生活安全環境の向上などを指標化することも検討してはどうか。 ・コロナ化を経て、生徒の健康管理に対する意識はもっと高いように感じるが、評価が低く驚きを感じる。
	・健康管理や生活安全への意識を高め、基本的な生活習慣の定着を図ります。	生徒「部活動は充実していた」:87% 保護者「家庭や地域と連携し、基本的な生活習慣の育成に努めている」:88% 教員「部活動指導に意欲的、練習時間や約束を守る指導」:83%「生徒の健康管理や生活安全の意識は高まった」:70%「危機管理意識をもって生徒の指導にあたった」:85%	B		
	・部活動の活性化を図ります。	生徒「部活動は充実していた」:87% 保護者「家庭や地域と連携し、基本的な生活習慣の育成に努めている」:88% 教員「部活動指導に意欲的、練習時間や約束を守る指導」:83%「生徒の健康管理や生活安全の意識は高まった」:70%「危機管理意識をもって生徒の指導にあたった」:85%	B		
○自然や地域と共生する力を育む教育活動 ・郷土の自然・歴史・先人の学習 ・地域資源の有効活用 ・SDGsの目標に向けた取組 ・地域に信頼される学校づくり	・地域の方々の協力を得て、郷土のよさに触れる体験活動を実施します。	生徒「地域や学校外の方とのふれあいで郷土のことがよくわかった」:90% 保護者「地域の協力を得て積極的に体験活動を取り入れている」:94% 教員「地域の自然や人・歴史・文化を生かした道徳、総合的な学習に取り組めた」95%「総合的な学習の時間に探究的な学習を展開した」:95% ふるさと学習、水環境学習、先人の学習の充実、地域人材や教材の活用、他	A	「ふるさと・生き方・人権」を総合的な学習の柱にし、3年間の系統的な取組が定着した。その中で地域学習や体験学習で常に地域の方々の協力を得ながら学習を推進した。総合的な学習の集大成となる「未来の高島市の創造」では、地域に愛着をもつ生徒の柔らかな発想で、持続可能なまちづくりについて提案できた。徐々に「学而事人」の教養を体現しようとする生徒が増えているが、さらに浸透させられるような取組を進めたい。 今後とも地域の方と共に郷土の教材を生かした教育活動を推進し、生徒の学びを深め、学校が好き、地域が好きと言える生徒を育成したい。 学校からの発信により、生徒の様子や学校の取組を理解していただくことができた。	・地域学校協働活動を軸に、毎年特色ある取組を熱心に行われていることはとても評価できる。本校に限らないが「将来の夢や目標を持っている59%」など、子どもたちが自分自身の将来を描く力を向上させるためには、学びだけでなく学びと実践の繰り返しが必要であると言われるため、地域の中で、社会の一員として役割を担う実践機会を増やすこと、実践機会が持てたかどうかを評価指標にすることも検討してみてもどうか。 ・おくげの花の会を中心とした開かれた学校づくりが進み、学校・地域が一体となってきている。地域住民と中学生と連携した防災訓練の実施など今後も実施することで更なる一体感が生まれると感じる。今後は、そういった取組を保護者等にも知ってもらえるような機会を増やすと保護者との連携も更に生まれるのではないだろうか? ・地域の方とのふれあいや地域での体験活動により、地域への愛着が高まっていると思う。地域と連携した教育活動が充実しており、十分な成果が上がっているように思う。 ・幼い時からの実際の体験が少ないため自己肯定感が乏しく、将来像を描けないのかと感じる。非認知能力を伸ばすために、地域人材を活用し、多くの経験の機会を与えてほしい。 ・地域と密に連携、通信等による丁寧な情報発信が素晴らしく、開かれた学校づくりへと発展している。オープンな学校の雰囲気によって、生徒の主体性、協働性を育む教育が自然と実践されている。
	・学而事人の教養を基礎にSDGs達成を目指し、よりよい社会をめざし、将来の自己実現を図る教育を展開します。	生徒「人の役に立つ人間になりたいと思う」:91%「将来の夢や目標をもっている」:59% 保護者「SDGsの達成に向けた教育ができている」:81% 教員「学活の時間は年間計画に沿って実施され、生徒は真剣に取り組んでいた」:80% 生き方学習、修学旅行、職場体験、志学の集い SDGsの達成に向けた指導、ふるさと学習、他	B		
	・コミュニティスクールを促進し、開かれた学校づくりを進めます。学校・地域(保護者)・生徒が一体となってよりよい町づくりをめざします。	保護者「コミュニティスクールを軸にして、地域学校教育活動を進めている」:87%「通信やHP等で生徒の様子を発信している」:90% 教員「地域に愛着を持ち、持続可能なまちの在り方について考えさせる」「学而事人の教養を浸透させ地域に貢献できる生徒を育成する」 あいさつ運動、学而事人ファーム、登下校や校外学習の見守り、学校図書ボランティア、学校地域連携カリキュラム、学校地域合同防災学習、学校運営協議会と地域学校協働事業一体的推進	A		

学校関係者評価	総 評	評価	学校関係者評価を踏まえての改善点
	学校生活に落ち着きがあり、教育活動全般に良い影響が出ているように思う。今後も、保護者・地域の人々とよい関係を築き、よりよい学校になるよう願う。全体を通じて、子どもたちの主体性や個性を大切にしたい教育実践が行われている。意見表明権等さまざまな「子どもの権利」に配慮した生徒指導や環境整備に取り組まれていることは大変評価できる。また、地域学校協働を中心に、地域に開かれた中学校として、地域に飛び出す中学生の姿を明確にし、具体的実践をされている点、地域の方がそれを知ってくださっている点についても大変評価できる。 子どもたちを取り巻く社会情勢は年々変化し、不登校やひきこもり、家族や地域の支え合い機能の低下など新たな社会課題も噴出する中で、子どもたちの生きる力を育む教育活動の継続と、地域での実践機会の増加をしていただきたいと思う。 地域の方々の存在が、生徒たちにとって大変身近で、先生や親以外に関わる大人の存在が生徒たちの安心できる気持ちにもつながっていると思う。学校側の学習に対する工夫がたくさん見られ、授業の充実につながっている。その充実感を学校外での学習に対するモチベーションになればなおよいと考える。 地域との協働を大切にしたい連携カリキュラムの実践がなされているが、できれば、小中連携を視野に入れた連携カリキュラムになっていくことを願う。	A	・生徒の学習活動を様々な形で支援いただいたり、毎朝笑顔で生徒を迎えてくださったりするおくげの花の会の皆さんの存在は計り知れないものがある。地域の方々の、自ら学而事人を体現されている姿から生徒が学ぶことも大きく、「してもらい側」から「する側」へと意識を高めていけるような活動を今後も仕組んでいきたいと考える。 ・「確かな学力」を身に付けることを目指し、非認知能力の育成や学びに向かう心を高められるような、学び合い(ペア)学習や自由進度学習等、各教科において授業改善を推進していきたい。そのために、教員のチームをつくり、宿題の出し方の工夫により家庭学習の定着を図ることや授業改善を進め、学力向上につなげられるようにしたい。 ・学校地域防災学習では、県の防災士のご指導を仰ぎながら、三角巾による応急処置の仕方などを学べた。また、おくげの花の会の皆さん等地域の方々とともに避難所運営についてのワークショップに取り組んだ。1年生のマイタイムラインの取組、2年生の救命救急講座と合わせ、防災への意識が高められた。日々の生活の中に、防災や安全に対する意識を定着させることで、保健安全全般にかかわっての行動力を高めていきたい。また、次年度以降も学校運営協議会と地域学校協働活動の一体的推進の中で、防災学習をはじめ、諸活動で様々な人と関わることを通して、生徒の非認知能力を高めることにつなげていきたい。 ・中高の連携が定着し、教員の高校の授業参観をはじめ、高校を訪問しての体験授業や高校の先生による出前授業を実現できたことは、生徒のキャリア発達において、大変有意義であった。今後も、持続可能な在り方を検討し、進めていきたい。また、学校地域連携カリキュラムでは、教科ごとのつながりを意識した実践により、カリキュラムマネジメントを推進させることができた。小学校とのつながりについては、今後、小中一貫教育の地域連携部会で進められるところを協議し、改善をしていきたい。